

クラス		受験番号	
出席番号		氏 名	

2014年度 第2回 全統マーク模試
学 習 の 手 引 き 【解答・解説集】

国語・地理歴史・公民

【2014年 8 月実施】

• 地理歴史

世界史B	1
日本史B	10
地 理B	18

• 公 民

現代社会	28
倫 理	39
政治・経済	51
倫理, 政治・経済	60

• 国 語 103

英語冊子巻末に「自己採点シート」と「学力アップ・志望校合格のための復習法」を掲載していますので、志望校合格へむけた効果的な復習のためにご活用ください。

河合塾



1460620119502090

【地理歴史】

世界史 B

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設 問		解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	A	問 1	①	④	3	
		問 2	②	③	2	
		問 3	③	④	3	
	B	問 4	④	③	3	
		問 5	⑤	①	3	
		問 6	⑥	②	3	
	C	問 7	⑦	①	3	
		問 8	⑧	②	3	
		問 9	⑨	②	2	
第1問 自己採点小計					(25)	
第2問	A	問 1	⑩	②	3	
		問 2	⑪	④	2	
		問 3	⑫	①	3	
	B	問 4	⑬	④	3	
		問 5	⑭	①	3	
		問 6	⑮	③	2	
	C	問 7	⑯	①	3	
		問 8	⑰	③	3	
		問 9	⑱	②	3	
第2問 自己採点小計					(25)	
第3問	A	問 1	⑲	①	2	
		問 2	⑳	④	3	
		問 3	㉑	③	3	
	B	問 4	㉒	②	3	
		問 5	㉓	③	2	
		問 6	㉔	②	3	
	C	問 7	㉕	①	3	
		問 8	㉖	②	3	
		問 9	㉗	②	3	
第3問 自己採点小計					(25)	

問題番号	設 問		解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第 4 問	A	問 1	㉘	④	3	
		問 2	㉙	②	3	
		問 3	㉚	③	3	
	B	問 4	㉛	④	3	
		問 5	㉜	②	2	
		問 6	㉝	③	3	
	C	問 7	㉞	③	3	
		問 8	㉟	①	2	
		問 9	㊱	②	3	
第 4 問 自己採点小計					(25)	
自己採点合計					(100)	

【解説】

第1問 世界史上の貨幣

【出題のねらい】

世界史上の貨幣をめぐる歴史について、Aでは古代オリエントやローマ帝国・ササン朝の貨幣を、Bでは中国の貨幣を、Cではグレシャムの法則を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 ① ④

④ア. 前7世紀に小アジア(アナトリア)で栄えたリディアはインド＝ヨーロッパ語系の国家で、世界最初の金属貨幣を使用したとされる。金属貨幣の使用はギリシア世界のポリスにも広まり、貨幣経済の普及をうながした。イ. 3世紀にササン朝を創始したのは、アルダシール(アルデシール)1世。ササン朝はパルティアに代わってイラン高原を支配した。

①㉔ア. 新バビロニア(カルデア)は、前7世紀から前6世紀にかけてメソポタミアを支配したセム語系の国家。前6世紀にヘブライ人のユダ王国を滅ぼし、住民をバビロンに強制移住させるバビロン捕囚を行った(第2問 問3㉔解説参照)。①㉔イ. ホスロー1世はササン朝最盛期の君主で、6世紀に突厥と同盟してエフタルを滅ぼし、ビザンツ(東ローマ)帝国のユスティニアヌス(大帝)とも抗争した。

問2 ㉒ ㉓

㉓a ユダヤ教がゾロアスター教の成立に影響を与えたのではなく、ゾロアスター教の最後の審判などの教義がユダヤ教に影響を与えた。b ユダヤ教は、

ヤハウェ(ヤーヴェ)のみを信仰する一神教で、選民思想やメシア(救世主)信仰などの特徴をもつ。のちにユダヤ教を母体にキリスト教が成立した。

問3 ③ ④

④コンスタンティヌス(1世)は4世紀前半にミラノ勅令を発して、キリスト教を、国教化したのではなく公認した。キリスト教が国教化されたのは、テオドシウスの時代の4世紀末。コンスタンティヌスは、ミラノ勅令後、小アジアのニケーアで最初の公会議を開催した。このニケーア公会議で、アタナシウス派が正統となり、アリウス派が異端とされた。

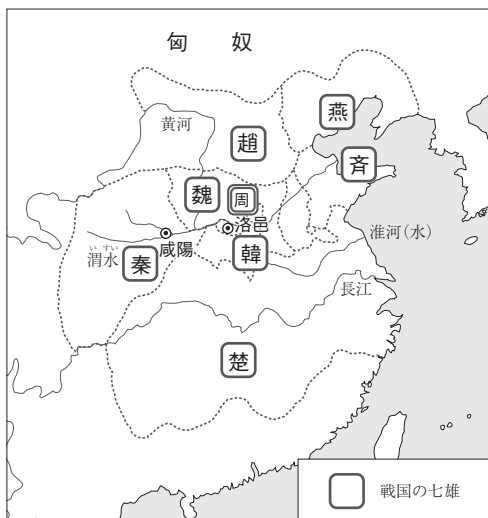
①②1世紀末から2世紀後半にかけて、五賢帝と呼ばれる5人の皇帝があらわれ、ローマ帝国は最盛期を迎えた。五賢帝とは、ネルウ(ヴ)ァ・トラヤヌス・ハドリアヌス・アントニヌス=ピウス・マルクス=アウレリウス=アントニヌスであり、2番目のトラヤヌスの時代にローマ帝国の領土は最大となった。最後のマルクス=アウレリウス=アントニヌスは、ストア派の哲人皇帝で『自省録』をのこした。③ディオクレティアヌスは、3世紀後半に即位して軍人皇帝時代を終わらせ、四分統治(四帝分治制、テトラルキア)を導入し、また皇帝崇拝を強制して、拒否したキリスト教徒を迫害するなど専制的な統治を行った。ディオクレティアヌスが始めた専制支配をドミナトゥス(専制君主政)という。

B

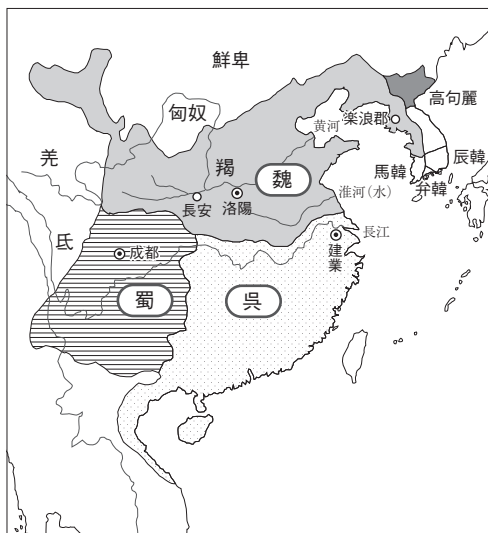
問4 ④ ③

③後漢が魏の曹丕(文帝)によって滅ばされると、四川に劉備が蜀を建国し、さらに江南に孫権によって呉が成立して、魏・蜀・呉が鼎立する三国時代となった。蜀は3世紀後半に魏によって滅ばされた。魏はその直後に臣下の司馬炎(武帝)に国を奪われ、司馬炎の建てた晋(西晋)が280年に呉を征服して中国を統一した。①春秋・戦国時代に燕が支配したのは、四川ではなく現在の北京付近を中心とした地域。燕は戦国の七雄の一つ。同じく戦国の七雄の一つであった秦が、戦国時代に陝西・四川を支配した。②前漢の武帝は前2世紀末に南越を滅ぼして、四川ではなく、中国南部からヴェトナム北部・中部にかけて南海郡や日南郡などを設置した。また朝鮮半島では衛氏朝鮮を滅ぼして、楽浪郡など4郡を置いた。④宋代に穀倉地帯になったのは、長江下流域の江南。宋代には、「湖広熟すれば天下足る」ではなく「蘇湖(江浙)熟すれば天下足る」といわれた。「湖広熟すれば天下足る」は、長江下流域に代わって長江中流域が穀倉地帯となった明後半以降の言葉。戦国の七雄と三国時代の魏・蜀・呉の位置について

は、次の地図を参照。



戦国時代の中国



三国時代の中国

問5 ⑤ ①

①黄河上流域にチベット系タングートの李元昊が西夏を建てたのは、11世紀前半の1038年。西夏は北宋と対立したが、北宋から銀や絹などの歳幣を受けることで講和した。②均田制にともなう税制である租庸調制が実施されたのは、隋・唐時代である。また、両税法に代わって租庸調制が実施されたのではなく、安史の乱後の8世紀後半に租庸調制に代わって両税法が実施された。両税法は、土地・資産に応じて現住地で年2回徴税する税制で、明の16世紀後半に一条鞭法が施行されるまで受けつがれた。③渤海ではなく遼(契丹)が、10世紀前半に五代の一つである後晋の建国を援助した代償として、現在の北京

を含む燕雲十六州を獲得した。渤海は7世紀末に中国東北地方に大祚榮によって建国されたが、10世紀前半に遼に滅ばされた。④昭明太子が『文選』を編纂したのは、南北朝時代の南朝の梁の時代で6世紀のこと。

問6 6 ②

② b オゴタイ＝ハンは、即位後の1234年に金を滅ぼした。またバトゥに西征(ヨーロッパ遠征)を実施させた。その後に即位したモンケ＝ハンの時代に、フラグによる西アジア遠征が行われ、1258年にバグダードを占領してアッバース朝を滅ぼした。続くフビライ＝ハンの時代には2度の日本遠征を試みたが、いずれも失敗した。

C

問7 7 ①

① テューダー朝は、バラ戦争を終結させたヘンリ7世が15世紀後半に創始した王朝。ヘンリ7世の次の国王であるヘンリ8世は、16世紀前半に首長法(国王至上法)を發布し、カトリック教会から分離してイギリス国教会を設立した。その後、メアリ1世がカトリックを復活させたが、エリザベス1世が統一法を發布してイギリス国教会が確立した。② プランタジネット朝は、アンジュー伯であったヘンリ2世が12世紀に創始した王朝。③ エリザベス1世の死によってテューダー朝が断絶すると、スコットランド王であったジェームズ6世が17世紀初めにイギリス(イングランド)王ジェームズ1世として即位し、ステュアート朝を開いた。④ ハノーヴァー朝は、アン女王の死によってステュアート朝が断絶したことを受けて、18世紀前半にジョージ1世が即位して成立した王朝で、20世紀前半にウィンザー朝と改称した。

問8 8 ②

② 明の、永楽帝時代ではなく万暦帝(神宗)時代の16世紀後半に、内閣大学士の張居正は、財政再建を試みた。張居正の改革によって明の財政は改善されたが、その死後、豊臣秀吉の侵略を受けた朝鮮王朝(李氏朝鮮、李朝)への救援などによって財政は急速

に悪化した。永楽帝は、靖難の役で建文帝を倒して即位した明の15世紀前半の皇帝。③ 北宋の神宗は、11世紀後半に王安石を登用して、農民に低利融資を行う青苗法や中小商人に低利融資を行う市易法など富国強兵をはかる新法を実施した。しかし王安石の改革は、司馬光ら旧法党の反対などによってその目的を達することができなかった。④ フランスの重農主義者のテュルゴーは、18世紀後半のルイ16世の時代に財務総監となって財政再建を試みたが、貴族など特権身分の反対で挫折した。⑤ イギリスのアダム＝スミスは、18世紀後半に『諸国民の富(国富論)』を著して自由放任主義を提唱し、古典派(古典学派)経済学を創始した。

問9 9 ②

② a 中世ヨーロッパのフランドル地方では、毛織物業がさかんで、フランドル地方のブリュージュやガンでは高品質の毛織物が生産された。フランドル地方は現在のベルギーを中心とした地域。b 18世紀前半に飛び杼(梭)を発明したのは、カートライトではなくジョン＝ケイ。飛び杼は布を織る作業工程の能率を上げ、のちに木綿工業に利用されて綿織物の生産量を急速に増大させた。カートライトは18世紀後半に力織機を発明した。産業革命期のおもな発明・改良・実用化については下の表を参照。

第2問 人間と植物とのかかわり

【出題のねらい】

人間と植物とのかかわりについて、Aでは薬用植物と薬学の歴史を、Bではアメリカ大陸原産の植物の伝播を、Cでは森林や木材と人間の生活との関係を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 10 ②

② 明末には実学(経世致用の学)がさかんになり、李時珍が薬学に関する『本草綱目』を著したほか、徐光啓が農業に関する『農政全書』を、宋応星が産業技術の解説書の『天工開物』を著した。③ 孔穎達は、唐

18世紀	飛び杼(梭)	ジョン＝ケイ(英)	蒸気機関の実用化	ニューコメン(英)
	ジェニー(多軸)紡績機	ハーグリーブズ(英)		
	水力紡績機	アークライト(英)	蒸気機関の改良	ワット(英)
	ミュール紡績機	クロンプトン(英)		
	力織機	カートライト(英)		
19世紀	綿繰り機	ホイットニー(米)	蒸気船	フルトン(米)
			蒸気機関車	ステイーヴンソン(英)

産業革命期のおもな発明・改良・実用化

初に五経の注釈書である『五経正義』を編纂した儒学者。③郭守敬は、元代にイスラーム天文学の影響を受けて授時暦を作成した。授時暦は日本の江戸時代の貞享暦に影響を与えた。④顧炎武は明末清初の学者で、古典を客観的・実証的に研究しようとする考証学の基礎を築いた。

問2 11 ④

④ **b** 古代ギリシアのアテネでは前6世紀半ば、ペイシストラトスが非合法的に政権を獲得して僭主政治を行い、貴族の土地を没収して貧民に分配した。**c** 前500年のイオニア植民市の反乱を契機にギリシアのポリスとアケメネス朝との間にペルシア戦争が勃発し、前490年のマラ톤の戦いでアテネの重装歩兵軍団がペルシア軍を破った。**a** アリストファネスはアテネの喜劇作家で、『女の平和』を著して、前5世紀後半に始まったペロポネソス戦争を風刺した。

問3 12 ①

① 古代ローマでは、前4世紀にリキニウス・セクスティウス法が制定され、コンスル(執政官、統領)2名のうち1名は平民(プレブス)から選出されることと、大土地所有(公有地占有)の制限が決定された。②セム語系のヘブライ人は前1000年頃に王国を建て、ダヴィデ・ソロモンの時代にエルサレムを都として全盛期を迎えた。しかし、ソロモン死後の前10世紀後半に北のイスラエル王国と南のユダ王国とに分裂し、イスラエル王国は前8世紀にアッシリアに滅ばされた。またユダ王国は前6世紀に新バビロニアに滅ばされて、住民の多くがバビロンに強制移住させられた。これをバビロン捕囚と呼ぶ。③ヒッタイトはインド＝ヨーロッパ語系の民族で、前17世紀に小アジアに建国し、前16世紀にはバビロン第1王朝(古バビロニア王国)を滅ばした。その後、シリアに進出してエジプト新王国と争うなど全盛期を迎えたが、前12世紀頃に「海の民」の侵入によって滅亡した。なおヒッタイトは、鉄製武器を初めて使用したとされる。④現在確認できる中国最古の王朝である殷が黄河流域に興ったのは、前16世紀頃のこと。殷では神意を占って、その結果にもとづいて政治を行った。殷後期の都の遺跡である殷墟からは、占いの結果を甲骨文字で刻んだ亀甲・獣骨などが発見されている。殷は前11世紀に周に滅ばされた。

B

問4 13 ④

④ **a** イギリスがフランスからカナダとミシシッピ川以東のルイジアナを獲得したのは、ユトレヒト条約ではなく18世紀後半のパリ条約による。パリ条約

は、ヨーロッパで起こった七年戦争と、それと並行して北アメリカで戦われたフレンチ＝インディアン戦争などの講和条約。18世紀前半のユトレヒト条約は、スペイン継承戦争と、それと並行して北アメリカで勃発した戦争の講和条約で、イギリスは、スペインからジブラルタルを、フランスからニューファンドランドなどを、それぞれ獲得した。**b** 18世紀後半のアメリカ独立戦争は、ヨークタウンの戦いではなくレキシントンの戦いを機に勃発した。ヨークタウンの戦いは、イギリスが敗北して独立戦争のアメリカ側の勝利が事実上決定した戦い。

問5 14 ①

① ロシアの起源とされるノヴゴロド国は、ロロではなく、ノルマン人の一派ルーシ(ルス)のリューリク(ルーリック)が9世紀後半に建てた。ロロはノルマン人の首長で、10世紀前半に北フランスにノルマンディー公国を建てた。② 9世紀に成立したキエフ公国は、10世紀のウラディミル1世の時代にギリシア正教に改宗した。③ ポーランドとリトアニアは、ドイツ騎士団に対抗するために、14世紀後半に連合してヤゲウォ(ヤゲロー)朝を成立させた。④ ロシアのロマノフ朝のエカチェリーナ2世は、18世紀後半に日本にラクスマンを派遣した。また啓蒙専制(絶対)君主としても知られるが、プガチョフの反乱を鎮圧すると反動化して農奴制を強化した。

問6 15 ③

③ アンデス高原を中心に繁栄したインカ帝国(インカ文明)は、**a**. クスコを都とし、マチュピチュなどの都市を建設した。また、キープ(結縄)で数量を記録するなど特色ある文明を築いたが、16世紀前半にスペインの**i**. ピサロに滅ばされた。①②**a**. テノチティランは、メキシコ高原を中心に栄えたアステカ帝国(アステカ文明)の都。②④**i**. コルテスは、16世紀前半にアステカ帝国を滅ばしてメキシコを征服したスペイン人。

C

問7 16 ①

① **a** 18世紀のプロイセンのフリードリヒ2世(大王)は、フランスの啓蒙思想家ヴォルテールと親交があった啓蒙専制君主で、都のベルリン郊外にロココ式建築として知られるサンスーシ宮殿を建設した。**b** ゴシック様式は、ステンドグラスや尖頭アーチを特色とする中世ヨーロッパの教会建築で、ドイツのケルン大聖堂、フランスのシャルトル大聖堂やパリのノートルダム大聖堂などが有名である。

問8 17 ③

③ **a**. マリ王国は、13世紀から15世紀にアフリカ

西部のニジェール川中・上流域を支配した国で、イスラーム教を受容し、14世紀のマンサ＝ムーサの時代に最盛期を迎えた。ニジェール川流域の都市トンブクトゥは、サハラ岩塩とニジェール川流域の金を交換するサハラ縦断交易で、マリ王国やソンガイ王国の時代に繁栄した。イ・モノモタパ王国は、11世紀から19世紀にアフリカ南部のジンバブエ遺跡のあるザンベジ川流域を支配した国で、インド洋交易で繁栄した。①②ア・マラケシュはアフリカ北部のモロッコの都市で、ベルベル人が建てたムラービト朝・ムワッヒド朝の都となった。②④イ・クシュ王国は、前10世紀頃にナイル川上流に成立した黒人国家で、前7世紀以降はメロエに都を置いた。4世紀にアクスム王国(エチオピア王国)に滅ぼされた。16世紀までのおもなアフリカの都市については、次の地図を参照。



16世紀までのおもなアフリカの都市
(古代エジプト文明を除く)

問9 18 ②

② a 6世紀に、ベネディクトゥスはイタリア中部のモンテ＝カシノに修道院を創設した。彼は、「祈り、かつ働け」を掲げて厳しい戒律を修道士に課した。c 10世紀にフランスに創建されたクリュニー修道院は、聖職売買や聖職者の妻帯を批判し、11世紀に始まる叙任権闘争に影響を与えた。b マテオ＝リッチはイエズス会(ジェズイット教団)の宣教師で、16世紀後半に中国に入り、明代の中国でカトリックを布教するとともに、世界地図の『坤輿万国全図』を作製し、また徐光啓とともに『幾何原本』を

著した。明・清代に中国を訪れたイエズス会の宣教師については、次の表を参照。

マテオ＝リッチ	明末	『坤輿万国全図』(世界地図) 『幾何原本』(徐光啓と共著)
アダム＝シャル	明末清初	『崇禎曆書』(徐光啓らと編纂)
フェルピースト	清初	
ブーヴェ	清	『皇輿全覧図』(実測の中国地図)
カスティリオーネ	清	円明園の設計に参加

明・清代に中国を訪れたイエズス会宣教師

第3問 世界史上の島

【出題のねらい】

世界史上の島について、Aではシチリア島を、Bではジャワ島を、Cでは台湾を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 19 ①

① オケオは、トゥングー朝ではなく、1世紀から2世紀にメコン川下流に成立した東南アジア最古の本格的な国家である扶南の外港とされ、中継貿易で栄えた。トゥングー朝は、16世紀から18世紀のミャンマー(ビルマ)の王朝。② ムスリム(イスラーム教徒)商人は、ダウ船と呼ばれる三角帆の船を用いてインド洋交易で活躍した。なお、中国商人が用いた船はジャンク船である。③ 中国では、唐代になるとムスリム商人の来航が増加したため、海上交易を管理する官庁として広州に市舶司が置かれた。海上交易がさらに発展した宋代には、杭州や泉州などにも市舶司が設置された。④ 12世紀に日本で成立した平氏政権は、日宋貿易を行い、宋から銅銭・陶磁器を輸入した。1世紀から19世紀の東南アジアの国家・王朝については、次ページの表を参照。

問2 20 ④

④ ア・中世ヨーロッパの大学は、学生や教授による一種のギルドで、11世紀末頃に北イタリアに成立したボローニャ大学は、法学で有名であった。イ・『神学大全』を著してスコラ哲学(スコラ学)を大成したのは、13世紀のトマス＝アクィナスである。①② ア・南イタリアのサレルノ大学は、医学で有名。③ イ・アルクインは、8世紀から9世紀のイギリスの神学者で、フランク王国のカルル大帝(シャルルマーニュ)に招かれてラテン語の教育などにつとめ

た。カール大帝の時代の文化復興運動を、カロリング＝ルネサンスという。

問3 21 ③

③ ルイ14世の宰相マザランは、17世紀半ばに起こった貴族などの反乱であるフロンドの乱を鎮圧し、中央集権化を進めた。①カペー朝のフィリップ4世は、ローマ教皇のウルバヌス2世ではなくボニファティウス8世と、聖職者に対する課税問題で対立し、14世紀初めに聖職者・貴族・市民の代表が参加する身分制議会の三部会を初めて招集して、国内の支持を獲得し、王権を強化した。そしてボニファティウス8世を幽閉するアナーニ事件を起こした。その後フィリップ4世は、教皇庁をローマからアヴィニョンに移す「教皇のバビロン捕囚」を行った。ウルバヌス2世は、11世紀末にクレルモン宗教会議（公会議）を開催し、十字軍を提唱した教皇。②16世紀後半、フランスでは、カトリック教徒とカルヴァン派のユグノーの対立が激化してユグノー戦争が勃発した。戦争中、ユグノーが多数のカトリック教徒を虐殺したのではなく、カトリック教徒が多数のユグノーを虐殺したサンバルテルミの虐殺が起こった。この戦争中にヴァロワ朝は断絶し、新たにブルボン朝を開いたアンリ4世は、ユグノーからカトリックに改宗し、16世紀末にナントの王令（勅令）を発してユグノーにも個人の信仰の自由を認めてユグノー戦争を終わらせた。④フランスでは、ブルボン朝期の1789年にフランス革命が勃発し、国民議会の時代ではなく国民公会の時代の1792年に王政の廃止が宣言されて、第一共和政が成立し、翌年ルイ16世は処刑された。国民議会は、1789年に第三身分が三部会から分離して成立した議会。1791年に国民議会に代わって立法議会が成立し、さらに1792年に8月10日事件をへて国民公会に代わった。

B

問4 22 ②

② a フィリピンには、16世紀前半にスペイン王の支援を受けたマゼラン（マガリャンイス）の一行が到達した。その後フィリピンはスペインの植民地とされ、スペインは16世紀後半にマニラを建設してアジア経営の拠点とした。b スマトラ島には、南詔ではなく、7世紀から14世紀にかけてシュリーヴィジャヤが存在していた。シュリーヴィジャヤは海上交通の要衝を支配して繁栄し、大乘仏教がさかんであった。さらに15世紀末には、スマトラ島にイスラーム教国のアチェ王国が成立した。南詔は、中国の雲南に成立した国家で、8世紀から9世紀が最盛期であった。唐の文化をとり入れて繁栄したが、10世紀に滅亡した。

問5 23 ③

③ グプタ様式の壁画で有名なアジャンター石窟寺院はcに位置する。グプタ様式は、4世紀から6世紀にかけてのグプタ朝時代に発達した純インド的美術様式である。①aはクシャーナ朝の都プルシャプラ。プルシャプラはガンダーラ地方の中心都市で、1世紀から3世紀のクシャーナ朝の時代にこの地域では、ヘレニズム文化の影響を受けたガンダーラ美術と呼ばれる仏教美術が栄え、仏像が制作された。②bはインダス川下流域のモエンジョ＝ダエロで、インダス文明の遺跡が発見された地である。④dはガンジス川中流域のパータリプトラで、マウリヤ朝などの都である。

問6 24 ②

② イベリア半島では11世紀以降、キリスト教徒による国土回復運動（レコンキスタ）が本格化した。ナスル朝は13世紀に成立したイベリア半島最後のイスラーム王朝で、アラゴンとカスティリヤが統合して

	1 C	7 C	11 C	13 C	15 C	17 C	18 C	19 C
中国	後漢		唐	宋	元	明	清	
ヴェトナム 北部			李朝	陳朝			黎朝	阮朝
カンボジア	扶南		真臘					
タイ		ドヴァーラヴァティ				アユタヤ朝		ラタナコーシン朝
ミャンマー(ビルマ)		ピュー	パガン朝			トウングー朝	コンバウン朝	
マレー半島					マラッカ王国			
スマトラ島			シュリーヴィジャヤ				アチェ王国	
ジャワ島		ジャイェンドラ朝	クディリ朝	シンガサリ朝	マジャパヒト王国	バンテン王国	マタラム王国	

1～19世紀の東南アジアの国家・王朝

成立したスペイン王国によって、1492年に都のグラナダが陥落して滅亡した。ここに国土回復運動は完了した。①ウマイヤ朝の成立は7世紀後半である。第4代の正統カリフであったアリーが暗殺されると、彼と対立していたシリア総督のムアーウィヤがカリフの地位につき、ダマスカスに都を置いてウマイヤ朝を樹立した。以後、カリフの地位は世襲となった。③ファーティマ朝がエジプトに新都カイロを建設したのは、10世紀である。ファーティマ朝は、10世紀にチュニアで建国され、その後エジプトに進出したシーア派王朝で、建国当初からカリフを称し、アッバース朝や、同じくカリフを称した後ウマイヤ朝と対立した。④ムガル帝国のアクバルは16世紀後半から17世紀初めにかけての皇帝で、非イスラーム教徒に対する人頭税(ジズヤ)を廃止してヒンドゥー教徒との融和につとめた。

C

問7 [25] ①

①ア. 鄭成功は、明滅亡後の17世紀後半に台湾からオランダを排除して、反清復明の拠点とした。この鄭成功に始まる台湾の政権を鄭氏台湾という。イ. 清の康熙帝は、鄭氏台湾に打撃を与えるために厳しい海禁政策をとり、台湾を制圧して鄭氏を降伏させ、この地を直轄領として支配した。③④ア. 呉三桂は、明に仕えた武将であったが、明滅亡後は清に降り、清の北京入城と中国平定に協力し、その功績によって藩王に封じられた。その後、康熙帝が藩王の勢力削減にのりだしたため、呉三桂らは三藩の乱を起こしたが鎮圧された。②④イ. 雍正帝は康熙帝の次の清の皇帝で、キリスト教の布教禁止、ロシアとのキャプタ条約締結、軍機処の設置などを行った。

問8 [26] ②

② a 14世紀後半に明を建てた洪武帝(朱元璋)は、村落統治制度として里甲制を実施し、土地台帳の魚鱗図冊や租税台帳の賦役黄冊を整備した。b 明の永楽帝が設置した内閣大学士は、藩部を統括したのではなく皇帝を補佐した。藩部は、清の間接支配を受けたモンゴル・青海・チベット・新疆の地域で、清の中央官庁である理藩院に統括され、自治を認められた。

問9 [27] ②

② 倭寇撃退に活躍して台頭した李成桂は、14世紀末に高麗を倒して朝鮮王朝を創始した。朝鮮王朝では、朱子学が官学とされた。①朝鮮王朝は、慶州ではなく漢陽(漢城、現在のソウル)を都とした。慶州は新羅の都で、新羅は7世紀に朝鮮半島の大部分を

統一した。③骨品制は、朝鮮王朝ではなく新羅の特権的身分制度である。高麗と朝鮮王朝では、高級官僚を独占した特権的支配階級の両班が形成された。④4世紀末から5世紀前半の広開土王(好太王)は、高句麗の王で、その事績を記念した石碑が広開土王碑である。

第4問 歴史上の宗教結社や秘密結社

【出題のねらい】

歴史上の宗教結社や秘密結社について、Aでは中国の太平道を、Bではイスラーム教のメヴレヴィー教団を、Cではヨーロッパの薔薇十字団を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 [28] ④

④後漢末には、呪術による病氣治癒などを説くイ. 張角が、宗教結社のア. 太平道を創始して農民に支持され、2世紀後半に黄巾の乱を起こしたが鎮圧された。①②ア. 白蓮教は弥勒仏があらわれて人々を救ってくれるとする仏教系の宗教結社で、元末の紅巾の乱(白蓮教徒の乱)の中心となり、さらに清代の18世紀末から19世紀初めにも反乱を起こした。①③イ. 安祿山は、8世紀半ばの唐の玄宗時代に安史の乱を起こした節度使。

問2 [29] ②

②司馬遷が『史記』を著したのは、前漢の武帝時代で前2世紀から前1世紀にかけてのことである。『史記』は、本紀と列伝を中心とした歴史記述の方法である紀伝体で書かれ、以後、紀伝体は王朝公認の歴史書の形式となった。①班超が西域都護として西域経営に活躍したのは、前漢ではなく後漢時代の1世紀末頃。③前漢を滅ぼしたのは外戚出身の王莽であるが、王莽が建てたのは後漢ではなく新。新は農民反乱の赤眉の乱をきっかけに滅び、劉秀(光武帝)が漢を復興して後漢を建てた。④土地制度の均田制や村落制度の三長制が開始されたのは、後漢ではなく北魏の孝文帝の時代で、5世紀後半のこと。均田制はその後、隋や唐にも受け継がれた。

問3 [30] ③

③ a 剣奴に指導されたスパルタクスの反乱は、帝政ローマ時代ではなく共和政ローマ時代の前1世紀に起こった。b ロマノフ朝のロシアでは17世紀後半に、コサックのステンカ=ラーズンに率いられた農民反乱が起こったが、鎮圧された。コサックはロシアの辺境地帯に住む騎馬の戦士集団。

B

問4 31 ④

④ a イスラム暦(ヒジュラ暦)の紀元元年は、ムハンマド(マホメット)の死去した年ではなく、ムハンマドが迫害を避けてメッカからメディナに逃れたヒジュラ(聖遷)の年である622年。b イスラム教で信者の義務とされるのは、八正道ではなく六信五行。すなわちアッラー・天使・啓典(『コーラン(クルアーン)』)・預言者・来世・天命の6つを信じることが六信、信仰告白・礼拝・断食・喜捨・巡礼の5つを行うことが五行である。八正道は仏教の修行方法。

問5 32 ②

② 古代ローマにおいて、平民会からではなく元老院から、アウグストゥス(尊厳者)の称号を与えられたのは、カエサル(シーザー)ではなくオクタウ(ヴ)リアヌス。オクタウリアヌスは「第一の市民」を意味するプリンケプスを自称し、共和政の伝統を尊重して元老院との共同統治の形式をとりつつ、事実上の帝政を開始した。この統治体制はプリンキパトゥス(元首政)と呼ばれる。カエサルは、共和政末期にポンペイウス・クラッススと結んで第1回三頭政治を行ったが、クラッススの死後、ポンペイウスを破って独裁化し、共和派に暗殺された。なお、オクタウリアヌスはカエサルの養子で、アントニウス・レピドゥスとともに第2回三頭政治を行った。

① 匈奴は前4世紀頃からモンゴル高原で活躍した騎馬遊牧民で、君主の称号として単于を使用した。冒頓単于の時代には前漢の高祖(劉邦)を破ったが、その後、武帝の攻撃と内紛で分裂・衰退した。③ モスクワ大公国のイヴァン3世は、15世紀後半にモンゴルのキプチャク＝ハン国から自立し、ビザンツ帝国の後継者として皇帝を意味するツァーリの称号を使用した。④ 16世紀後半、韃靼(タタール)のアルタン＝ハンは、チベットに遠征したさい、チベット仏教(ラマ教)の黄帽派(黄教)に帰依し、その高僧にダライ＝ラマの称号を贈った。黄帽派は、14世紀にツォンカバが改革したチベット仏教の一派で、のちにチベット仏教の主流となった。

問6 33 ③

③ 16世紀前半、オスマン帝国全盛期のスルタンであるスレイマン1世は、神聖ローマ帝国のc ウィーンを包囲し、神聖ローマ皇帝カール5世を圧迫した。① a はフランスのパリ、② b はイタリアのローマ、④ d はポーランドのワルシャワ。

C

問7 34 ③

③ ヴァ(ワ)レンシュタインは、新教徒側ではなく、神聖ローマ皇帝の傭兵隊長として旧教徒側で戦った。① ② ④ 三十年戦争は1618年にベーメン(ボヘミア)で起こった新教徒の反乱から始まり、諸国が介入して国際戦争となった。デンマーク王やスウェーデンのグスタフ＝アドルフが新教徒を支援し、旧教国のフランスも反ハプスブルク家の立場から新教徒側を支援した。1648年にウェストファリア条約が結ばれて戦争は終結し、ドイツでカルヴァン派の信仰が認められた。またドイツの領邦に主権が認められ、神聖ローマ帝国は有名無実化した。

問8 35 ①

① ドイツのマルティン＝ルターは、16世紀前半にローマ教皇レオ10世が認めた贖宥状(免罪符)の販売を批判して九十五カ条の論題を発表し、これが宗教改革の始まりとなった。② カルヴァンは、救いはあらかじめ神によって定められているとする予定説をとえ、スイスのジュネーヴで16世紀半ばに神政政治(神権政治)を行った。結果的に蓄財を肯定するその立場は、新興の市民階級に受け入れられて各地に広まった。③ ベーメンのフスは、イギリスのウィクリフの影響を受けてカトリック教会の改革を訴えたが、15世紀前半にコンスタンツ公会議(宗教会議)で異端とされ、火刑に処せられた。④ ツヴィングリは、16世紀前半にスイスのチューリヒで宗教改革を行った。

問9 36 ②

② ア・スピノザは、17世紀オランダのイ・合理論の哲学者。合理論は確実な知識の出発点を理性に求め、明証的な原理から論理的に知識を導き出す演繹法を方法とした。③ ④ ア・ニュートンは、17世紀から18世紀のイギリスの数学者・物理学者。万有引力の法則の発見で古典力学を確立した。① ③ イ・唯名論(名目論)は、中世のスコラ哲学の普遍論争において、実在するものは個々の事物だけであり、普遍は抽象にすぎないとしたアベラールらの立場で、普遍が実在するとしたアンセルムスらの実在論と対立した。17世紀から18世紀のヨーロッパの哲学・政治思想・経済学については、次ページの表を参照。

哲 学	フランシス＝ベーコン	英	経験論 帰納法
	デカルト	仏	合理論 演繹法 『方法叙説』 「われ思う，ゆえにわれあり」
	スピノザ	蘭	合理論
	ライプニッツ	独	合理論
	パスカル	仏	『パンセ(瞑想録)』
政 治 思 想	カント	独	ドイツ観念論 『純粹理性批判』
	ボッシュエ	仏	王権神授説
	グロティウス	蘭	自然法 『海洋自由論』『戦争と平和の法』 「国際法の祖」「近代自然法の父」
	ホッブズ	英	社会契約説 『リヴァイアサン』 「万人の万人に対する闘争」
	ロック	英	社会契約説 『統治二論(市民政府二論)』
	モンテスキュー	仏	啓蒙思想 『法の精神』 三権分立
	ヴォルテール	仏	啓蒙思想 『哲学書簡(イギリスだより)』
	ルソー	仏	啓蒙思想 『人間不平等起源論』『社会契約論』
	ディドロ	仏	啓蒙思想 『百科全書』
経 済 学	ダランベール	仏	啓蒙思想 『百科全書』
	ケネー	仏	重農主義 『経済表』
	テュルゴー	仏	重農主義
	アダム＝スミス	英	古典派(古典学派)経済学 『国富論(諸国民の富)』

17～18世紀のヨーロッパの哲学・政治思想・経済学

●写真・図版提供

PPS 通信社

日本史 B

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設 問		解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	A	問 1	①	②	3	
		問 2	②	①	3	
		問 3	③	④	3	
	B	問 4	④	②	3	
		問 5	⑤	②	3	
		問 6	⑥	③	3	
第 1 問 自己採点小計				(18)		
第2問	A	問 1	⑦	①	3	
		問 2	⑧	③	3	
		問 3	⑨	①	3	
		問 4	⑩	④	3	
	B	問 5	⑪	②	2	
		問 6	⑫	④	3	
		問 7	⑬	⑤	3	
第 2 問 自己採点小計				(20)		
第3問	A	問 1	⑭	①	3	
		問 2	⑮	②	3	
		問 3	⑯	②	3	
	B	問 4	⑰	③	2	
		問 5	⑱	③	3	
	C	問 6	⑲	①	2	
		問 7	⑳	②	2	
		問 8	㉑	④	3	
第 3 問 自己採点小計				(21)		
第4問	A	問 1	㉒	④	2	
		問 2	㉓	④	3	
		問 3	㉔	③	3	
	B	問 4	㉕	②	3	
		問 5	㉖	①	3	
		問 6	㉗	③	3	
		問 7	㉘	⑤	3	
第 4 問 自己採点小計				(20)		

問題 番号	設 問	解 番 号	正解	配点	自己採点
第5問	A	問 1	㉔	2	
		問 2	㉓	3	
		問 3	㉒	3	
		問 4	㉑	3	
	B	問 5	㉐	2	
		問 6	㉏	2	
		問 7	㉎	3	
		問 8	㉍	3	
第5問 自己採点小計			(21)		
自己採点合計			(100)		

【解説】

第1問 古代～近世の都市民の生活

【出題のねらい】

センター試験の第1問では、特定のテーマに関する会話文を用いた出題がなされることが多い。そこで本問でも、高校生と博物館の学芸員による会話文という形式で問題文を構成した。テーマは「古代～近世の都市民の生活」であり、古代・中世では京都(平安京)を、近世では江戸をとりあげ、政治史・社会経済史・文化史などの総合問題として出題した。テーマはやや特殊であるが、基本的な知識で正解が導けるようになっている。テーマの内容に惑わされることなく、落ち着いて各設問に取り組んでほしい。

【設問別解説】

A 古代・中世の京都(平安京)に焦点をあて、古代の政治・文化、中世の経済などをあつかった。

問1 ① ㉚

正しい組合せは㉚。空欄アには、右京が入る。平安京は、都の中央を南北に走る朱雀大路で東の左京と西の右京に分けられ、平城京の構造と似ている。右京ははやくからさびれ、左京と洛東がにぎわった。空欄イには、清少納言の作品なので枕草子が入る。『枕草子』は、平安時代中期の国風文化期に書かれた清少納言の随筆集である。『源氏物語』は、同じく平安時代中期の国風文化期に書かれた紫式部の長編小説である。

問2 ㉛ ㉜

正しい組合せは㉜。X「調・庸などの貢納物を中央政府へ運搬した」負担は、運脚(a)とよばれた。運脚は諸国の正丁の負担で、食料も自弁であった。

bの駅家は律令制下の駅制で、都と地方の国府を結ぶ駅路に約16 km ごとにおかれ、一定数の駅馬などが配された。**Y**「50戸につき2人の割合で徴発され、中央政府の雑用に使役された」のは、仕丁(**c**)である。ただし、仕丁はセンター試験レベルではやや詳細な知識なので覚える必要はない。**d**の雑徭が、国司の命令によって年間60日間を限度に奉仕する地方の労役であることを知っていれば、消去法で正解できる。

問3 **3** ④

正しい組合せは④。**a**は誤っている。鎌倉時代の定期市は、月に3度ひらかれる三斎市で、月に6回ひらかれる六斎市が一般化するの、室町時代の応仁の乱ごろからである。**b**は正しい。鎌倉時代、各地の港や大河川沿いの交通の要地には、年貢物の保管や運送を業とする問(問丸)が発達した。**c**は誤っている。連雀商人や振売は、行商人の呼称である。室町時代の金融業者は、土倉や酒屋などである。**d**は正しい。室町時代、京都などの大都市では、見世棚(店棚)をかまえた常設の小売店が一般化し、京都の米場や淀の魚市などのように、特定の商品だけをあつかう専門市場も生まれた。

B 近世の大都市江戸を素材とし、江戸時代の町的生活や城下町の図版読み取り問題、そして江戸幕府の都市政策などについて確認した。

問4 **4** ②

正しい組合せは②。**X**は正しい。町人は、屋敷の間口に応じた地子を納めることになっていたが、地子は商工業振興のため免除されることが多く、負担額もわずかであった。**Y**は誤っている。土地や屋敷をもつ地主や家持は、町の運営に参加できたが、屋敷地を借りている地借や借家住まいの店借は、町の運営に参加できなかった。

問5 **5** ②

誤っているのは②。城郭周辺の武家地の道は、軍事上、屈曲した道も多くつくられた。図版からも読みとれる。①は正しい。城郭は領主の居館・藩の政庁・軍事施設であり、その周辺には武家地が設置された。③は正しい。町人地の多くは、街道沿いや河川など交通の要衝に配置され、他領や藩内の領地とを結ぶ経済活動の中心となった。④は正しい。寺社地の多くは、今回とりあげた城下町図のように、外縁部に設けられることが多かった。

問6 **6** ③

正しい配列は③。年代配列問題は、各文から時代を特定するためのキーワードを見つけたことが肝要である。**I**「石川島に人足寄場を設け」から、老

中の松平定信が主導した寛政の改革に関する文と判断したい。定信は、江戸へ流入した貧農に対し、旧里帰農令で帰村を奨励する一方、石川島に人足寄場を設け、無宿人を強制的に収容し、技術を身につけさせ職業をもたせようとした。**II**「町奉行の大岡忠相」や「町火消を整備」から、徳川吉宗が主導した享保の改革に関する文と判断したい。享保の改革期の江戸の都市政策は、町奉行の大岡忠相によって進められ、広小路・火除地などの防火施設が設置されたり、町方独自の町火消が組織された。**III**「老中水野忠邦」から、天保の改革に関する文と判断したい。天保の改革を主導した老中の水野忠邦は、将軍や大奥も含めた断固たる儉約令を発し、ぜいたく品や華美な服装を禁じ、庶民の風俗も厳しく取り締まった。以上より、享保の改革→寛政の改革→天保の改革の順番を知っていれば、**II—I—III**(③)を正解として選択できたであろう。

第2問 原始・古代の軍事

【出題のねらい】

日本の歴史上、いつの時代にも大規模な戦闘・戦乱が起こって、時代が大きく変化していくことがある。本問はそうした個々の戦乱の基礎となる軍事制度の変遷を、弥生時代から院政期の範囲で概観し、各時期の軍事に関わる重要事項をあつかった。

【設問別解説】

A 戦乱が始まった弥生時代から、小国の成立・統合が進み、やがて邪馬台国連合の段階を経て、古墳時代にヤマト政権とよばれる統一政権が形成された。ヤマト政権の軍事制度については、まだ明らかでない部分が多いが、その後に成立した律令国家は、画一的な軍事制度を確立させた。

問1 **7** ①

正しいのは①。弥生時代には、濠や土塁をめぐらした環濠集落など、防御的集落がつくられた。瀬戸内海沿岸を中心とする西日本に多く分布する高地性集落も戦争に備えた逃げ城的な集落と考えられている。②は誤っている。騎馬技術は、4世紀末以降の高句麗との戦いを通じて学んだようで、それまでは倭人に乗馬の風習はなかった。古墳においても馬具が副葬されるようになるのは、古墳時代中期の5世紀ころからである。③は誤っている。銅剣や銅鐔などの青銅器は、主に祭器や宝器に用いられた。④は誤っている。弓矢は縄文時代を特徴づける道具の一つで、弥生時代にはじめて発明された道具ではない。

問2 **8** ③

正しい組合せは⑨。Xは誤っている。倭の五王が、朝鮮半島南部における外交・軍事上の立場を強化するため相次いで朝貢したのは、中国の北朝ではなく南朝である。Yは正しい。倭王武は、雄略天皇と推定されており、埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣に刻まれた「ワカタケル大王」と読める文字は、倭王武すなわち雄略天皇と考えられている。また、熊本県江田船山古墳出土の鉄刀銘の「ワカタケル大王」も同じと考えられている。

問3 9 ①

正しい組合せは①。aは正しい。白村江の戦い(663年)は、百濟復興を支援するため、倭が大軍を派遣し、唐・新羅の連合軍に大敗した戦いである。bは誤っている。大宰府北方の水城は、白村江の敗戦を受けて国防体制を強化する目的のもと、西日本各地に残る朝鮮式山城などとともに造られたものである。cは正しく、dは誤っている。壬申の乱(672年)は、天智天皇の死後、天智天皇の子の大友皇子と天智天皇の弟の大海人皇子とが皇位継承をめぐる争った戦いである。大海人皇子は、東国からの軍事動員に成功して大友皇子の近江朝廷側に勝利した。

問4 10 ④

誤っているのは④。九州沿岸の警備にあたったのは、衛士ではなく防人である。衛士は、宮城の警備のために置かれた兵士である。①・②はともに正しい。律令制度下では、正丁3～4人に1人の割合で兵士が徴発され、諸国の軍団で訓練を受けた。③は正しい。兵士として徴発されると、庸・雑徭などは免除されたが、食料・武器を自弁するのが原則であった。

B 律令制度で定められた軍事制度は長続きせず、8世紀末には、農民を対象とした軍団制から、地方豪族を対象とする健児の制へと大きく変化した。そして、10世紀以降になると武士が登場し、地方の武士を統率した源氏・平氏が台頭した。

問5 11 ②

正しい組合せは②。空欄アには、伊治皆麻呂の乱が入る。光仁天皇の780年に、帰順していた蝦夷の族長伊治皆麻呂が多賀城を襲撃し、大規模な反乱に発展した。この後、東北地方では30年以上にわたって戦いが相次いだ。前九年合戦(1051～1062年)は、陸奥の安倍氏の反乱で、源頼義・義家父子によって鎮圧された。問7の整理を参照してほしい。空欄イには、押領使が入る。平安時代中期、政府は中・下級貴族を押領使や追捕使に任命して、地方の治安維持にあたらせた。勘解由使は、桓武天皇

の時代に設置された令外官の一つで、国司交代時の不正を取り締まるものであった。

問6 12 ④

正しい組合せは④。史料は、桓武天皇の8世紀末に制定された健児の制に関するものである。史料文中にも「健児」の用語を確認できる。aは誤っており、bは正しい。史料文中の「辺要の地」とは、国境の重要な場所の意で、具体的には、依然緊張関係のあった九州や東北などを指している。cは誤っていて、dは正しい。健児は、郡司の子弟らを採用したもので、彼らは国府の警備など国内の治安維持にあたった。

問7 13 ⑤

正しい配列は⑤。Iは刀伊の入寇(1019年)の説明である。刀伊の入寇は、摂関政治の全盛期に発生した事件で、大宰権帥藤原隆家が九州の武士団を率いてこれを撃退した。IIは後三年合戦の説明である。後三年合戦は、院政開始(1086年)の頃の事件であり、清和源氏の源義家が藤原清衡(奥州藤原氏の祖)を援助して、清原氏の内紛を平定した事件である。IIIは藤原純友の乱(939～941年)の説明である。藤原純友の乱は、同時期の平将門の乱とともに、朱雀天皇の10世紀前半に起こった事件で、2つの反乱は総称して承平・天慶の乱とよばれる。朱雀天皇は、延喜・天暦の治で知られる醍醐天皇と村上天皇の間の天皇である。以上より、Iが摂関政治期、IIが院政期、IIIが延喜・天暦の治の頃ということがわかれば、III—I—II(⑤)を正解として選ぶことができたはずである。以下に、古代における武士の反乱を整理しておいたので、参照してほしい。

◆武士の反乱

平将門の乱(939～940)
東国で平将門が国府を襲撃
平貞盛・藤原秀郷が鎮圧
藤原純友の乱(939～941)
藤原純友が瀬戸内海の高橋を率いて反乱
源経基(清和源氏の祖)らが鎮圧
平忠常の乱(1028～1031)
房総で反乱
源頼信が平定
前九年合戦(1051～1062)
安倍氏の反乱
源頼義・義家父子が平定
後三年合戦(1083～1087)
清原氏の内紛
源義家が平定

第3問 中世の外交

【出題のねらい】

中世の外交というテーマで、元寇・応永の外寇、そして勘合貿易をめぐる大内・細川両氏の対立などを素材に、各時期の外交を中心に政治・文化の動向などについても問うた。外交は、国内の政治状況や経済、さらには文化にも大きな影響を与えるもので、外交史だけで考えるのではなく、政治史や文化史といった他の分野との関係も意識して学習を進めてもらいたい。

【設問別解説】

A 『蒙古襲来絵巻』を中心に元寇をとりあげ、元寇や、それ以後の鎌倉幕府の政治や社会の変化などについて出題した。

問1 14 ①

正しい組合せは①。Xは正しい。『蒙古襲来絵巻』は、肥後の御家人竹崎季長が自らの奮戦のようすを描かせたものである。したがって、馬上で戦っている御家人は、竹崎季長である。Yは正しい。「てつほう」は、鉄球で火薬を包み点火して爆発させる火器で、図版中央上部にその様子が描かれている。

問2 15 ②

正しいのは②。元寇後、北条氏の権力が拡大し、なかでも家督をつぐ得宗の勢力が強大となった。それにつれて、得宗の家臣である御内人と御家人との対立が激しくなり、北条貞時の代に、有力御家人の安達泰盛らが御内人筆頭である内管領の平頼綱に滅ばされた(1285年 霜月騒動)。この結果、得宗専制体制が確立した。①は誤っている。安達泰盛の娘は時宗に嫁ぎ貞時を生んでおり、泰盛は貞時の外祖父であった。ただし、この情報はセンター試験では詳細な知識なので、判断を保留してもよい。③は誤っている。蔵書を公開して金沢文庫を設けたのは、北条実時である。④は誤っている。安達泰盛が有力御家人であったことは正しいが、後醍醐天皇の倒幕運動に呼応し鎌倉幕府にそむいて六波羅探題を攻略したのは、足利高氏(尊氏)である。

問3 16 ②

正しい組合せは②。aは正しい。元寇を機に西国一帯に勢力を強めた幕府は、九州の博多に北条氏一門を鎮西探題として送り、九州地方の政務や裁判、御家人の指揮にあたらせた。bは誤っている。永仁の徳政令(1297年)は、御家人救済を目的に、御家人売却所領の無償返還などを定めたものである。農民を対象としたものではない。cは誤っている。分割相続の繰り返しの結果、所領の細分化が御家人窮乏の一因となっていたため、元寇以後、単独相続へ移行していった。こうして、血縁的結合と分割相続にも

とづく惣領制は動揺していった。dは正しい。武士の困窮が深刻化するなか、畿内近国を中心に、地頭や非御家人の新興武士たちが、武力に訴えて年貢の納入を拒否するなど荘園領主の支配に抵抗するようになった。これらの武士は悪党とよばれ、その動きは各地へ広がり社会不安増大の要因となった。

B 朝鮮が倭寇の本拠地として対馬を襲撃した応永の外寇をとりあげ、倭寇と日朝貿易などについて出題した。

問4 17 ③

正しい組合せは③。Xは誤っている。前期倭寇は、壹岐・対馬・肥前松浦の三島の商人や漁民などを中心に、朝鮮人なども加わった武装商人団であった。中国人を主体としたのは、16世紀半ば以降に活発化した後期倭寇である。Yは正しい。豊臣秀吉が1588年に発した海賊取締令は、倭寇などの海賊行為を禁止した法令であり、これ以後、後期倭寇の活動は衰退した。

問5 18 ③

誤っているのは③。日朝貿易では、日本からは銅や硫黄、そして琉球貿易で入手した南海産物などが輸出され、朝鮮からは木綿や大蔵経などが輸入された。①は正しい。日朝貿易は日明貿易と違い、当初から、幕府だけではなく守護・国人・商人なども参加して行われた。②は正しい。朝鮮がひらいた3港(三浦)と首都漢城に、日本からの使節の接待と貿易のための倭館がおかれた。④は正しい。三浦の乱(1510年)は、朝鮮の貿易統制強化に対し、三浦に住む日本人居留民が反発して起こした暴動事件である。鎮圧後、両国の通交は極端に制限され、日朝貿易は衰退していった。

C 勘合貿易の展開を軸に、日明関係や室町時代の文化、さらには史料の読取り問題もあわせて出題した。

問6 19 ①

正しい組合せは①。空欄アには、明を建国した人物なので、朱元璋が入る。朱元璋は1368年、元を北方に追い明を建国した。明は中国を中心とした伝統的な国際秩序の回復をめざして、近隣諸国に通交を求めた。これに応えたのが、足利義満である。李成桂は1392年に高麗を滅ぼして、朝鮮を建国した人物である。空欄イには、祖阿が入る。祖阿は1401年、博多商人の肥富とともに、足利義満によって明に派遣された人物である。蓮如は、応仁・文明の乱のころに精力的に活動した浄土真宗(一向宗)の僧侶である。

問7 20 ②

正しいのは②。山口に滞在して文化活動を行った人物としては、連歌師の宗祇や日本の水墨画を大成した雪舟などが著名である。雪舟の作品は②の『四季山水図巻』である。①は尾形光琳の装飾画『紅白梅図屏風』で、元禄文化を代表する装飾画である。③は如拙の水墨画『瓢鮎図』で、室町時代の北山文化を代表する水墨画である。④は狩野永徳の濃絵『唐獅子図屏風』で、桃山文化を代表する絵画作品である。

問8 21 ④

正しい組合せは④。設問文の「16世紀前半に大内・細川両氏が中国のある港で衝突した事件」という部分から、寧波の乱(1523年)に関する史料と判断できたであろうか。aは誤っている。大内・細川両氏が衝突した港は寧波である。したがって、空欄ウには寧波が入る。そもそも北京は港ではない。bは正しい。史料の1～2行目にかけて、「瑞佐・宋素卿ら後れて至り」とあり、(注2)から瑞佐・宋素卿が細川氏によって派遣された人物らであることがわかれば、正文と判断できたであろう。cは誤っている。史料の3行目に「指揮劉錦・袁璫を殺し」とあり、指揮劉錦・袁璫の(注5)には、この事件の取り締まりにあたった明の軍人とあり、明側から何らかの干渉があったと判断できる。dは正しい。寧波の乱以後、大内氏が勘合貿易を独占した。これは知識で解ける問題である。以下に日明貿易についてまとめておいたので、参照してほしい。

◆日明貿易の推移

足利義満 貿易開始
 明へ遣使(1401年) 国交を開く
 義満「日本国王」に任じられる
 貿易開始(1404年)
 朝貢形式・勘合を使用
 寧波で勘合を査証 北京で交易
 足利義持
 貿易中断
 足利義教
 貿易再開
 〈応仁・文明の乱〉
 有力守護大名・有力商人が実権を掌握
 大内氏―博多の商人と結ぶ
 細川氏―堺の商人と結ぶ
 寧波の乱(1523年)
 以後、大内氏が貿易を独占
 大内氏滅亡(1551年)により日明貿易断絶

第4問 北条氏と足利氏

【出題のねらい】

本問は、北条氏と足利氏を通じて、中世から近世初期における政治を中心に概観する問題である。鎌倉幕府の執権である北条氏は、御家人による合議体制を築き上げ、幕政を担った。蒙古襲来後、北条氏の権力はさらに拡大し、なかでも家督をつぐ得宗の勢力が強大となり、得宗の家臣である御内人や北条氏一門が幕政を主導していった(得宗専制政治)。室町幕府を開いた足利氏は、後醍醐天皇の建武政権を倒し、有力守護大名を束ね、3代將軍足利義満の時代に頂点に達した。本問を通じて、当該期の政治史の重要ポイントをしっかりと確認してもらいたい。

【設問別解説】

A 鎌倉時代前半の執権政治の確立期を取りあげ、鎌倉時代前期の政治史を中心に出题した。

問1 22 ④

正しい組合せは④。Xは誤っている。北条時政は、2代將軍の源頼家を廃して弟の源実朝を立てたが、摂家將軍の擁立は、その実朝が頼家の遺児公暁に暗殺されたあとのことなので、時政のときではない。Yは誤っている。鎌倉に建長寺を創建し蘭溪道隆を開山としたのは、北条時頼である。北条政子は、鎌倉に寿福寺を創建し栄西を開山としたが、この情報はセンター試験では詳細な知識なので、覚える必要はない。

問2 23 ④

正しい組合せは④。空欄アには、西面の武士が入る。後鳥羽上皇は、従来から院の警護のため設置されていた北面の武士とは別に、新たに西面の武士を設置するなど軍勢力を増強した。北面の武士は、院政期に白河上皇が院の警護を目的に設置したものである。空欄イには、北条時頼によって滅ぼされた人物なので、三浦泰村が入る。時頼は、三浦泰村一族を滅ぼして(1247年 宝治合戦)、北条氏の地位を不動のものとした。和田義盛は、初代侍所別当をつとめた人物であるが、1213年、北条義時にによって滅ぼされた。

問3 24 ③

誤っているのは③。裁判の公正や迅速化をはかるため、新たに引付を設置したのは、5代執権の北条時頼である。①・②はともに正しい。泰時は、執権を補佐する連署において叔父の時房を任じた。また、有力な御家人や政務にすぐれた人物を評定衆に任じて、執権・連署とともに幕府の政務処理や裁判にあたらせ、合議制による政治を行った。④は正しい。泰時は1232年、頼朝以来の先例や道理とよばれ

た武士社会の慣習に基づいて、最初の本格的な武家法典である御成敗式目(貞永式目)を制定した。

B 足利氏の歴史を通じて、室町時代の政治史とともに織豊政権についてもあつかった。

問4 **25** ②

正しい組合せは②。空欄 **ウ** には、中先代の乱が入る。足利尊氏は、1335年、北条高時の子時行が反乱を起こし鎌倉を一時占拠した中先代の乱に際し、その討伐のため関東に下り、鎮圧後、建武政権に反旗をひるがえした。観応の擾乱(1350～1352年)は、南北朝の動乱期における足利尊氏・直義兄弟の対立を契機に起こったもので、動乱長期化の要因の一つとなった。空欄 **エ** には、室町幕府の6代将軍なので、足利義教が入る。義満の跡を継いだ4代義持は、有力守護の合議を尊重したため、幕政は安定した。その後、義持が後継者を決めぬまま病に倒れ危篤に陥ると、有力守護らは石清水八幡宮でのくじ引きにより後継者に義教を擁立した。義教は公家・守護大名を問わず強圧的な態度で臨み、「万人恐怖」とよばれる専制政治を展開したため、嘉吉の乱(1441年)で赤松満祐に殺された。

問5 **26** ①

正しい組合せは①。**X**は、「京都の警備・刑事裁判などを行う機関」とある点から、侍所(**a**)と判断できる。侍所は、京都の警備や刑事裁判などをつかさどった機関で、長官は所司とよばれ、山名・赤松・一色・京極の四家が交代で任ぜられた(四職)。雑訴決断所(**b**)は、建武政権下の主要政務機関の一つで、主に所領問題などの訴訟を裁決した。**Y**は、「山名氏清を滅ぼした」とある点から、明徳の乱(**c**)と判断できる。足利義満は、南北朝の動乱のなかで強大化した守護の勢力削減につとめ、明徳の乱で山名氏清を、応永の乱(**d**)で大内義弘を攻め滅ぼした。

問6 **27** ③

正しい組合せは③。**X**は誤っている。史料の2～3行目にかけて、「義政公ノ天下ノ成敗ヲ有道ノ管領ニ任セズ」とあり、有能な管領に政治を任せなかったとある。したがって、将軍を補佐する「管領に政務全般を任せていた」は誤りとなる。**Y**は正しい。史料の文末に「御台所(日野富子)ヨリ恩賞ニ行フル」とあり、御台所すなわち日野富子が恩賞事務に従事していたことがわかる。

問7 **28** ⑤

正しい配列は⑤。時代順に説明する。**Ⅲ** 信長は1560年に今川義元を桶狭間の戦いで破り、続いて美濃の斎藤氏を滅ぼすと、1568年に足利義昭を奉じて

入京し、義昭を将軍につけて、全国統一の第一歩を踏み出した。**Ⅰ** 信長は、将軍権力の回復をめざし対立した義昭を1573年に京都から追放し(室町幕府の滅亡)、1575年、長篠の合戦で武田勝頼の軍に大勝利し、翌年、近江に安土城を築いた。**Ⅱ** 本願寺の顕如は、1570年に諸国の門徒に信長と戦うことをよびかけて挙兵し、11年におよぶ石山戦争を展開したが、1580年に屈服して石山を退去した。以下に、織田信長の統一過程についてまとめておいたので、参照してほしい。

◆織田信長の統一過程

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 1560 | 桶狭間の戦い…今川義元を破る(Ⅲ) |
| 1568 | 入京 → 足利義昭を15代将軍に立てる |
| 1570 | 石山本願寺(顕如)との戦いが始まる
姉川の戦い…浅井氏・朝倉氏を破る |
| 1571 | 延暦寺焼打ち |
| 1573 | 足利義昭を京都から追放 |
| 1575 | 長篠の戦い…武田勝頼を破る(Ⅰ) |
| 1576 | 安土城築城 |
| 1580 | 石山本願寺を屈服させる(Ⅱ) |
| 1582 | 本能寺の変…明智光秀の反逆により敗死 |

第5問 近世の治水干拓事業

【出題のねらい】

本問は、奈良県と大阪府を流れる大和川やその周辺に関する動向を素材に、江戸時代の治水干拓事業をあつかったものである。大和川は今から310年前に大規模な付替え工事が実施され、その事業を通して江戸時代の政治・経済・社会の諸相を垣間見ることができる。大和川付替工事については、ほとんどの諸君が知らない情報であろうが、設問は基本的な内容を確認するものばかりであるので、誤ったところは解説を参考に再確認しておきたい。

【設問別解説】

A 大和川付替工事の実態とその影響について述べた問題文を通して、江戸時代の水上輸送、江戸幕府の大名統制、徳川綱吉の治世、大坂の経済的發展について問うた。

問1 **29** ②

正しい組合せは②。**X**は東廻り航路・西廻り航路を整備した人物ということから、河村瑞賢(**a**)の説明文であることがわかる。17世紀後半になると、江戸の商人である河村瑞賢が東廻り航路・西廻り航路を整備して、江戸と大坂を中心とする全国規模の海上交通網を完成させた。さらに、彼は、大坂の安治川を開削するなど河川舟運の整備にも尽力し、大坂の

物資流通網の発展に貢献した。ただし、この安治川開削の情報はセンター試験では必要ないので、東廻り航路・西廻り航路の整備という点で人物を特定したい。**b**の末吉孫左衛門は、江戸時代初期の摂津の豪商で、朱印船貿易にたずさわった人物である。**Y**は日本海側に就航した廻船ということから、北前船(**d**)の説明文であることがわかる。18世紀末頃からは、日本海側では北前船とよばれる廻船が発達した。**c**の樽廻船は、江戸と大坂とを結ぶ南海路に就航した廻船で、おもに酒を運んだ。

問2 **30** ①

正しい組合せは①。**a**は正しい。幕府は、大坂の役直後に、大名を統制するために、「居城をば残し置かれ、その外の城はことごとく破却あるべし」という内容の一国一城令を発した。**b**は誤っている。一国一城令が出された同年の1615年には、最初の武家諸法度である元和令が発布された。このとき徳川家康はすでに將軍職を辞して大御所の地位にあり、將軍は秀忠であった。したがって、元和令は將軍秀忠の名で発布された。**c**は正しい。大名には軍役が課された。大名は知行地の石高を基準に一定数の兵馬などを常備し、戦時には將軍の命令で出陣した。**d**は誤っている。武家諸法度の寛永令で義務づけられた参勤交代は、原則として、国元と江戸とを1年交代で往復するもので、その費用は大名の負担であった。参勤交代は多額の出費を伴う重い役務であった。

問3 **31** ④

正しいのは④。徳川綱吉の時代には、幕府財政の窮乏を背景に、悪貨改鑄が実施された。勘定吟味役の荻原重秀の建議により、金の含有率を減らし、質の劣った元禄小判を発行して、その差額で利益をあげた。しかし、これは物価の高騰をもたらし、庶民の生活を苦しめることになった。①は徳川家綱の4代將軍就任直前の出来事で、文治政治への転換の契機となった事件である。②は新井白石による正徳の治における政策の一つである。③はいわゆる鎖国体制の完成をあらわす出来事で、3代將軍徳川家光の時代である。文治政治期の動向については、以下に整理しておいたので参照してほしい。

◆文治政治の成立・展開

徳川家綱の治世 文治政治の開始

慶安の変を契機に文治政治へ転換
末期養子の禁を緩和
殉死の禁止

徳川綱吉の治世 文治政治の推進

武家諸法度の改定…「文武忠孝」を重視
湯島聖堂の建設…林信篤を大学頭とする
天文方・歌学方の設置
生類憐みの令
元禄金銀の鑄造…荻原重秀の建議
赤穂事件

正徳の治 文治政治の典型

朱子学者新井白石・側用人間部詮房の主導
閑院宮家の創設
正徳金銀の鑄造
朝鮮通信使の待遇簡素化
海舶互市新例

問4 **32** ③

誤っているのは③。札差とは旗本・御家人の俸禄米を換金するなどの業務を行う商人で、江戸浅草に蔵をもつことから蔵宿とも称された。したがって、大坂に居住する商人ではない。①は正しい。大坂は全国物資の集散地として栄え、「天下の台所」と称された大商業都市であった。②も正しい。大坂には、西日本や日本海側の諸藩を中心とする蔵屋敷がおかれ、蔵元・掛屋とよばれる商人が蔵屋敷の業務にあたった。④も正しい。東日本では主に金貨が、西日本では主に銀貨が取引や貨幣計算の中心とされ、両替商が三貨間の両替や秤量などの業務にあたった。

B 大和川付替工事によって展開された新田開発や木綿生産に関して述べた問題文を通して、幕藩領主による新田開発や木綿生産、国訴などについて問うた。

問5 **33** ⑥

正しい配列は⑥。年代順に解説していく。Ⅲ岡山藩主池田光政による藩政改革に関するもので、いわゆる前期藩政改革の一端を示す文である。したがって、おおよそ17世紀の出来事であることがわかる。池田光政は、1630年代に岡山藩主となって、約50年にわたって藩政の確立を主導した名君であった。Ⅱ將軍徳川吉宗の治世ということから、享保の改革における施策に関する文で、おおよそ18世紀前半であることがわかる。8代將軍吉宗は、幕府財政の再建をはかるために新田開発を奨励するなどした。Ⅰ印

旌沼の干拓事業や浅間山の噴火という部分から、田沼時代とわかり、18世紀後半の動向であることが判断できる。老中田沼意次は、江戸や大坂の商人らの力を借りて印旌沼・手賀沼の大規模な干拓事業を始めたが、浅間山噴火の影響などによる利根川の大洪水で事業は挫折した。

問6 [34] ②

正しいのは②。『大和本草』とは、貝原益軒みずからが国内各地を旅行し、得た知識をまとめて編述したもので、博物学の見地から書かれた本草書として知られる。益軒はこの書によって本草学の基礎を築いた。①は「甘藷の効用を説いた」から、將軍徳川吉宗に重用された青木昆陽に関する文であることがわかる。③は吉田光由、④は宮崎安貞に関する文である。

問7 [35] ④

誤っているのは④。dは九州北部の小倉で、この地では小倉織とよばれる綿織物が特産となっている。紅花の特産地は出羽で、赤色染料として利用された。①は正しい。aは銚子で、野田とともに醤油の特産地となっている。②も正しい。bは尾張の瀬戸で、ここは古くから陶磁器の特産地として著名である。③も正しい。cは備後の福山で、畳表の原材

料である藁草の特産地として知られている。

問8 [36] ②

正しい組合せは②。史料は江戸時代後期の19世紀前半に起こった国訴の一つを紹介したものである。国訴とは、在郷商人や農民らが都市特権商人による流通独占を打破して商品の自由な販売などを求めるために、領主の支配領域を越えて広範な村々が結集し、合法的な訴願を行った闘争である。とくに、商品生産の発展が著しい畿内の先進地帯で発生した。そのなかでも、史料の文政6年(1823年)に起こった国訴は、1007ヶ村が参加する大規模なものであった。Xは正しい。史料によれば、摂津・河内両国では盛んに綿作が行われており、その「千七ヶ村」の百姓らが「問屋差し障り申さざる様致したき旨」と、自由な綿の販売を求めて訴え出た。その訴え先は「高井山城守御役所」である大坂町奉行所であった。Yは誤っている。史料に「問屋差構いの筋これ無く、村々勝手次第の旨」と記されているように、百姓らの訴えは受理され、綿の自由な販売が認められた。このときの国訴においては、百姓側が勝利したことがわかる。史料の読解問題は、まずは史料をしっかりと読むことである。その際、史料に付されている(注)についても注意しておきたい。

●写真・図版提供

宮内庁三の丸尚蔵館／上越市総務管理部総務管理課／退蔵院／MOA美術館／毛利博物館

地理 B

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	①	④	3	
	問2	②	①	3	
	問3	③	⑤	3	
	問4	④	②	2	
	問5	⑤	②	3	
	問6	⑥	②	3	
第1問 自己採点小計				(17)	
第2問	問1	⑦	③	2	
	問2	⑧	④	3	
	問3	⑨	①	3	
	問4	⑩	④	3	
	問5	⑪	⑤	3	
	問6	⑫	②	3	
第2問 自己採点小計				(17)	
第3問	問1	⑬	④	3	
	問2	⑭	③	3	
	問3	⑮	⑤	3	
	問4	⑯	③	3	
	問5	⑰	⑤	3	
	問6	⑱	③	2	
第3問 自己採点小計				(17)	
第4問	問1	⑲	④	3	
	問2	⑳	③	2	
	問3	㉑	②	3	
	問4	㉒	③	3	
	問5	㉓	④	3	
	問6	㉔	③	3	
第4問 自己採点小計				(17)	
第5問	問1	㉕	③	2	
	問2	㉖	②	3	
	問3	㉗	①	3	
	問4	㉘	①	3	
	問5	㉙	⑥	3	
	問6	㉚	①	2	
第5問 自己採点小計				(16)	

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第6問	問1	①	⑤	3	
	問2	②	③	3	
	問3	③	①	3	
	問4	④	③	2	
	問5	⑤	④	3	
	問6	⑥	①	2	
第6問 自己採点小計				(16)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 世界の地形

【出題のねらい】

大陸の高度別面積割合、大地形、プレート境界、アフリカ大地溝帯、フィヨルド、サンゴ礁について問うた。大地形とプレート境界の分布は頻出なので、おもな山脈や平野、海溝などの分布とともに地図帳をしっかりとみておこう。小地形については、成因と分布が重要であり、これも地図帳で例をあげられるようにしておこう。

【設問別解説】

問1 ① ④

ア～ウのうち、イには4,000 m以上の地域が約5%もみられるので、世界最高峰のエベレスト山のあるヒマラヤ山脈や、その北側に広がる4,000～5,000 m前後のチベット高原の位置するアジアと判定できる。世界で7,000 mを超える山は、このヒマラヤ山脈やチベット高原周辺にのみ分布し、他の大陸にはみられない。アは、200 m未満の地域の割合が最も高いことから、東ヨーロッパ平原などの平野が広がるヨーロッパである(ヨーロッパはウラル山脈以西)。一方、ウは200 m未満の地域の割合が低いことから、台地状の大陸で、沿岸部に平野の少ないアフリカである。南極の平均高度が飛びぬけて高いのは、厚さ約2,000 mの大陸氷河(氷床)に覆われているためである。

問2 ② ①

世界の大地形は、造山運動を受けた時期によって、安定陸塊、古期造山帯、新期造山帯に分類される。Aのハドソン湾の周辺には、カナダ楯状地とよばれる安定陸塊が広がっているため、力が該当する。安定陸塊は、先カンブリア時代に造山運動を受けた後、長年の侵食によって低平な平野や高原となっており、先カンブリア時代の岩石が露出する楯

状地には準平原が、その上に古生代以降の地層が堆積した卓状地には構造平野がみられる。ヨーロッパでは、バルト海周辺のバルト橋状地を取り巻いて古期造山帯が広がり、Bのグレートブリテン島北部も古期造山帯に属しているので、キが該当する。古期造山帯は、古生代に造山運動を受けた後、侵食によってなだらかな山脈になっているところが多く、イギリスの最高峰は1,344 mにすぎない。Cはアトラス山脈で、新期造山帯のアルプス・ヒマラヤ造山帯に属しているので、クが該当する。新期造山帯は、中生代後期から新生代にかけて造山運動を受け、現在も隆起が続く高峻な山脈がみられる。アトラス山脈も4,000 m前後の山々が連なっている。

問3 3 ②

地球の表層は、地殻とマントル最上部にあたる厚さ100 km程度の硬い岩石でできたプレートで覆われている。プレートは十数枚に分かれ、マントルの対流によって移動しているため、三つの境界がみられる。広がる境界は、マントルがわき上がってプレートが引き裂かれ、新しいプレートが生まれるところで、大部分は海底にあり長大な海底山脈である海嶺を形成している。図1では、大西洋中央海嶺の一部を示したFと、インド洋中央海嶺の延長部で、アフリカ大陸とアラビア半島を分裂させ、紅海を形成したHが該当する。せばまる境界は、プレートがぶつかるところで、海洋プレートが沈み込むところは海溝となり、並行して日本列島のような弧状列島(島弧)やアンデス山脈のような山脈が形成される。Eのプエルトリコ海溝はその例で、付近の西インド諸島は新期造山帯の環太平洋造山帯に属している。大陸プレート同士がぶつかるヒマラヤ山脈のような山脈が形成され、アルプス・ヒマラヤ造山帯の大部分は、ユーラシアプレートとその南側のプレートとのせばまる境界に形成されている。Gは、ユーラシアプレートとアフリカプレートとの境界で、北側のシチリア島などには火山が分布する。

問4 4 ②

図1で紅海を形成したHの広がる境界は、アフリカ大陸東部にも続き、大陸を引き裂いて大地溝帯を形成している。よって、②が誤りである。アフリカ大陸は、北部のアトラス山脈付近の新期造山帯と、南部のドラケンスバーグ山脈付近の古期造山帯を除く大部分が安定陸塊に属している(①)。大地溝帯には、タンガニーカ湖など多くの断層湖(地溝湖)がみられ(③)、アフリカ大陸最高峰のキリマンジャロ山など5,000 mを超える火山や、現在も噴火を続ける活動的な火山がみられる(④)。このように、この

付近は安定陸塊であるが、アフリカ大陸で最も標高の高い地域となっている。

問5 5 ②

図3中のPは、ニュージーランド南島で、氷期には氷河に覆われ、現在も約2,000 m以上の山々には氷河があり、氷河地形が発達している。氷河は侵食によってU字谷を形成し、氷河が融けると、そこに海水が浸入して両岸が急傾斜の入江であるフィヨルドができる。図2の入江は湖のフィヨルドで、両岸は、等高線が非常に密な急斜面となっており、入江の奥の河川沿いの低地はU字谷の谷底である。入江のNorth FiordのFiordは、フィヨルドの英語名である。入江の東側のNarrows Creekも両側が急傾斜で谷底が平らなU字谷である。フィヨルドは、海岸まで氷河が達する地域でみられ、図1では、現在も大陸氷河に覆われているグリーンランドのシが正解である。分布地域としては、ここで取り上げたニュージーランド南島南西岸のほか、ノルウェーやカナダ太平洋岸、チリ南部が重要なので、地図帳で確認してほしい。沈水海岸としては、フィヨルドのほか、河食によるV字谷が沈水したリアス海岸(スペイン北西部が名称の発祥地として有名)、河口部が沈水したラッパ状の入江であるエスチュアリー(三角江)があり、サのセントローレンス川の河口部にはエスチュアリーがみられる。なお、スのナイル川とセのニジェール川の河口部には、三角州が形成されている。

問6 6 ②

サンゴ礁は、サンゴ(動物)の骨格が積み重なって形成される地形で、海水温の高い熱帯、亜熱帯の浅海に形成される。図4をみると、タ→チ→ツの順にサンゴ礁が厚くなっていることから、この順に発達することがわかり、タは裾礁、チは堡礁、ツは環礁である。堡礁の陸地とサンゴ礁の間の海と、環礁で囲まれた海は、ラグーン(礁湖)とよばれる。約1万年前まで続いた最終氷期には、海水温が低かったため、サンゴ礁が形成される海域は現在より狭く、赤道周辺の低緯度地域に限られた。その後、間氷期に入り、海水温が上昇するとともに、サンゴ礁はより緯度の高い海域でも発達するようになった。したがって、赤道に近い順に、Y(モルディブ)には環礁が、Z(グレートバリアリーフ)には堡礁が、X(南西諸島)には裾礁がみられる。グレートバリアリーフ(大堡礁)は世界最大のサンゴ礁であり、モルディブは低平な環礁で、地球温暖化による海面上昇で水没の懸念があるという知識からも解答することができる。

第2問 生活文化と国家

【出題のねらい】

世界の人種，言語，宗教，衣服と食文化，国境，国家と領域について出題した。人種，言語，宗教は世界的な分布をみた上で，各地の民族問題などを理解するとよい。衣食住は，自然環境との関係が深い，宗教など文化的背景による違いも大きい。国境は，自然的国境と人為的国境の例を地図帳でみておこう。

【設問別解説】

問1 7 ③

人種は，身体的特徴による分類で，**コーカソイド**（白色人種），**ネグロイド**（黒色人種），**モンゴロイド**（黄色人種），**オーストラロイド**（オーストラリア先住民など）に分けられる。①正しい。モンゴロイドは，東アジアから東南アジアにかけて分布しているが，インドなど南アジアにはコーカソイドが分布している。②正しい。コーカソイドは，ヨーロッパから西アジア，南アジア，北アフリカにかけて分布している。③誤り。ネグロイドは，アフリカのサハラ砂漠より南の中南アフリカに分布し，北アフリカにはコーカソイドが分布している。④正しい。アメリカ大陸の先住民である**インディアン**や**インディオ**，**イヌイト**（エスキモー）は，氷期にユーラシア大陸からベーリング海峡を経て移動したモンゴロイドの子孫である。大航海時代以降，ヨーロッパ人が入植し，奴隷としてアフリカから黒人が連行されたため，特に，メキシコ以南のラテンアメリカでは，白人とインディオの混血の**メスチソ**や，白人と黒人の混血の**ムラート**など混血が多くみられる。

問2 8 ④

①正しい。スペインの人口は，約4,700万人，ポルトガルの人口は約1,000万人であるが，スペイン語は約4億人，ポルトガル語は約2億人に使用されている。これは，スペインとポルトガルの植民地であった**ラテンアメリカ**で使用されているからで，スペイン語の使用人口が最も多い国は**メキシコ**である。ラテンアメリカでポルトガル語が使用されているのは**ブラジル**だけであるが，人口が多いので使用人口も多い。また，スペインとポルトガルは**カトリック**を布教したため，旧植民地ではカトリックが信仰されている。②正しい。南アジアのインドでは，公用語の**ヒンディー語**のほか多くの言語が使用されている。表中の**ベンガル語**は，ベンガル湾に面したインド東部のウエストベンガル州で使用され，隣接するバングラデシュでは公用語となっている。ヒンディー語などインドの言語の多くは**インド・ヨーロッパ語族**に属しているが，南部で使用されて

いる**タミル語**などは**ドラヴィダ語族**に属している。③正しい。**アラビア語**は，いわゆる**アラブ諸国**，すなわち北アフリカから西アジアの国々で広く使用されているが，イランでは**ペルシャ語**（**インド・ヨーロッパ語族**），トルコでは**トルコ語**（**アルタイ語族**）が使用されているので注意しておこう。アラビア語が属する**アフリカ・アジア語族**には，イスラエルで使用されている**ヘブライ語**なども含まれる。④誤り。ヨーロッパの言語の大部分は**インド・ヨーロッパ語族**に属し，**ゲルマン語派**（英語，ドイツ語など），**ラテン語派**（フランス語，イタリア語，スペイン語など），**スラブ語派**（ロシア語，ポーランド語など）などに分けられ，表中にはスラブ語派のロシア語が含まれている。フィンランドやハンガリーでは，**ウラル語族**の言語が使用されているので，地図帳の分布図で確認しておこう。

問3 9 ①

図1に示されているのは**イスラーム**（**イスラム教**）を信仰する人口が国内の5割を超える国である。イスラームは，7世紀にアラビア半島で生まれ，北アフリカや中央アジア，さらに南アジアや東南アジアへと拡大し，現在イスラム教徒が最も多い国は**インドネシア**である。イスラームは，アッラーを唯一神とし，**コーラン**（**クルアーン**）を聖典としている。イスラム教徒は，信仰告白，1日5回の礼拝，喜捨，イスラーム暦9月の断食，聖地メッカへの巡礼が守るべき義務（五行）とされ，サウジアラビアの**メッカ**には，巡礼月に世界中から毎年200万人もの信者が集まる。また，日常生活では，**豚肉**を食べることや**飲酒**が禁じられ，不浄な手である左手は食事には用いず，家の外では女性は肌をみせないなどの慣習がある。よって，**ア**，**イ**とも正しい。

問4 10 ④

①正しい。インドのような高温多湿な地域では，伝統的に麻や綿を素材とし，吸湿性や放熱性にすぐれたゆったりした衣服が使用される。インドの女性は，サリーとよばれる一枚布でできた衣服をまとっている。②正しい。寒冷なシベリア北部やアラスカなどでは，防寒のために，遊牧で利用するトナカイなどの毛皮や皮でできた衣服や靴を使用している。③正しい。米を主食とする東南アジアや東アジアでは，伝統的に家畜は農作業などの役畜として利用され，乳牛を飼育する酪農は行われていなかったため乳は利用されてこなかった。日本では，食生活の洋風化で酪農も行われ，牛乳や乳製品の利用が増えているが，東南アジアの国々では，現在でも乳製品の利用は少ない。④誤り。中南アフリカの熱帯では，

焼畑で栽培されるキャッサバやタロイモ、ヤムイモなどのイモ類や雑穀が主食となっている。ヨーロッパ諸国の植民地から独立したため、公用語には旧宗主国の言語を使用する国が多いが、伝統的な衣食住については大きな影響を受けてはいない。

問5 11 ②

国境には、河川や山脈、海洋などの自然物を利用した**自然的国境**と、経緯線などを利用した**人為的国境**があり、人為的国境は、新大陸やアフリカに多くみられる。図2中のAは、ノルウェーとスウェーデンで、**スカンディナヴィア山脈**を国境としている。Bはドイツとポーランドで、オーデル川と支流のナイセ川を国境としている。Cはフランスとスペインで、**ピレネー山脈**を国境としている。Dはルーマニアとブルガリアで、**ドナウ川**を国境としている。わからなかった人は地図帳で必ず確認しておこう。

問6 12 ②

①正しい。国土が広い国や多数の民族から構成されている国では、**連邦制**が採用されることが多い。ロシアは、21の共和国のほか、自治管区や自治州などを設置している。ナイジェリアも連邦共和国で、200以上の民族が存在している。1967年に内戦が起これ、その後、民族対立を避けるために州の再編を行い、36の州と連邦首都地区から構成されている。ほかに連邦国家としては、**アメリカ合衆国**や**ドイツ**、**スイス**などがあげられ、日本やフランスなど中央集権国家は単一国家ともよばれる。②誤り。アメリカ合衆国を中心とする西側資本主義諸国と、ソ連を中心とする東側社会主義諸国が対立していた**冷戦**は、1989年に終わり、その後、ソ連やユーゴスラビアの解体などでヨーロッパを中心に多くの独立国が誕生した。しかし、南アメリカでは新たに独立した国はなく、アフリカでは、エチオピアから分離独立した**エリトリア**(1993年)と、スーダンから分離独立した**南スーダン**(2011年)があるだけである。③正しい。**領海**は低潮線(干潮時の海岸線)から**12海里**としている国がほとんどで、**領土**、**領空**とともに国家の主権のおよぶ領域である。沿岸から**200海里**までの海域は**排他的経済水域**で、漁業資源や海底鉱産資源などの海洋資源に対して、沿岸国の権利が認められている。④正しい。**北方領土**は、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島で、現在統治を続けているロシアに対し、日本固有の領土として返還を求めている。ほかに、日本海に浮かぶ**竹島**は、韓国との間に領有権問題があり、沖縄県の**尖閣諸島**は、中国が領有権を主張している。

第3問 エネルギーと鉱産資源

【出題のねらい】

エネルギーの供給構成の変化とその背景、化石燃料の供給量と輸入量、自然エネルギーの発電量上位国、国別の一次エネルギー供給構成、鉄鉱石・銅鉱・ボーキサイトの生産上位国、レアメタルについて出題した。エネルギーについては、その種類と特徴、分布に加え、供給構成の変化や国別の特徴をしっかり把握しておくことが重要である。

【設問別解説】

問1 13 ④

①正しい。1960年代には石炭に代わって石油がエネルギーの主役となり、**エネルギー革命**とよばれた。その要因として、中東地域で大規模な油田開発が進んで供給量が増加し、価格が低下したことがあった。価格低下は自動車の普及を促し、需要の増加はさらに新たな油田開発につながって供給量は大幅に増加した。また、石油を原料とする石油化学工業の発達も供給量を増加させた。②正しい。1973年の第4次中東戦争と1979年のイラン革命をきっかけに、**OPEC**(石油輸出国機構)は原油価格の大幅な引き上げを行った。この第1次・第2次**石油危機**(オイルショック)によって世界経済は低迷し、価格の高騰で1980年代には石油の供給割合は低下した。③正しい。原油価格の高騰によって**天然ガス**や**原子力**などが**代替エネルギー**として利用されるようになった。天然ガスは、石炭や石油に比べ燃焼時に発生する二酸化炭素や窒素酸化物が少なく、硫酸酸化物は排出されないため**クリーンエネルギー**とよばれ、温暖化や酸性雨の原因となりにくく、1980年代以降、おもに先進国での消費が増加した。④誤り。石油は、今世紀に入っても生産量は増加しているが、発展途上国の経済成長によって需要が増加し、価格が高騰したため、石炭の見直しが進められた。また、経済成長のめざましい中国で石炭の消費が大幅に増加したこともあって、石油の割合は低下し、石炭の割合は上昇した。

問2 14 ③

石炭は、中国が世界生産の半分以上(55%)を占め、輸入も日本に次ぐ世界2位で、供給量が極めて多い。よって、**A**国の供給量が圧倒的に多い**A**が石炭で、**A**国は中国である。これは急速な経済成長により国内のエネルギー消費量が増加し、国内で生産量の多い石炭に依存せざるを得ないことに加え、石炭を大量に使用する鉄鋼の生産量も増大したことによる。**I**は石油で、**B**国は、生産が世界3位、輸入が世界一で、供給量が世界一のアメリカ合衆国であ

る。**C**国は、石炭、原油、天然ガスの輸出国であることからロシアで、天然ガス輸出は世界一、原油輸出はサウジアラビアに次ぐ世界2位、石炭輸出はオーストラリア、インドネシアに次ぐ世界3位である。ロシアは、天然ガスがエネルギー供給の中心なので、天然ガスの供給量が石油と石炭を上回っている。アメリカ合衆国は、天然ガス輸入も世界一である。なお、日本はいずれの資源も輸入が多く、エネルギーの自給率は19%と極めて低い(以上、統計は2010年)。

問3 **15** ㉔

カは、フィリピン、インドネシア、ニュージーランド、アイスランド、メキシコなどプレート境界に位置し、火山が多い国ばかりであることから、地熱発電と判定できる。**ク**は、**ブラジル**、**カナダ**、**ノルウェー**で多いことから、水力と判定する。化石燃料に恵まれなかった**ブラジル**は、水力開発に力を入れ、総発電量に占める水力の割合は約8割に達する。**カナダ**は、ラブラドル高原に大規模な水力発電所が集中し、水力の割合は約6割である。**ノルウェー**は、山がちで降水量が多いため水力発電が盛んで、水力の割合は95%に達する(以上、統計は2011年)。残った**キ**は風力で、ドイツやスペインなどのヨーロッパ諸国やアメリカ合衆国が上位を占めていたが、近年は中国やインドでの発電量が急増している。

問4 **16** ㉔

ブラジルは、化石燃料に恵まれず原油を輸入していたが、石油危機で原油価格が高騰したため、**サトウキビ**から**バイオエタノール**を生産し、**ガソリン**に混ぜて利用してきた。このため、バイオ燃料と廃棄物の割合が高い㉔と判定できる。しかし、近年はリオデジャネイロ沖などで油田開発が進み、原油は自給できるようになった。また、その他の割合が高いのは、問3でみたように水力発電が盛んなためである。㉑は、石炭の割合が高いことから、石炭生産世界6位(2010年)の南アフリカ共和国である。㉒は、天然ガスの割合が高いことから、北海にガス田をもつオランダで、ロシアを除くヨーロッパでは**ノルウェー**に次ぐ天然ガスの生産、輸出国(2010年)である。㉓は、原子力の割合が高いことから、原子力発電が発電量の約3/4を占めるフランスである。

問5 **17** ㉔

銅は、精錬が比較的容易なため古くから銅器などに利用され、電気産業の発達とともに電線などにも利用されてきた。よって、**シ**が銅の説明である。銅鉱は火山活動などと関連して分布するため、**新期造**

山帯、特にアンデス山脈やロッキー山脈に埋蔵が多く、**チリ**が世界一の生産国である。よって、**R**が銅鉱である。鉄は、機械の素材として不可欠であり、鉄筋・鉄骨として建設・土木用に、鉄道の線路や車両、自動車にも用いられ、かつては「産業のコメ」とよばれた。よって、**サ**が鉄である。鉄鉱石は、**安定陸塊**の楯状地に多く埋蔵され、中国、オーストラリア、**ブラジル**などが上位を占める**Q**が該当する。アルミニウムの利用の歴史は、銅や鉄に比べて新しく、精錬が困難で金属としての利用は、電気分解による精錬方法が考案された19世紀以降である。アルミニウムは軽量で、耐食性にすぐれ加工もしやすいことから、その合金は航空機や窓枠などの建材としても利用されている。よって、**ス**がアルミニウムである。原料のボーキサイトは、おもに**熱帯・亜熱帯**の赤色土分布地域に埋蔵され、低緯度地方の国が上位に多い**P**が該当する。

問6 **18** ㉔

㉑正しい。金属資源の中でも、ニッケルやチタン、クロム、コバルト、タングステン、リチウム、レアアース(希土類)などは、半導体や特殊合金の材料となり、先端技術産業に不可欠な金属である。しかし、流通量・資源量が少なく、レアメタル(希少金属)と総称される。㉒正しい。これらは、もともと地球上に埋蔵量が少ないか、量はあっても技術あるいは費用の面で純粋な金属を取り出すことが難しい。㉓誤り。いくつかのレアメタルの世界生産に占める割合をみると、クロム鉱は南アフリカ共和国が43.8%、タングステン鉱は中国が84.5%、コバルト鉱はコンゴ民主共和国が55.0%など、特定の発展途上国への偏りが大きく、その輸出は生産国の政情や政策に左右されやすく、供給量は不安定になりがちである(以上、統計は2011年)。㉔正しい。先進国ではごみとして大量に廃棄される家電製品や携帯電話などの電気機器にレアメタルが含まれていることから、これらを回収・解体・再生することで再利用しようという動きがみられる。廃棄物に含まれるこれらの資源は都市に多く存在するため「**都市鉱山**」とよばれる。

第4問 世界の結びつき

【出題のねらい】

交通、通信、貿易、直接投資、国家群について出題した。交通は輸送機関別の特徴、通信は携帯電話やインターネットなどの普及度、貿易は輸出入品目や貿易額、直接投資は対外と対内の差について国による違いがわかるようにしておこう。国家群については、目的

と主要加盟国について理解しておこう。

【設問別解説】

問1 19 ④

アは鉄道、イは自動車、ウは船舶である。日本では、明治以降鉄道が整備され、貨物、旅客ともに重要な輸送機関となっていた。しかし、第二次世界大戦後の高度経済成長期にモータリゼーションが進行して自動車が普及するとともに、高速道路の建設も進み、自動車による輸送量が増加した。表1では、船舶は、旅客輸送が少ないことから、旅客で割合の低いウと判定できるので、アとイが自動車か鉄道であり、貨物、旅客ともに割合が低下しているアが鉄道、上昇しているイが自動車である。経済発展とともに自動車が普及し、鉄道に代わって自動車が輸送の中心となるのは世界で一般的にみられる傾向であるが、下の図①からわかるように、日本は、先進国の中では鉄道による旅客輸送の割合が特に高くなっている。これは、大都市圏での通勤輸送や新幹線による大都市間輸送が多いためである。逆に、国土が広いアメリカ合衆国では、貨物輸送において鉄道は自動車より割合が高く、鉄道は自動車に比べて、大量の重量物を安く長距離輸送できるという利点がいかにされている。自動車の普及が遅れている中国やインドなどの発展途上国では、現在も貨物、旅客とも鉄道の輸送割合が高い。表1で、船舶は旅客輸送では割合が低いが、貨物輸送では割合が高いことがわかる。これは、日本の工業地帯の多くが臨海地域にあり、鉄鋼業や石油化学工業など重量物を輸送する工業が多いためである。図①の貨物輸送で、島国のイギリスよりドイツで船の割合が高いのは、ライン

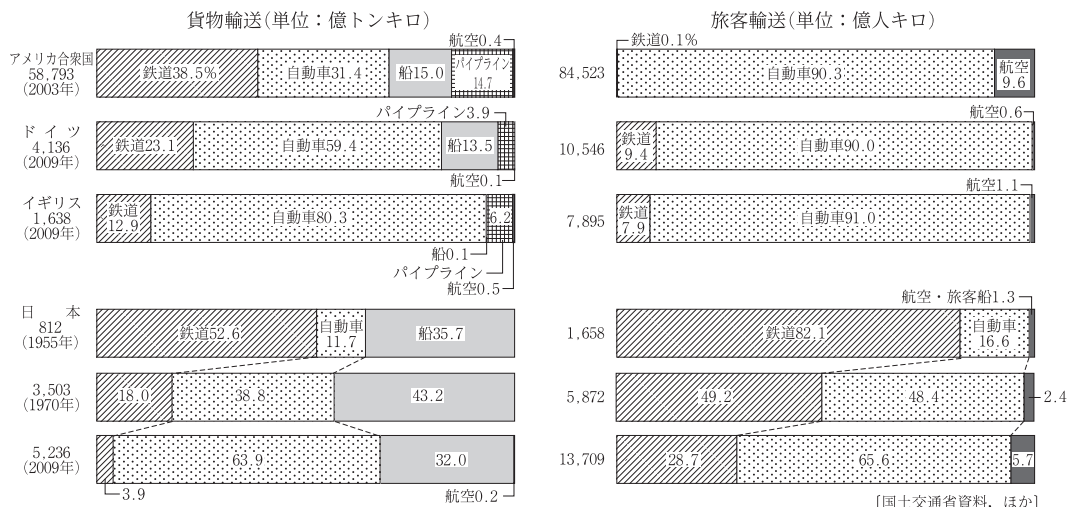
川や運河を利用した内陸水運が盛んなためである。

問2 20 ③

①正しい。固定電話は有線電話で、端末の電話機を通信回線で結ぶ必要があるが、携帯電話は、電波を利用した無線電話で、基地局を整備するだけで端末が利用できる。このため、面積が広い国や人口密度の低い国では、投資額が少なくすむ携帯電話の方が有利である。②正しい。携帯電話の方が設備投資にかかる費用が安価なため、固定電話の普及が遅れていた発展途上国では、近年急速に携帯電話が普及し、先進国並みの普及率となっている国も多い。③誤り。スマートフォンのように携帯電話もインターネットに接続できるようになっているが、発展途上国では接続サービスの利用者は少なく、パソコンによる利用も少ない。④正しい。情報量の地域間格差や個人の情報技術の活用能力の差がもたらす格差を情報格差(デジタルディバイド)といい、インターネットの普及率の差などから先進国と発展途上国との情報格差は依然として大きい。

問3 21 ②

日本は、第二次世界大戦後、アメリカ合衆国を最大の貿易相手国としてきたが、近年の中国の急速な経済発展にともなって、今世紀に入ると中国がアメリカ合衆国に代わって最大の貿易相手国となった。よって、1980年と1995年で輸出入額が最大のAがアメリカ合衆国で、2012年に輸出入額ともAを上回っているBが中国である。日本は、アメリカ合衆国に対しては機械類や自動車の輸出が多いため、輸出額が輸入額より多くなっているが、中国からは機械類や衣類の輸入が多いため、輸入額が輸出額より多く



図① おもな国の国内輸送に占める交通機関の割合

なっている。Cは、サウジアラビアで、1970年代の石油危機後の原油価格高騰で、1980年には輸入額が非常に多くなっている。今世紀に入り、原油は、発展途上国の経済成長により需要が増加し、価格が再び高騰しているため、2012年の輸入額は1980年並みになっている。

問4 22 ㊸

イランは、OPECに加盟する原油輸出国なので、鉱物燃料が7割を占める㊸が該当する。メキシコも産油国であるが、アメリカ合衆国、カナダとNAFTAを結成し、アメリカ合衆国向けの自動車などの企業進出がみられ、NIEs(新興工業国)として発展しているので、電気機械と輸送機械が1、2位に入り、鉱物燃料が3位となっている㊹が該当する。一般的分類による輸出上位品目(2012年)は、機械類、自動車、原油、精密機械の順である。南アフリカ共和国は、アフリカ最大の工業国であるとともに、鉄鉱石や金、プラチナ、石炭などの資源の大輸出国でもある。よって、鉱物・非鉄金属製品、鉱物燃料が1、2位に入っている㊸が該当する。輸出上位品目(2012年)は、金(非貨幣用)、白金族、機械類、自動車、鉄鉱石、石炭の順である。ケニアは、茶の輸出が世界一(2010年)であることから、食料・飲料・農産物原料が1位の㊹が該当する。工業化は遅れており、輸出上位品目(2011年)は、茶、野菜・果実、装飾用切花類の順である。

問5 23 ㊸

直接投資とは、外国での子会社の設立や海外支店・工場の設置、現地企業への出資や企業買収などを行うことをいう。経済水準の違いから、直接投資は、先進国から発展途上国に対して行われることが多いので、対内直接投資残高、すなわち外国からの直接投資残高の割合が、対外直接投資残高、すなわち外国への直接投資残高の割合より高い㊹が、発展途上国の中国である。㊸～㊺のうち、対内直接投資残高の割合が特に低い㊸は日本である。日本は、先進国の中では外国企業の進出にあたってさまざまな規制が多く、地価や労働費も高いことから、投資環境がすぐれておらず、外資の進出は少ない。㊸と㊹は、経済規模が小さい、すなわちGDPが小さいイギリスが、直接投資残高の割合が高い㊸であり、㊹はアメリカ合衆国である。イギリスは、域内の経済活動が自由なEUに加盟していることも、直接投資残高の割合が高いことに関係している。

問6 24 ㊸

㊸誤り。ASEAN(東南アジア諸国連合)は、1967年に当時の資本主義国5か国(タイ、マレーシア、

シンガポール、インドネシア、フィリピン)で結成された経済・社会分野での地域的協力機構である。その後、ブルネイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス、カンボジアが加盟し、10か国で構成されているが、2002年に独立した東ティモールは加盟していない。1993年にはAFTA(ASEAN自由貿易地域)が締結され、経済統合を進めている。㊹誤り。NAFTA(北米自由貿易協定)は、アメリカ合衆国、カナダ、メキシコの3か国で締結された自由貿易地域で、EU(ヨーロッパ連合)のように政治統合を目指すものではない。㊺正しい。NATO(北大西洋条約機構)は、資本主義国のアメリカ合衆国と西ヨーロッパ諸国を中心に1949年に結成された軍事同盟で、1955年に社会主義国のソ連と東ヨーロッパ諸国で結成されたWTO(ワルシャワ条約機構)と、東西冷戦時に対抗関係にあった。しかし、ソ連の崩壊にともなってWTOも解体されたため、NATOは周辺地域の紛争を脅威の対象とし、かつてWTOに加盟していた東ヨーロッパ諸国も加盟するようになった。㊹誤り。この文は、1960年に結成されたOPEC(石油輸出国機構)について述べたものである。OECD(経済協力開発機構)は、第二次世界大戦後にアメリカ合衆国が行った西ヨーロッパ復興計画であるマーシャルプランの資金受入機関として設立されたOEEC(ヨーロッパ経済協力機構)が発展的に改組したもので、アメリカ合衆国や日本など先進国が加盟し、先進国クラブともいわれる。加盟国の経済成長や発展途上国への援助、世界貿易の拡大などを目的としている。

第5問 ロシアと周辺諸国の地誌

【出題のねらい】

ロシアと周辺諸国の地形、気候、土地利用、鉱工業、民族と経済水準、ロシアの近年の動向について出題した。センター試験では出題の少ない地域で、苦手とする人の多い地域であるが、教科書には近隣諸国として記載されており、近年の変化も含めて基本事項をしっかりと押さえておきたい。

【設問別解説】

問1 25 ㊸

㊸正しい。Aは安定陸塊のロシア卓状地で、長年の侵食によって形成された構造平野の東ヨーロッパ平原が広がっている。最終氷期には、スカンディナヴィア半島を中心として大陸氷河が形成され、東ヨーロッパ平原まで拡大したため、氷河湖もみられる。㊹正しい。Bは古期造山帯のウラル山脈で、最高峰は2,000m以下であり、なだらかな山々が連

なっている。③誤り。Cは安定陸塊のシベリア卓状地で、エニセイ川とレナ川に挟まれた中央シベリア高原が広がっており、河川沿いに形成された低平な沖積平野ではない。④正しい。Dは新期造山帯の環太平洋造山帯に位置するカムチャツカ半島で、東側にはプレートのせばまる境界に形成された千島・カムチャツカ海溝が走り、活動的な火山が多くみられる。

問2 26 ②

Xの等値線は、乾燥した中央アジアを取り囲むように描かれており、乾燥気候と湿潤気候の境界に近い年降水量500mmと判定する。年降水量1,000mm以上の地域は、冷涼で空気中の水蒸気量が少ない高緯度地方には少なく、ヨーロッパでは、偏西風が山脈におつかつて多雨となるスカンディナヴィア半島西岸など一部の地域に限られる。よって、ヨーロッパの大部分がこの線の西側に位置していることから500mmと判定できる。Yの等値線は、最暖月と最寒月の平均気温の差である気温の年較差を示しているが、この線ではほぼ囲まれたシベリアは、冬季にシベリア高気圧に覆われ、放射冷却で気温が著しく低くなるため、年較差が世界で最も大きくなる。東京でも年較差は20℃を超えるので(最暖月が27.4℃、最寒月が6.1℃)、Yは40℃を示している。Yが西部では南北に走っているのは、ヨーロッパでは暖流上を吹く偏西風の影響で冬季の気温が高く、その影響がシベリア西部にも及んでいるからである。一方、シベリア北東部は、1月の平均気温が-45℃程度まで下がるので北半球の寒極とよばれ、年較差は60℃前後に達する。このような降水量や気温の等値線は、地図帳でしっかり確認しておいてほしい。

問3 27 ①

牧場・牧草地の割合が高い国は、乾燥気候地域に多いので、イは中央アジアのカザフスタンと判定できる。カスピ海の東側には砂漠気候が広がっていることを地図帳でみておこう。アは、耕地の割合が5割を超えるので、黒海の北側の平原に位置し、肥沃な黒色土のチェルノーゼムを利用して小麦などの栽培が盛んなウクライナと判定する。ウはロシアで、シベリアにはタイガとよばれる針葉樹林が広がり、森林の割合が高い。一方で、北極海沿岸には耕地や牧場・牧草地にも利用できない不毛なツンドラ地域が広がるため、三つの指標を合計しても国土の6割強にしかない。

問4 28 ①

Eはロシアの首都モスクワと第二の都市サンクト

ペテルブルクで、大市場を背景にソ連時代から機械を中心とする工業が発達していたが、近年の経済成長で、外資の進出が盛んとなり、自動車工業や先端技術産業の立地も進んでいる。よって、④が該当する。Fは、ウクライナのドニエプル工業地域とシベリアのクズネツク工業地域の都市である。両地域とも石炭や鉄鉱石に恵まれ、鉄鋼業が立地しているので、②が該当する。Gは、カスピ海の西岸に位置するバクー油田から①と判定する。旧ソ連の油田としては、このバクー油田(アゼルバイジャン)と、Gのもう一つの都市が位置するヴォルガ・ウラル油田、シベリア西部のオビ川流域にあるチュメニ油田が重要である。Hの2都市は、シベリアに位置し、豊富な針葉樹林を利用した木材加工やパルプなどの工業が発達しているので③が該当する。

問5 29 ⑥

アルタイ系民族は、アルタイ語族に属する人びとで、トルコから中央アジアを経てモンゴルに至る地域に居住しているので、Rが該当する。中央アジア諸国ではアルタイ系の中のトルコ系民族が大部分であるが、タジキスタンはインド・ヨーロッパ系のイラン系民族が中心である。旧ソ連で多数を占めていたのは、ロシア、ウクライナ、ベラルーシに居住するインド・ヨーロッパ系のスラブ系民族である。キリスト教の正教会は、東ヨーロッパからロシアにかけてのおもにスラブ系諸国で信仰されているので、Qが該当する。バルト三国ではプロテスタントやカトリックが信仰され、中央アジア諸国ではイスラームが信仰されている。旧ソ連構成国で1人当たりGNI(2011年)が最も高いのはバルト三国のエストニアの15,679ドル、最も低いのはキルギスの1,063ドルであり、格差が非常に大きい。1万ドル以上の国は、早くから工業が発達し、現在はEUに加盟しているバルト三国と、原油、天然ガス、石炭の輸出が多いロシアとカザフスタンである。よって、Pが該当する。

問6 30 ①

①誤り。ソ連の崩壊による社会主義計画経済から市場経済への転換は、社会・経済の混乱を招いたが、1990年代末からはエネルギー・鉱産資源価格の高騰で経済の高度成長が始まり、資源関係や第3次産業で富を得た富裕層が生まれた。一方で成長の恩恵を受けられない国民も多く、所得格差は拡大し、貧富の差が大きくなっている。②正しい。カフカス山脈の北麓にはロシア連邦を構成する多くの共和国があり、ムスリム(イスラム教徒)が多く居住している。チェチェン共和国のようにロシアからの分離独

立運動が盛んなところもあり、紛争も生じている。
③正しい。ソ連時代にはコルホーズ(集団農場)やソフホーズ(国営農場)で集団農業が行われていたが、市場経済の導入で、企業経営の大農場や家族経営の個人農場に転換が進んだ。崩壊後しばらくは生産が停滞していたが、近年は穀物生産が増加し、小麦は世界5位の輸出国となっている(2010年)。
④正しい。ロシアの輸出上位品目(2012年)は、原油、石油製品、天然ガス、鉄鋼、石炭の順で、エネルギー・鉱産資源の占める割合が高い。1990年代末からの資源価格の高騰によって、輸出額が急増し、近年は大幅な貿易黒字となっている。

第6問 オセアニア地誌

【出題のねらい】

オーストラリアとニュージーランドを中心としたオセアニアの地形、気候、農業、鉱産資源、社会・民族、オーストラリアの貿易について出題した。大地形と鉱産資源、気候と農業のように関連づけて覚えると理解が深まるが、地誌では、必ず地図を利用した学習を心がけたい。

【設問別解説】

問1 31 ⑤

Aは火山なので、新期造山帯の環太平洋造山帯に属するニュージーランドのCと判定する。ニュージーランドの北島では、2,000 mを超える火山が多くみられ、地熱発電も行われている。南島には3,000 mを超えるサザンアルプス山脈が南北に走り、第1問で出題したようにフィヨルドなどの氷河地形がみられる。イは、森林がなく草原が広がることから、乾燥したオーストラリア内陸のAと判定する。オーストラリア大陸は、東部のグレートディヴァイディング山脈が古期造山帯に属し、それ以外の地域は安定陸塊である。写真は世界遺産としても有名な世界最大級の一枚岩であるウルル(エアーズロック)で、侵食から取り残された残丘である。ウは、Bのタスマニア島の山で、この島はグレートディヴァイディング山脈の延長にあたり、古期造山帯に属する。南緯40度以南に位置し、氷期には氷河に覆われたため、氷河地形もみられる。この写真の判定は難しいので、大地形や気候に関する基本的知識からAとイを判定できればよい。

問2 32 ②

ヌーメアは最も低緯度に位置するので、最も気温が高い②が該当する。最寒月平均気温が18℃以上の熱帯で、月降水量60 mm未満の乾季があることからサバナ気候(Aw)である。②～④は、いずれも

最寒月平均気温が-3℃以上18℃未満の温帯で、このうち最も高緯度に位置するクライストチャーチは、最も気温が低い④である。年平均した降水があることからCfで、最暖月平均気温が22℃未満なので西岸海洋性気候(Cfb)と判定できる。Cfbは、北半球ではヨーロッパやカナダ太平洋岸のように北緯40～60度付近の西岸に分布するが、南半球では風上側に陸地がなく年中偏西風の影響を受けるニュージーランドやタスマニア島、メルボルン付近のオーストラリア南東部にも分布する。②は、冬季に降水量が多く、夏季に少ないことから、地中海性気候(Cs)と判定できる。地中海性気候は、緯度30～40度付近の大陸西岸に分布するので、ここではオーストラリア南西部のパースが該当する。③は、年中湿潤で最暖月平均気温が22℃以上であることから温暖湿潤気候(Cfa)と判定できる。温暖湿潤気候は、地中海性気候とほぼ同緯度の大陸東岸に分布するので、パースとほぼ同緯度の大陸東岸に位置するシドニーが該当する。

問3 33 ①

①誤り。Eのニューギニア島は年中高温多雨の熱帯雨林気候(Af)で、森林に火入れして得られる草木灰を肥料とし、キャッサバやタロイモ、ヤムイモなどのイモ類を栽培する焼畑農業が行われている。②正しい。Fのオーストラリア北東部沿岸は、サバナ気候や温暖冬季少雨気候(Cw)で、収穫期に乾燥する熱帯、亜熱帯に適したサトウキビのプランテーション農業が行われている。③正しい。Gはグレートアーテジアン(大鑽井)盆地で、乾燥しているが、掘り抜き井戸で被圧地下水を利用して羊や牛の放牧が行われている。地下水は塩分濃度が高いため、作物栽培には利用できない。④正しい。Hのニュージーランド北島は、海洋の影響を受けて、夏季の気温は低めであるが、冬季の気温は10℃前後と高いので、年中牧草が生育し、乳牛を飼育する酪農が盛んである。酪農品はニュージーランド最大の輸出品である。南島は冷涼で、サザンアルプス山脈が偏西風をさえぎるため、平野の広がる東岸の降水量は少なく、牧羊が中心となっている。

問4 34 ③

アルミニウムの原料となるボーキサイトは、熱帯やその周辺に多く埋蔵されており、世界一の生産国オーストラリアでも、北部の熱帯に産地がみられるRが該当する。鉄鉱石は、安定陸塊に多く埋蔵され、オーストラリアでは北西部のピルバラ地区に産地が集中しているので、Pが該当する。オーストラリアは、鉄鉱石の生産が中国に次ぐ世界2位(2011

年)で、輸出は世界一である(2009年)。銅鉱は**新期造山帯**に多く埋蔵され、生産は**チリ**が世界の約1/3を占め世界一であるが、オーストラリアでは中央部付近で産出し、世界6位の生産国となっている(2010年)。図3では、新期造山帯のニューギニア島に産地があることがヒントとなり、島の西部が属するインドネシアは生産が世界5位であり、東部が属するパプアニューギニアは世界16位である。よって、Qが該当する。ニッケルは、生産量が少ないレアメタルの一つで、ステンレス合金や電池などに利用される。オーストラリアは世界4位(2010年)のニッケル鉱生産国で、南西部で産出するが、ここでは、生産が世界6位の**ニューカレドニア(フランス領)**に注目して、Sと判定する。

問5 **35** ④

オーストラリアの輸出上位品目(2012年)は、鉄鉱石、石炭、金(非貨幣用)、液化天然ガス、原油で、資源価格の高騰によって上位はすべてエネルギー・鉱産資源で占められている。資源の輸入が多いのは日本と中国なので、図4では、オーストラリアが貿易黒字となっているYかZ、表1では、資源が上位に多い**力**か**キ**が該当する。中国は近年の経済成長が著しく、粗鋼生産も急増し、世界生産の半分近くを占めるようになってきているため、今世紀に入って輸入額が急増しているZが該当し、表1では、鉄鉱石が1位となっている**キ**が該当する。中国の鉄鉱石輸入は、世界の約2/3を占めている(2009年)。日本はYで、近年の経済停滞で輸入額も停滞しているが、輸入が世界一の石炭と世界2位の鉄鉱石はオーストラリアが最大の輸入先であり、肉類(主に牛肉)の輸入も多いので、表1では**力**が該当する。オーストラリアは、アメリカ合衆国から工業製品の輸入が多く、

一方、表1の**ク**に示されるように資源の輸出は少ないため貿易赤字となっている(**X**)。アメリカ合衆国は原油と天然ガスの世界一の輸入国で、鉄鉱石なども輸入しているが、遠方のオーストラリアは輸送費がかさむため、カナダやメキシコなど近くの国からの輸入が多い。

問6 **36** ①

①誤り。オセアニアは、東半球のほぼ赤道以北の**ミクロネシア**、赤道以南の**メラネシア**と、ミッドウェー諸島(ハワイ諸島の北西方)、ニュージーランド、ラバヌイ(イースター)島を結んだ西半球中心の**ポリネシア**に分けられ、ハワイはポリネシアに属している。②正しい。ニュージーランド先住民の**マオリ**は**ポリネシア系**で、**マオリ語**は、英語とともに公用語とされている。③正しい。オーストラリアは、18世紀後半にイギリス人の入植が始まり、最初は開発のために犯罪者を労働力として送った**流刑植民地**であった。先住民の**アボリジニー**は、白人との衝突や免疫のない病気のために人口が激減したが、近年は保護政策により人口が増加している。④正しい。オーストラリアでは、19世紀後半のゴールドラッシュで、中国人が多数流入し、白人の職を奪ったため、1901年の建国とともに、有色人種の移民を制限する**白豪主義**政策を採用した。しかし、旧宗主国で最大の貿易相手国であったイギリスが1973年にEC(現EU)に加盟し、貿易額も減少する一方で、工業化が進んだ日本などアジア諸国への資源輸出が増加した。このような背景から、アジア諸国との関係回復をめざして1970年代に白豪主義は撤廃されてアジア系の移民が急増し、各民族の文化の多様性を認める**多文化主義**政策が採用された。

●写真・図版提供

PPS 通信社／帝国書院

【公 民】

現代社会

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設 問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	問 1	1	①	2	
	問 2	2	③	3	
	問 3	3	①	3	
	問 4	4	②	3	
	問 5	5	④	2	
	問 6	6	③	3	
	問 7	7	②	3	
	問 8	8	④	3	
第1問 自己採点小計				(22)	
第2問	問 1	9	③	3	
	問 2	10	①	3	
	問 3	11	③	3	
	問 4	12	⑥	2	
	問 5	13	①	3	
第2問 自己採点小計				(14)	
第3問	問 1	14	①	2	
	問 2	15	③	3	
	問 3	16	⑤	3	
	問 4	17	①	3	
	問 5	18	③	3	
	問 6	19	④	2	
	問 7	20	②	3	
	問 8	21	③	3	
第3問 自己採点小計				(22)	
第4問	問 1	22	②	3	
	問 2	23	①	2	
	問 3	24	②	3	
	問 4	25	⑥	3	
	問 5	26	④	3	
第4問 自己採点小計				(14)	

問題番号	設 問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第5問	問 1	27	①	3	
	問 2	28	③	3	
	問 3	29	④	3	
	問 4	30	⑤	2	
	問 5	31	③	3	
第5問 自己採点小計				(14)	
第6問	問 1	32	③	3	
	問 2	33	①	3	
	問 3	34	②	3	
	問 4	35	①	2	
	問 5	36	③	3	
第6問 自己採点小計				(14)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 日本国憲法の基本原理と人権保障

【出題のねらい】

本問は、ヘイト・スピーチやヘイト・クライムの内容とそれらに対する法的規制の可否や問題点をテーマとする会話文をもとに、日本国憲法の基本原理の内容や新旧憲法の特質の比較、人権の国際的保障などについての基本的知識の習得度や理解の度を測ることをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 ① ①

日本の敗戦に伴い、連合国軍の占領下において連合国軍総司令部(GHQ)の示唆を受け憲法問題調査委員会が設置され、大日本帝国憲法の改正作業が開始された。最初の改正案はその委員長松本烝治を中心にまとめられ、松本案としてGHQに提出された。しかし、GHQは、日本が受諾したポツダム宣言の趣旨に反する内容であったことからその受取を拒否し、その代わりに、改正案(マッカーサー草案)を作成して日本政府に提示した。日本政府は、これに基づいて政府改正案を作成し、帝国議会に提出した。

②日本国憲法は、衆議院と参議院からなる国会において制定されたのではなく、大日本帝国憲法の下での衆議院と貴族院からなる帝国議会において制定された。③日本国憲法の改正は、各議院の総議員の

3分の2以上の賛成で国会が発議し、国民に提案してその承認を経なければならない。その承認には、**国民投票**において**過半数の賛成**を必要とする(日本国憲法第96条)。したがって、「過半数」は3分の2以上の誤りである。④憲法改正の国民投票に関しては、2007年に成立した**国民投票法**においてより具体的に規定されている。それによると、その承認には**有効投票総数の過半数の賛成**が必要である。したがって、「3分の2以上」は過半数の誤りである。

問2 2 ③

自衛隊の最高指揮権は「防衛大臣」ではなく**内閣総理大臣**にある。防衛大臣は自衛隊の隊務を直接統括する役割を担っている。

①**国家安全保障会議**は、2013年11月に成立した国家安全保障会議(日本版 NSC)設置法に基づいて設置された機関である。同会議は、内閣総理大臣や関係閣僚で構成され、危機管理や外交・安全保障の司令塔の役割を担う。②日本国憲法は、**戦争の放棄**、**戦力の不保持**、**交戦権の否認**を明文で規定している(第9条)。③**非核三原則**についての正しい記述である。非核三原則は、1967年に佐藤首相が衆議院の予算委員会で表明し、71年に国会(衆議院)で決議された。

問3 3 ①

自由権は、国家の干渉を排除して、各人の自由を確保する権利である。この点から、自由権を「**国家からの自由**」と特徴づけることがある。それに対し、**社会権**は、国民の人間らしい生活を保障するために国家の積極的な介入を求める権利で、この点から、社会権を「**国家による自由**」と特徴づけることがある。

②財産権などの**経済的自由権**は、経済的強者に有利になりやすいことから、経済的弱者の人間らしい生存を確保するために、「**公共の福祉**」によって一定の制約が課される。日本国憲法では、財産権については第29条2項で、居住・移転及び職業選択の自由については第22条1項で、その旨が規定されている。③日本国憲法上の**勤労権**は、生存権、教育を受ける権利、労働三権(団結権・団体交渉権・争議権)とともに社会権に分類される。④「**長沼訴訟**」を朝日訴訟に替えれば正しくなる。最高裁判所は朝日訴訟において、日本国憲法第25条の生存権の規定は、**プログラム規定**であるという考え(国家に対して政治的・道義的な目標を示した規定であり、個々の国民に直接具体的権利を付与したものではないとする考え)を示した。**長沼訴訟(長沼ナイキ基地訴訟)**は、自衛隊の憲法適合性が問題となった事件である。長

沼訴訟の第一審では、自衛隊は憲法がその保持を禁止している戦力にあたり、違憲であるという判断が示された。控訴審では、高等裁判所は、自衛隊の合憲性に関しては、**統治行為論**(高度に政治的な国家行為については、明白に違憲無効でない限り、司法審査の対象外であるとする考え)を用いて、判断しなかった。最高裁判所は、原告に訴えの利益がなくなったとして、上告を棄却した。

問4 4 ②

最高裁判所は**家永教科書訴訟**において、教科書検定は憲法が禁止する**検閲**にはあたらないという判断を示した。したがって、「教科書の検定制度を…検閲にあたり違憲であると判断した」というのは誤りである。

①大日本帝国憲法は、「日本臣民ハ法律ノ範囲内ニ於テ言論著作印行集会及結社ノ自由ヲ有ス」(第29条)と規定し、言論・表現の自由に「法律ノ範囲内」という留保を付している。現実には、1925年に制定された治安維持法に基づいて、社会主義思想などの表現活動が弾圧された。③最高裁判所は、**尊属殺人**に一般の殺人の場合に比べて著しく重い刑罰を科していた刑法第200条の規定を、日本国憲法第14条の「**法の下での平等**」に反し違憲であるという判断を示した。④憲法第14条で規定する法の下での平等や、その他の平等権の規定は、人種・性別・社会的身分などによる不合理な差別を禁止するものである。女性にのみ出産休暇や生理休暇を認めるなどの合理的理由に基づく異なる取扱いには、憲法が保障する平等権の規定に違反しないと考えられており、出産休暇・生理休暇については労働基準法で法制化されている。

問5 5 ④

何を犯罪とし、その犯罪に対してどのような刑罰を科すかということについては、あらかじめ法律で規定しておかなければならないという原則は**罪刑法定主義**と呼ばれている。日本国憲法の「何人も、法律の定める手続によらなければ、その生命若しくは自由を奪はれ、又はその他の刑罰を科せられない」(第31条)という規定には、この原則が含まれていると解釈されている。

①日本国憲法は「何人も、自己に**不利益な唯一の証拠**が**本人の自白**である場合には、**有罪とされ**、又は刑罰を科せられない」と規定している(第38条3項)。したがって、「本人の任意による自白がある場合」であっても、それが被告人にとって不利な唯一の証拠であるときには有罪とすることができない。②日本国憲法は「何人も、**現行犯**として逮捕される

場合を除いては、権限を有する司法官憲が発し、且つ理由となつてゐる犯罪を明示する令状によらなければ、逮捕されない」(第33条)と規定している。「司法官憲」とは**裁判官(裁判所)**のことである。したがって、「いかなる場合においても」というのも、また「**検察官**の発する令状」というのも誤りである。③日本国憲法は「**刑事被告人**は、いかなる場合にも、資格を有する弁護人を依頼することができる。被告人が自らこれを依頼することができないときは、国でこれを附する」(第37条3項)と規定し、**刑事裁判では公的弁護制度**が採用されている。この制度は民事裁判には適用されないので、「民事事件の被告も、経済的理由で自ら弁護人を依頼できないときは、国が弁護人を付けなければならない」という記述は誤りである。

問6 **6** ③

日本では、1985年に**女性差別撤廃条約**を批准するに際して、**男女雇用機会均等法**が制定された。

①**国際人権規約**には自由権を中心とする市民的及び政治的権利に関する国際規約(B規約)だけでなく、社会権を中心とする経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約(A規約)も含まれている。②**難民の地位に関する条約(難民条約)**で保護の対象となる難民は、政治的意見・宗教・人種などの理由で迫害のおそれがあり、故国を逃れたいいわゆる政治難民である。経済的困難を理由として国外に逃れた「**経済難民**」は、条約上の保護の対象とはならない。④**人種差別撤廃条約**の批准(1995年)に際して公職選挙法が改正されたという事実はない。また、「特別永住許可を受けた外国人に対して地方選挙権が与えられた」という事実もない。現行制度では、国政選挙に関しても地方選挙に関しても、有権者は日本国民に限られている。

問7 **7** ②

企業に対して従業員の一定割合の障害者雇用を義務づける措置は、雇用機会に恵まれないことの多い障害者の雇用機会を確保することになり、差別是正につながる。なお、日本では、**障害者雇用促進法**に基づき、職員・従業員のうち、国・地方公共団体に対しては2.3%、都道府県教育委員会に対しては2.2%、民間企業に対しては2.0%の障害者雇用を義務づけている。

①④これらは、差別の要因となる「人種や社会的身分」「国籍」という属性にとらわれることなく、すべて一律に取り扱うことを求める措置である。したがって、積極的な差別是正策にあたらない。③「特別料金を支払えば個室を利用することができる

制度」は、「**差額ベッド**」と呼ばれている。これは、経済的に余裕のある人に特別待遇を認める制度であって、差別は正策ではない。

問8 **8** ④

日本には安楽死を認める法律は存在しない。なお、医療において、患者の「**自己決定権**」を重んじる考えに、**インフォームド・コンセント**がある。これは、治療法などについて、医師は患者に対して十分に説明し、患者の同意を得て医療行為を行うべきであるとする考えを言う。

①「**知る権利**」とは、国などが保有する情報入手する権利を言う。そうした情報の入手は、マスメディアの報道を通じても可能であるし、また、情報公開制度を利用しても可能である。そのため、国民の知る権利を保障しようとする場合、報道機関の**取材の自由・報道の自由**の確保とともに、**情報公開制度**の整備が重要となる。②「**環境権**」の憲法上の根拠についての記述として正しい。「幸福追求権」は日本国憲法第13条に、「生存権」は第25条に規定されている。③国・地方自治体は大量に個人情報を保有している。民間企業のなかにも大量に個人情報を保有しているものも少なくない。そのような状況の下で個人情報を保護するために、**個人情報保護法**が制定され、その保護が図られている。また、『宴のあと』事件や『石に泳ぐ魚』事件では、私人(個人・民間企業)によるプライバシーの侵害の有無が争点となった。このように、「**プライバシーの権利**」は、国・地方自治体に対してだけでなく、民間企業・個人などの私人に対しても主張できる権利である。

第2問 情報社会

【出題のねらい】

本問は、情報化の進展及び情報社会の現状と課題について、基本的な知識の習得状況を確認することをねらいとしている。いわゆる「調べ学習」についても出題し、グラフの特性を理解しているかどうかを試した。

【設問別解説】

問1 **9** ③

マスメディアが何を報道するか、また、どのように報道するかなど、マスメディアの報道の姿勢は、世論形成に大きな影響を与える。このことからマスメディアは立法、行政、司法の三権に次ぐ「**第四の権力**」と呼ばれることがある。

①表現の自由は、民主主義にとって不可欠の権利である。そのため、民主国家であれば、一般に「政

権を批判することは法律で禁止されている」ということはない。②マスメディアとは、不特定多数の者に対して情報を伝達するための媒体・手段のことを言う。その情報には政治的な出来事だけでなく、娯楽も含まれ、映画もマスメディアの一つである。④日本では、裁判の審理中にメモを取ることはできない。もちろん、裁判のテレビ中継も行われていない。

問2 10 ①

ア：1995年から2011年にかけての実質 GDP の推移を示したいのだから、「経年変化などの時間的変化を示すのに適している」Aの折れ線グラフを用いるのが最もよい。

イ：1995年から2011年にかけての情報通信産業全体の付加価値生産額の推移と、その内訳の推移を示したいのだから、「全体の変化とその内訳の変化を示すのに適している」Bの積み上げ棒グラフを用いるのが最もよい。

ウ：2011年の全産業に占める情報通信産業とその他の産業の構成比を比較したいのだから、「全体を構成する各要素の割合を示すのに適している」Cの円グラフを用いるのが最もよい。

以上のことから、最も適当な組合せは①となる。なお、設問文中のデータは、内閣府 Web サイト「2012年度国民経済計算(2005年基準, 93 SNA)」及び総務省『平成25年版 情報通信白書』による。

問3 11 ③

「ユニバーサル・デザイン」を、販売時点情報管理(POS)システム(point of sales system)に替えれば正しい記述となる。ユニバーサル・デザインとは、年齢・性別・障害の有無などにかかわらず、誰もが使いやすく・住みやすいような、商品・家の設計・公園・街のデザインのことを言う。

①インターネット銀行は、インターネットバンク、ネット銀行とも呼ばれ、日本にもある。②日本政府は電子政府化の一環として、e-Gov(イーガブ)と呼ばれる電子政府の総合窓口を設けている。これは、総務省が運営するもので、このサイトを通して、省庁による行政手続案内や行政手続の電子申請などを行っている。④2013年に、マイナンバー法(共通番号制度関連法)が制定され、社会保障・税番号制度(マイナンバー制度)を導入することが決まった。マイナンバー制度とは、国民一人一人に割り当てる固有の識別番号(個人番号)によって、社会保障や納税を管理できるようにする制度のことである。住基ネットの番号もこのマイナンバー制度に基づく

個人番号に一元化されることになっている。

問4 12 ⑥

ア：新聞などの従来からあるマスメディアや、インターネットなどの新しいメディアを通じて、必要な情報を入手し、その真偽を判断できる能力のことをメディア・リテラシーと言う。したがって、Cがこれに該当する。

イ：インターネットの普及に伴って、自宅や、自宅近くの小さな事務所などで、ネットワークを通じてビジネスを行う事業形態がみられるようになった。こうした事業形態をSOHO(small office, home office)と呼ぶ。したがって、Bがこれに該当する。

ウ：パソコンなどの情報通信機器を利用できる環境にあるかどうか、また、パソコンを自在に利用できる能力があるかどうか、ということから生じる社会的・経済的格差のことをデジタル・デバイドと言う。したがって、Aがこれに該当する。

以上のことから、最も適当な組合せは⑥となる。

問5 13 ①

情報通信技術の発達とともに、コンピュータ・システムを攻撃するような犯罪やコンピュータ・システムを利用して行われる犯罪(いわゆるサイバー犯罪)が出現するようになった。こうした事態に対処するために、2001年にサイバー犯罪条約が採択され2004年に発効した。日本も2001年に署名し、2012年に日本について効力が発生した。

②国民生活センターは、電子商取引のトラブルに対処するために設置された機関ではない。インターネットの普及は、1990年代半ば以降のことであるが、国民生活センターは、それ以前の1970年に設置された機関である。なお、電子商取引とは、インターネットなどコンピュータのネットワーク上で電子的に行われる取引のことを言う。③通信傍受法は、「他人のIDやパスワードの不正取得を未然に防ぐことを目的」とする法律ではないので誤りである。通信傍受法は、組織的殺人、薬物関連の犯罪、銃器関連の犯罪などの組織的犯罪の捜査において、捜査機関が電話などの通信を傍受することを認めた法律である。④「不正アクセス禁止法」は、青少年インターネット環境整備法の誤り。青少年インターネット環境整備法は、インターネット関係事業者などが青少年を有害情報から守る取組みを行うなどして、青少年が安全に安心してインターネットを利用できるようにすることを目的とする法律である。不正アクセス禁止法は、他人のコンピュータに不正に侵入し、データを入手したり改ざんしたりすることを禁止している法律である。

第3問 日本経済の発展

【出題のねらい】

本問では、日本の戦後経済史の基本的な用語や出来事に関する理解を試した。日本の戦後経済が、日本国内の事情だけでなく、国際経済との密接な関係のなかで推移してきたことを再確認する機会となるように、本文ではアメリカとの関係からみた戦後日本経済史というテーマを設定し、設問でも開放経済体制への移行など、国際経済との関連を問う問題も取り上げた。

【設問別解説】

問1 ⑭ ①

1960年に池田内閣が国民所得倍增計画を策定し、1961年から1970年の10年間で国民所得(実質国民総生産)を2倍にするという目標を掲げた。その実現のために社会資本の拡充や貿易の促進などを目指した政策が遂行された。

②③④はいずれも記述の内容は正しいが、高度経済成長期(1955年ごろから1973年にかけての時期)よりも早い時期のものであるために誤り。②戦後の経済復興のために1946年にその導入が決定された傾斜生産方式のこと。復興金融金庫は1947年に業務を開始した政府系の金融機関で、傾斜生産方式実施のための長期資金を供給した。③独占禁止法は1947年に制定された。④ドッジ・ラインは1949年から実施された。激しいインフレーションの抑制や日本経済の自立を図るために、復興金融金庫の新規融資の停止、超均衡予算の実現などと並んで単一為替レートの設定が行われた。

問2 ⑮ ③

日本は1964年にOECD(経済協力開発機構)に加盟したが、OECDでは加盟国間に資本取引の自由化を義務づけていたため、日本も1967年から資本の自由化を段階的に実施した。

①日本は1919年に設立されたILO(国際労働機関)の原加盟国である(1940年脱退、1951年再加盟)。したがって、高度経済成長期に加盟したとする記述は誤り。また、ILOはいわゆる「単純労働」に就労することを目的とする外国人の受入れを求めているし、日本は、現在でも、その受入れを原則として行っていない。②牛肉とオレンジの輸入自由化は、1991年度から始まった。これは、1988年の日米合意に基づく措置である。したがって、高度経済成長期に自由化されたという記述は誤りである。④APEC(アジア太平洋経済協力会議)は1989年に、アジア太平洋地域の経済協力を目的として、アメリカ、日本、韓国、オーストラリアなど12か国(2014年5月現在は21か国・地域が加盟)で発足した経済協力の

枠組みである。これも②と同様に、高度経済成長期の出来事ではない。

問3 ⑯ ⑤

A：正しい。高度経済成長期の1968年、GNP(国民総生産)が西ドイツを抜いて、資本主義諸国中アメリカに次ぐ第2位となった。なお、現在、日本のGDP(国内総生産)は、アメリカ、中国に次いで世界第3位である。

B：誤り。第一次石油危機の翌年(1974年)に戦後初めて実質経済成長率がマイナスに転じた。また、バブル崩壊後もマイナス成長となった年がある。したがって、「実質経済成長率は一貫してプラスの成長を維持」という記述は誤り。

C：誤り。「景気の拡大」を景気の停滞とすれば正しい記述となる。スタグフレーションは景気の停滞(景気の悪化)とインフレーションが同時に進行する経済現象のことである。スタグフレーションに関しては、第一次石油危機後にみられた経済現象であるということを押さえておこう。

以上のことから、最も適当な組合せは⑤となる。

問4 ⑰ ①

高度経済成長期の前半には三種の神器(白黒テレビ、電気洗濯機、電気冷蔵庫)、後半には3C(カラーテレビ、乗用車、クーラー)と呼ばれる耐久消費財が家庭に急速に普及した。

②所得水準の上昇に伴い「レジャーブームが起きた」ことや、1960年から73年にかけて一人あたりの平均労働時間が減少傾向にあったことは確かだが、高度経済成長期に限らず現在までのところ、週休二日制が法制化されたことはない。③政府は、全国総合開発計画を策定し(1962年)、「全国各地に生産拠点」を設け、「地域間の均衡ある経済発展」の実現を目指した。しかし、この時期には、農村の過疎化と都市の過密化が社会問題となったし、また、過疎・過密の問題は現在に至るまで解消されていない。④高度経済成長期に、政府の産業優先政策の一環として、生産関連社会資本(産業道路や港湾など)の整備が優先され、生活関連社会資本(下水道や公園など)の整備は立ち遅れた。現在でも下水道普及率や都市公園の一人あたり面積は、先進国のなかで低い水準にある。

問5 ⑱ ③

バブル期には、銀行やノンバンクは不動産関連融資を積極に行った。そして、それが地価の高騰を招いた。したがって、「銀行は不動産関連事業に対してはほとんど融資を行わなかった」という記述は誤りである。なお、地価対策として、当時の大蔵省

は、総量規制(不動産向け融資の伸び率を総貸出の伸び率以下とすることを内容とする行政指導)を行い、不動産関連融資の抑制を図った。

① **ブラザ合意**(1985年)後の**円高不況**対策として、日本銀行は公定歩合を、当時としては戦後最低レベルにまで引き下げる**超低金利政策**をとった。そのため資金を低金利で借り入れられるようになった。こうして低コストで調達された大量の資金が、株・土地に対する投資の元手となり、株価・地価の高騰を招いた。②バブル経済期の1987年に**総合保養地域整備法(リゾート法)**が制定され、リゾート開発の促進が政府の政策として推進された。しかし、バブル経済崩壊後、民間企業のリゾート開発事業だけでなく、地方自治体と民間企業が資金を出し合って展開したリゾート開発事業のなかにも、経営破たんに至った例がある。④**資産効果**(資産価格の上昇により消費が拡大すること)により、「海外のブランド品をはじめとする高級消費財」の需要量は増加した。しかし、ブラザ合意以降の急激な円高によって、円建ての輸入品価格が大幅に下落したため、**消費者物価の上昇率は低い水準で安定**していた。

問6 19 ④

「約5割」と「約7割」を入れ替えれば正しくなる。この数値を知らなくても、大企業に比べて中小企業は**生産性が低い**ということを知っていれば、出荷額の割合の方が従業員数の割合よりも高いということはない、ということに気が付くであろう。

①開発途上国の場合、日本に比べ人件費が安いために低コストで生産できる。そのため、そうした商品と競合する日本の中小企業は、価格面で厳しい国際競争にさらされている。②現行の**中小企業基本法**についての記述として正しい。大企業と中小企業との間に存在する生産性や賃金などの格差は、日本経済の**二重構造**と呼ばれ、1963年に制定された中小企業基本法などに基づいてその是正が目指されてきた。しかし、中小企業基本法は1999年に改正され、中小企業政策の重点が、このような格差は正から中小企業の**自立支援**へと移された。③**ベンチャービジネス(ベンチャー企業)**は、通常、大企業が参入をためらうような分野に独自のアイデアや技術をもって参入し、新たな市場を開拓しようとする中小企業のことを指す。IT(情報技術)産業をはじめとする先端技術分野に比較的多くみられる。

問7 20 ②

「売りオペレーション」ではなく、**買いオペレーション**が正しい。**量的緩和政策**は、デフレーションからの脱却を図るために、日本銀行が2001年から

2006年にかけて採用していた政策である。これは、市中銀行が日本銀行に預ける当座預金の残高に目標を設定する政策で、その目標額は30兆円から35兆円とされた。この額に達するまで、日本銀行は、**買いオペレーション**を積極的に行い、市中銀行に資金を供給しようとした。

①**サプライチェーン**とは原料の段階から消費者の手に届くまでの生産物供給の連鎖のことである。被災地の工場がその一部を担っていた生産物に関し、被災地の工場からの供給途絶の影響が被災地以外の工場にも広がり、全国レベルで生産停止などの影響が生じた。③**サブプライムローン**とは、信用力の低い低所得者向けにアメリカの金融機関が取り扱っていた住宅ローンのことである。2005年頃からサブプライムローンの債務不履行や遅延が相次ぐと、証券化されたサブプライムローンを組み込んで生み出された様々な金融商品の信用が失われていき、2007年頃からは深刻な**金融危機**として認識されるようになってきた。この危機が頂点に達したのが2008年のアメリカの大手投資銀行リーマンブラザーズの破たん(リーマンショック)で、その影響は世界に波及した(**世界金融危機**)。この危機による世界的な不況は、自動車やエレクトロニクスなどの日本の輸出産業に大きな打撃を与えた。そうした影響もあり、2008年と2009年の日本のGDP成長率は、実質・名目ともにマイナス成長に陥った。④就職難や労働者派遣事業法の改正などの影響により、1990年代から2000年代にかけて**非正規雇用者の数が増大**した。非正規雇用者は一般に収入の水準が低い。そのなかでも、「フルタイムで働いても収入が生活保護の水準にも満たない」層がとくに**ワーキングプア**と呼ばれ、報道でもしばしば取り上げられるようになった。

問8 21 ③

産業構造の高度化、あるいは、発見者の名にちなんで**ベティ・クラークの法則**と呼ばれる経済現象である。日本でも、このことはあてはまる。

①**経済のソフト化・サービス化**とは、ソフト産業やサービス産業の経済に占める比重が高まることを言う。例えば、日本の第三次産業は、就業者数においても、国内総生産(GDP)に占める割合においても、高まる傾向を示し、現在いずれも7割台である。このことは、経済のソフト化・サービス化が進行していることの現れである。②日本では、製造業の主力産業は、高度経済成長期の前は軽工業などの**労働集約型産業**(人件費のウェイトの高い産業)であったが、高度経済成長期には、鉄鋼業などの**資本**

集約型産業(資本のウェイトの高い産業)となり、そして、高度経済成長期終焉以降は、先端技術産業のように研究開発部門が重要な役割を担う**知識集約型産業**へと移ってきた。したがって、「知識集約型産業から労働集約型産業へと移った」という記述は、逆の動きとなっており、誤りである。④上でみたように、「7割を超えている」のは**第三次産業**である。第二次産業が占める割合は、就業者数でも国内総生産でも、約25%である。

第4問 国際連合

【出題のねらい】

本問は、国際連盟・国際連合の仕組みや課題などについて出題し、国際平和組織についての基本的理解ができていのかどうかを試すことをねらいとしている。具体的には、国際連盟の欠陥、国際連合の機構や活動、国際連合の現状と課題などを設問で取り上げた。

【設問別解説】

問1 22 ②

国際連盟の創設を提唱したのは、アメリカ大統領の**ウィルソン**(在任1913~21)であったが、**アメリカ**は上院で国際連盟規約批准に必要な賛成票が得られず、国際連盟に**加盟しなかった**。一方、**日本**は国際連盟の原加盟国であるが、1933年に**脱退**している。また**ドイツ**は1926年に加盟したが、日本と同じく1933年に**脱退**している。このように国際連盟は当時の**大国の参加が十分に得られなかった**。

①国際連合の総会では、議決方式として「全会一致制」ではなく、**多数決制**が採用されている。なお、国際連盟では、総会も理事会も、原則として、**全会一致制**が採用されていた。③国際連合は、第二次世界大戦期の**連合国**によって1945年に創設されたものであり、連合国の敵国であった枢軸国は、国際連合設立にかかわっていない。したがって、「第二次世界大戦にかかわったすべての国の総意で創設され」とする記述は誤り。また、枢軸国の一つである日本の国際連合への加盟は1956年のことなので、「日本もその原加盟国となった」とする記述も誤り。④国際連盟も国際連合も、安全保障の方式として**集団安全保障方式**を採用した。したがって、「国際連盟は勢力均衡方式を採用した」とする記述は誤り。

問2 23 ①

経済社会理事会は、WHO(世界保健機関)やILO(国際労働機関)などの専門機関と連携しながら、経済的、社会的な面での国際協力を進め、生活の向上や人権の確保などの取り組みを行っている。

②「総会」と「安全保障理事会」を入れ替えれば

正しい記述となる。国際連合憲章では、**国際社会の平和と安全の維持**について**主要な責任**を負うのは、**安全保障理事会**とされ、軍事的・非軍事的強制措置について加盟国を拘束する決定を行えるなど、同理事会には、総会よりも強い権限が付与されている。③次の二点で誤りである。まず、**信託統治理事会**は、その任務の対象である信託統治地域がすべて独立を果たしたことにより、1994年以降、**活動を停止**している。また、信託統治理事会は、少数民族の分離独立の支援を行っていない。④国際連合の創設以来、**国際連合事務総長**に安保理常任理事国の国民が選ばれた例はない。

問3 24 ②

軍事同盟の強化により**国家としての独立の維持**を図ることは、人間一人一人の生命や安全の確保、あるいは、人間の尊厳の確保を目指す「**人間の安全保障**」というよりも、国家の安全や独立の確保を目指す「**国家の安全保障**」を重視した取組みである。

すべての国民に基礎教育を受ける機会を保障し人々の能力を高めることを目指す①、保健医療などの制度を整えて人々が感染症などにかかることを予防することを目指す③、生計を支えることができる就業を保障して、人々が貧困から脱することを目指す④は、いずれも、国家というよりも人間一人一人に焦点をあてて、その生命や生活、尊厳を守ろうとしているので、「国家の安全保障」よりも「人間の安全保障」を重視した取組みである。

「人間の安全保障」と「国家の安全保障」の考えに関して説明しておこう。「人間の安全保障」は、1994年に**国際連合開発計画(UNDP)**の『人間開発報告書』で使用されて以来、広く一般化した考え方で、**一人一人の人間**に焦点をあてて安全保障を考えようとするものである。紛争や災害、貧困や栄養失調、教育・保健医療の欠如といった**人間の生命や生活、尊厳に対する脅威**から人々を守り、各人がもつ豊かな可能性を実現するような措置を講じることを求めるものである。「国家の安全保障」は、安全保障に関する伝統的な考え方で、他国からの侵略や武力攻撃など、自国の**主権国家としての独立や安全に対する脅威**から、国家及び国民を守ろうとするものである。

問4 25 ⑥

A:安全保障理事会は、1965年に「**非常任理事国**」の数が、それまでの6か国から10か国に増やされた。その背景には、1960年にアフリカ諸国が大量に国連に加盟するなど、アジア・アフリカ諸国の加盟国の増加がある。「常任理事国」の数は、国際連

合設立当初から変更がなく、5か国である。したがって、「非常任理事国」が入る。

B：2006年に**人権委員会**が廃止され、それに代えて総会の下部機関として「**人権理事会**」が創設された。その背景には、人権問題への取組みが国際連合の主要な活動であるとの認識が各国に広まったことなどが指摘されている。なお、「**国際司法裁判所**」は、国際連合の主要機関として国際連合設立当初から設置されている。

C：国際連合の活動は、加盟国が支払う国際連合分担金によってまかなわれているが、通常予算の分担金の割合は、「**支払能力**」、具体的には各国の一人あたりの所得などの経済力を基礎に、一定の調整（途上国には対外債務の額に応じた割引を行うなど）を行って分担金委員会が算出し、総会の承認を経て決まる。したがって、空欄には加盟国の「**支払能力**」が入る。なお、分担率は、アメリカが第1位である。

以上のことから、最も適当な組合せは⑥となる。

問5 [26] ④

国境なき医師団は、**非政府組織(NGO)**であって、政府間の合意によって設立された政府間組織(IGO)ではない。したがって、④は、設問文にある「政府間の合意によって設立され、国家を基本的な構成単位とする政府間組織についての記述」に適合しないので、これが正解となる。

①**国際連合児童基金(UNICEF)**は、国際連合に属する国際機関である。第二次世界大戦で被災した子どもたちに対し、食料や衣料などの支援を行うために設立された。現在は途上国や紛争地域の子どもたちへの支援活動を行っている。②**国際連合人口基金(UNFPA)**は、国際連合に属する国際機関である。

③**世界保健機関(WHO)**は国際連合の専門機関である。

第5問 エネルギー・資源問題

【出題のねらい】

本問は、経済発展のために欠かせないエネルギー資源に注目し、資源の乏しい日本が、環境に配慮しつつ、エネルギーの供給問題に対してどのような取組みを行っているか、その現状の理解を深めることをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 [27] ①

2000年に制定された**グリーン購入法**は、国に対しては、環境負荷の小さい商品を購入するように義務づけ、民間企業や国民に対しては、「物品を購入し、

若しくは借り受け、又は役務の提供を受ける場合には、できる限り環境物品等を選択するよう努めるものとする」と規定し、努力要請(一般的責務)にとどめている。したがって、民間企業や一般家庭に対する義務づけは定められていないので、「国だけでなく民間企業や一般家庭に対しても」という記述は誤りである。

②2000年に制定された**循環型社会形成推進基本法**には、製品が使用済みになったあとの廃棄やリサイクルなどについてもメーカーが責任をもつという「**拡大生産者責任(EPR)の原則**」が取り入れられている。③太陽光や風力などの再生可能エネルギーの導入拡大を図るため、**再生可能エネルギー固定価格買取制度**が2012年から導入された。これにより、再生可能エネルギーによって発電された電気を電力会社が買い取り、それに要する費用を「再生可能エネルギー発電促進賦課金」として電気の利用者が負担することになった。④2012年から、石油などの化石燃料の利用に対して課税する**環境税(地球温暖化対策税)**が導入され、化石燃料に由来する二酸化炭素の課税による排出抑制が進められている。

問2 [28] ③

地方自治体のなかには、地球温暖化防止対策の一つとして、環境への負荷が小さい**住宅用太陽光発電システム**の設置に対して、一定の条件の下で**補助金**を出しているところもある。

①火力発電には、現在、石油・石炭・天然ガス・廃棄物などの燃料が用いられており、石炭を「火力発電の燃料として用いることが禁じられている」という事実はない。②電気事業連合会によれば、電源別発電電力量でみた場合、2013年度の発電電力量の構成比は、次の通りである。

原子力	1.0%
石炭火力	30.3%
天然ガス火力	43.2%
石油等火力	14.9%
水力	8.5%
地熱及び新エネルギー	2.2%

この表から分かるように、「50パーセント以上を水力発電でまかなっている」という記述は誤り。④日本の国会が「原子力発電所を全廃する法律を制定した」という事実はない。なお、福島第一原子力発電所事故を受け、ドイツ、スイスなどは脱原発を決定した。

問3 [29] ④

ア：世界に占める産出量の割合(産出量÷世界の産出量の合計)の比較は、分母(割合のもととなる数値)が同じなので、その年の産出量をみればよい。中国の2倍を超えている産出量の国はAとCなので、サウジアラビアはAかCのいずれかとなる。

イ：確認埋蔵量でも可採年数でもイランを下回っているのはCのみである。したがって、ロシアはCと確定できる。Cがロシアなので、サウジアラビアはAと確定できる。残ったBがカナダとなる。

以上のことから、最も適当な組合せは④となる。

問4 **30** ⑤

A：「コジェネレーション」とは、ガスタービンやディーゼルエンジンで発電する一方、その排熱を利用して給湯・空調などの熱需要をまかなうというエネルギーの効率的な運用を行う熱電併給システムのことなので、イがこれに該当する。

B：「バイオマス」とは、動植物などから生まれた生物由来の資源の総称のことである。間伐材などの林産資源、さとうきびなどの糖質資源、大豆やなたねなどの油脂資源といった植物由来の資源がバイオマスの代表例である。また、家畜の排泄物、食品の廃棄物といった動物由来の資源もバイオマスに含まれる。したがって、ウがこれに該当する。

C：「スマートグリッド」とは、例えば、従来のアナログ式の電力量計と異なり、電力をデジタルで計測し、メーター内に通信機能をもたせたスマートメーター(次世代電力量計)などの通信・制御機能を活用して、停電防止や送電調整のほか、多様な電力契約の実現や人件費削減等を可能にした次世代の「賢い電力網」のことである。したがって、アがこれに該当する。

以上のことから、最も適当な組合せは⑤となる。

問5 **31** ③

ネオジムやセリウムなど希土類元素の総称をレアアースと言う。これらはハイテク機器の部品などに利用され、現代の産業にとって欠かせない物質である。しかし、その全生産量の約97%を占める中国が自国産業を優先したり、レアアースを外交上の戦略物資として利用したりして、貿易紛争となっている。例えば、日本は、アメリカ、EU(欧州連合)とともに、レアアースの輸出割当を削減したり輸出税を賦課したりしている中国を、WTO(世界貿易機関)の紛争処理委員会に提訴した(2012年)。

①「先進国で高まっている資源ナショナリズムを抑制」が誤り。自国資源に対する主権を回復しようとする運動(資源ナショナリズム)は、とくに1970年代以降、資源を保有する開発途上国の間で広まっ

た。1974年の国際連合資源特別総会における新国際経済秩序(NIEO)樹立宣言も、この資源ナショナリズムの動きの一つである。②排他的経済水域が「現行の12海里以内」という記述は誤りである。国際連合海洋法条約は、排他的経済水域を、基線から200海里以内の領海の外側に設定できると規定している。なお、排他的経済水域とは、沿岸国が海洋及び海底下の生物・鉱物資源の探査・開発・保存・管理などに関して主権的権利をもつ水域である。④バーゼル条約(有害廃棄物の越境移動及びその処分の管理に関するバーゼル条約)は、有害廃棄物の国際移動を規制するための条約であって、「水資源の利用をめぐる対立や紛争」の防止にかかわる条約ではない。

第6問 国際経済の仕組み

【出題のねらい】

本問は、第二次世界大戦後のIMF・GATT体制の変遷をテーマにした文章を素材にし、国際収支や変動為替相場制、GATTやWTOに関する理解の到達度を確かめることをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 **32** ③

イギリスの経済学者リカード(1772～1823)は、名著『経済学及び課税の原理』のなかで、比較生産費説という立場から自由貿易がもたらす利益を説明した。この説によると、各国がそれぞれ比較優位にある(相対的に生産費が安い)財の生産に特化し、比較劣位にある(相対的に生産費が高い)財は他国から輸入すれば、各国はいずれも利益を得ることができる。表をみると、特化する前のしいたけと電球は、A国とB国でそれぞれ1単位ずつ、両国を合わせると、2単位ずつ生産されている。

まず、A国とB国がいずれの財が比較優位にあるかを確認しよう。しいたけは、A国では電球の $\frac{8}{10}$

$=\frac{4}{5}$ の労働力で生産できるが、B国では、電球の

$\frac{24}{16}=\frac{3}{2}$ の労働力が必要である。すなわち、A国の方がB国よりも相対的に少ない労働力でしいたけを生産できるので、しいたけはA国に比較優位がある。

他方、電球は、A国ではしいたけの $\frac{10}{8}=\frac{5}{4}$ の

労働力が必要であるが、B国ではしいたけの $\frac{16}{24}=\frac{2}{3}$

の労働力で生産できる。すなわち、B国の方が

A国よりも相対的に少ない労働力で電球を生産できるので、電球はB国に比較優位がある。

次に、比較優位にある財に特化した場合の、A国のしいたけの生産量と、B国の電球の生産量を計算してみよう。A国はしいたけを8人で1単位生産できるので、電球を生産していた10人もこれに加わり18人で生産すると、2.25単位生産できることになる。B国は電球を16人で1単位生産できるので、これにしいたけを生産していた24人が加わり40人で生産すると、2.5単位生産できることになる。

以上のことから、最も適当なものは㉔となる。

特化前

	しいたけ	電球
A国の労働者数	8人	10人
B国の労働者数	24人	16人
両国の生産量の合計	2単位	2単位

特化後

	しいたけ	電球
A国の労働者数	18人	0人
B国の労働者数	0人	40人
両国の生産量の合計	2.25単位(18÷8)	2.5単位(40÷16)

問2 33 ㉔

2011年に起きた東日本大震災以来、輸出が伸び悩む一方、原子力発電所の閉鎖に伴う電力不足を補うために液化天然ガス(LNG)や石油の輸入が増えたほか、IT機器などの工業製品の輸入が増加して輸入超過となり、2011年から13年までの日本の貿易収支は赤字となった。

㉔ 利子・配当及び雇用者報酬が所得収支に計上されるということ、黒字が続いているということは正しいが、「支払が超過」は受取が超過の誤りである。黒字ならば受取が超過していることになる。㉓ 国際連合の分担金や消費財向けの無償資金援助が経常移転収支に計上されること、赤字が続いているということは正しいが、「受取が超過」は支払が超過の誤りである。赤字ならば支払が超過していることになる。㉔ 「黒字」は赤字の誤りである。サービス収支は、赤字が続いている。なお、2014年から国際収支は新しい統計方式が採用されることになった。新方式では、上でみた「所得収支」は「第一次所得収支」という項目となり、「経常移転収支」は「第二次所得収支」という項目となる。

問3 34 ㉔

変動為替相場制の下では、外国為替市場における

外国為替の需給関係によって為替レートが変動する。例えば、ドルの需要が増えればドルの為替レートは上昇し、ドルの供給が増えればドルの為替レートは低下する。日本からの輸出が増えれば、外貨の受取が増加し、それを円に交換する動きが強まるので、外貨の供給の増加・円の需要の増加となる。その結果、為替レートは、外貨は下落し、円は上昇する。したがって、「外貨の需要が増え」は外貨の供給が増えの誤りであり、「円安」は円高の誤りである。

㉔ 日本への投資が増えるということは、外貨の供給・円の需要が増える(外貨を売って円を買う動きが強まる)ということの意味する。したがって、日本への投資の増加は、円高要因となる。㉓ 1ドル=100円から1ドル=200円へと円安・ドル高が進行した場合を想定しよう。1ドル=100円ならば、100円の日本製品は、ドルで表示すると1ドルである。それが1ドル=200円になると、100円の日本製品は0.5ドルとなる。したがって、円安・ドル高が進行すると、ドルで表示した日本製品の価格は割安となり、輸出の拡大が見込める。㉔ 上と同様の円安・ドル高が進行した場合を想定しよう。1ドルを借入れている場合、1ドル=100円ならば、この1ドルの対外債務の元本部分の返済は100円で済む。しかし、1ドル=200円になると、200円支払わなければならないことになる。このように、円安・ドル高が進行すると、対外債務の負担は重くなる。

問4 35 ㉔

WTOでは、サービス貿易のルール作りや知的財産権の保護の問題に取り組んでおり、サービス貿易に関しても知的財産権に関しても、理事会を設けている。

㉔ WTO協定は一般特惠関税制度を認めている。

㉓ WTO最初のラウンドであるドーハ・ラウンド(ドーハ開発アジェンダ)では、日本のコメなど、農産物の自由化問題が話し合われてきた。㉔ ロシアは2012年にWTOに加盟したが、中国はそれ以前の2001年にすでに加盟している。

問5 36 ㉓

表を見ると、オーストラリアとロシアを比較した場合、すべての期間において純移動数ではロシアの方が高いが、純移動率ではオーストラリアの方が7ポイント以上高いことが分かる。

㉔ アメリカの純移動数をロシアの純移動数で割ると、1990～95年は約2.01倍、2005～10年も約2.32倍となっており、これらの期間は3倍を超えていない。㉔ 「それぞれの前の期間よりも増えている」と

いう記述は誤り。日本の純移動数は、期間の古い順からその数値を挙げると、451, 17, 622, 446となっており、増減を繰り返している。④1990～95年の純移動数は、日本よりもオーストラリアの方が少

ないので、「すべての期間において最も少ない」という記述は誤り。また、2005～10年の純移動率では日本は最も低いので、「最も高い」という記述は誤り。

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	③	3	
	問2	2	⑥	2	
	問3	3	③	2	
	問4	4	③	3	
	問5	5	②	3	
	問6	6	③	3	
	問7	7	④	3	
	問8	8	①	3	
	問9	9	②	3	
	問10	10	③	3	
第1問 自己採点小計				(28)	
第2問	問1	11	④	2	
	問2	12	③	3	
	問3	13	④	3	
	問4	14	②	3	
	問5	15	⑧	2	
	問6	16	②	3	
	問7	17	①	3	
	問8	18	②	2	
	問9	19	①	3	
第2問 自己採点小計				(24)	
第3問	問1	20	⑤	3	
	問2	21	①	2	
	問3	22	④	3	
	問4	23	②	2	
	問5	24	③	3	
	問6	25	④	2	
	問7	26	②	3	
	問8	27	⑥	3	
	問9	28	③	3	
第3問 自己採点小計				(24)	

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第4問	問1	29	①	2	
	問2	30	⑦	3	
	問3	31	①	3	
	問4	32	④	2	
	問5	33	③	3	
	問6	34	②	2	
	問7	35	②	3	
	問8	36	④	3	
	問9	37	②	3	
第4問 自己採点小計				(24)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 福祉社会の現状と課題

【出題のねらい】

本問は、福祉社会をテーマとする会話文に沿って、現代の家族、青年の心理的特徴、近代の人間観に対する批判、センの思想、男女平等に関する政府の取り組み、人間の欲求、自立を目指した女性思想家に関する基本事項を取り上げ、それぞれの理解度を確認してもらうことをねらいとした。また、資料文の趣旨読取問題、図表読取問題、会話内容の読取問題など、思考力や読解力を試す設問も出題した。

【設問別解説】

問1 1 ③

民法上、婚姻後は夫か妻のどちらかの姓(苗字)に統一することになっているが、ほとんどの場合、婚姻後、妻が夫の姓に変更している。しかし、仕事で姓を変えたくないなどの理由から、夫婦別姓の導入を求める声が高まったのを背景に、法制審議会は、1996年に選択的夫婦別姓を認める民法改正案を答申したが、現在のところ実現していない。したがって、「法制度上、結婚時に夫婦で姓を同じにする必要がなくなった」という記述は誤り。

①戸主権制度は、旧民法下においてみられた制度で、家長である戸主に対して、家族員の婚姻についての同意権など、大きな権限を認めるものであった。第二次世界大戦後の民法改正により、この制度は廃止された。②ここに言うネグレクトとは、親による児童虐待の一種で、子どもへの保護の怠慢・拒

否、養育放棄を意味する。このネグレクトを含め、全国の児童相談所に寄せられる児童虐待の相談件数が近年増えており、社会問題となっている。なお、児童虐待の予防、早期発見を目指す児童虐待防止法(2000年制定)が施行されている。④日本では、65歳以上の高齢者のみで構成される世帯が増加するのにもなって、同一世帯のなかで高齢者が高齢者の介護を担う「老老介護」のケースも増え、高齢者の負担が重いことが問題になっている。

問2 [2] ⑥

アーC：ドイツの心理学者レヴィン(1890～1947)は、青年を、子どもから大人への過渡的な存在であるマージナル・マン(境界人・周辺人)と位置づけ、心理的に不安定な存在であると指摘した。したがって、Cにあてはまる具体例はAである。

イーB：アメリカの心理学者ホリングワース(1886～1939)は、青年期を、親から精神的に独立する時期であることから、**心理的離乳期**と呼んだ。乳児の成長に伴って、母乳の摂取から母乳以外の食物に切り替えていく本来の離乳期は、乳児期におとずれる。したがって、Bにあてはまる具体例はイである。

ウーA：アメリカの心理学者ホール(1844～1924)は、青年期を、本能と感情が高まる「**疾風怒濤**(シュトゥルム・ウント・ドラंक)」の時代として特徴づけた。彼によれば、この時期は、自信と自己嫌悪、無気力と興奮、喜びと苦痛、利己心と利他心、社交性と孤独、感受性と無関心、保守性と急進性、感覚と知性などが交互に現れ、あるいは対立する時期であるとされる。したがって、Aにあてはまる具体例はウである。

以上により、正しい組合せは⑥となる。

問3 [3] ③

a：フロイト(1856～1939)は、神経症の治療や夢の研究などを通じて、無意識についての体系的な理論を作り上げた。フロイトによれば、人間の心は、**エス(イド)**、**自我(エゴ)**、**超自我(スーパー・エゴ)**から成っている。エスとは無意識の領域にあって、快楽原則に従って非道徳な行動を起こす性質をもつ。超自我は、両親の教育などによって心のなかに形成される道徳意識(良心)であり、エスの非道徳的エネルギーを抑える。自我は、エスと超自我の緊張と葛藤のなかで、社会に適応するための調節の働きをする。

b：フーコー(1926～84)は、近代以降、人間の理性を尺度とした文明社会は、病気や狂気、犯罪といった反理性的なものを日常生活から排除し、理性

をもった主体的な存在としての人間という観念を作り出してきたと批判した。そして、このような理性的主体という人間観は普遍的なものではなく、西洋近代社会の「発明」にすぎないと主張した。

問4 [4] ③

資料文は、シンガー著(山内友三郎・塚崎智 監訳)『実践の倫理[新版]』昭和堂(1999年)から引用した。資料文では、「幸福のために幸福を目指す人たちは幸福を感じられないことが多いが、他の人たちはまったく別の目標を追い求めながら幸福を感じる」という「**快楽主義の逆説**」を取り上げ、そのことは「日常見聞することと一致」すると述べられている。また、その場合の幸福の役割は、「我々が達成したことに対する内的な報奨である」とも述べられている。このような資料文の主張に合致するのは③だけであるから、これが正解となる。

①資料文の主張は、自分自身の幸福とはまったく別の目標を追い求めることで幸福が得られるという考え方に立っている。したがって、「各人が自分自身の幸福の実現を目指して努力することによってしか、……幸福を手に入れることはできない」という記述は誤り。②資料文では、快楽主義の逆説は、「論理的な逆説ではなく」、また「経験的な確証はない」と述べられている。したがって、「論理的な逆説であるだけでなく、日常の経験にも反する」という記述が誤り。④資料文では、「人類は目的追求的な行為によって生きのび」てきたと述べられているが、その場合の目的とは、幸福とは「まったく別の目標」のことである。したがって、「多くの人々が自分自身の幸福という目標に向かって前進し……人類は生きのびてきた」という記述は誤り。

問5 [5] ②

経済学者セン(1933～)は、各人に対し、自ら価値あると考える生き方を選択する自由である**潜在能力(ケイパビリティ)**＝生き方の幅を等しく保障することが重要であると主張し、よき生(福祉)は、所得や富の量ではなく、ケイパビリティがどれだけ存在するかによって評価されるべきであると説いた。

①アメリカの哲学者ロールズ(1921～2002)の思想内容についての説明である。③イギリスの功利主義者ベンサム(1748～1832)の思想内容についての説明である。④中国の道家の祖である**老子**(生没年不詳)が説いた「**無為自然**」や「**小国寡民**」を想定した記述である。

問6 [6] ③

A：正文。1985年に制定された**男女雇用機会均等法**は、当初、募集・採用、配置・昇進については男

女を平等に扱う努力義務を定めるにとどまっていたが、現在では、それらを含めて雇用に関する様々な面で男女差別を禁止している。

イ：誤文。1995年に制定された**育児・介護休業法**は、使用者に対して、法定の育児休業を与えることを義務づけているが、育児休業中の賃金の支払いは義務づけていない。ただし、雇用保険から、賃金の一定割合にあたる金額が給付される。

ウ：正文。1999年に男女平等の社会の基本方針を定めた**男女共同参画社会基本法**が制定され、内閣府には担当大臣も設置されている。

以上により、正しい組合せは⑨となる。

問7 **7** ④

「意識的に自己の精神的安定を図ろうとする防衛機制」という記述が誤り。**防衛機制**は、無意識に自己の精神的安定を図ろうとする心のメカニズムである。防衛機制には、**抑圧**、**合理化**、**同一視**、**投射**、**反動形成**、**逃避**、**退行**、**昇華**など様々なものがある。なお、欲求不満への対応としては、防衛機制の他に、(1)欲求不満の原因を合理的に解決しようとする**合理的解決**、(2)衝動的な行動に走って不満を発散させようとする**攻撃・近道反応**、(3)欲求を環境に合わせて充足することができず、環境への適応に失敗する**失敗反応**などがある。

①**生理的欲求(一次的欲求)**と**社会的欲求(二次的欲求)**の区別についての記述として正しい。②**欲求不満(フラストレーション)**のうち、トレードオフ(あちら立てればこちらが立たず)の関係にある様々な欲求の選択に悩むことを**葛藤(コンフリクト)**と言う。③アメリカの心理学者**マズロー**(1908～70)は、人間の欲求は、生理的な欠乏を満たそうとする欲求から、創造・価値・自由を目指す成長欲求までの上下の階層をなしており、下位の欲求が充足されると上位の欲求に移っていく(生理的欲求⇒安全の欲求⇒所属と愛情の欲求⇒自尊の欲求⇒自己実現の欲求)とする**欲求階層説**を唱えた。

問8 **8** ①

平塚らいてう(1886～1971)は、女性の文学者による文芸雑誌『**青鞥**』を創刊(1911年)し、そのなかで「**元始、女性は実に太陽であった**。真正の人であった。今、女性は月である。他に依って生き、他の光によって輝く、病人のやうな蒼白い顔の月である。……私共は隠されて仕舞った我が太陽を今や取戻さねばならぬ」と述べ、女性の自我の覚醒と解放を促した。

②「**ヴェイユ**」ではなく、**ボーヴォワール**(1908～86)が正しい。なお、**ヴェイユ**(1909～43)はフラ

ンスの思想家で、リセ(日本の高等学校にあたる)の哲学教師として出発し、工場での労働、反ナチスのレジスタンスなど、様々な活動に身を投じながら人間の自由と尊厳についての思索を深めた。③「**樋口一葉**」ではなく、**与謝野晶子**(1878～1942)についての説明である。なお、**樋口一葉**(1872～96)は明治期の小説家で、『にぎりえ』『たけくらべ』『十三夜』などの作品で知られる。④「**ボーヴォワール**」ではなく、**ミル**(1806～73)についての説明である。功利主義の思想家で社会改革にも熱心であったミルは、1860年代に下院議員を務め、女性参政権を認める法案を議会に提出した。『**女性の解放**』はミルの著作である。

問9 **9** ②

図2の「年齢階級別再分配政策支持率」をみれば、40歳台でいったん支持の割合が低下し、反対・中立の割合が上昇している。したがって、「年齢が高くなるに従って、所得再分配政策への反対・中立の割合が低くなり、所得再分配政策への支持の割合が高くなる」という記述は誤り。

①図1の「世帯所得4分位階級別再分配政策支持率」から、この選択肢の内容を読み取ることができる。③図3の「性別再分配政策支持率」から、この選択肢の内容を読み取ることができる。④図4の「失業と再分配政策支持率」から、この選択肢の内容を読み取ることができる。

問10 **10** ③

Aの3度目と4度目の発言から、選択肢前半のAの発言についての記述は正しい。また、Bの4度目の発言から、選択肢後半のBの発言についての記述も正しい。

①Aの2度目の発言から、選択肢前半のAの発言についての記述は誤り。Aが自助努力を主張する根拠は、「市場経済が採用されている」ことではなく、個人によって幸福の判断が異なるからである。また、Bの2度目の発言から、日本では計画経済が採用されているという選択肢後半のBの発言についての記述も誤り。②Bの2度目の発言から、選択肢後半のBの発言についての記述は正しい。しかし、Aの2度目の発言から、選択肢前半のAの発言についての記述は誤り。Aが国家の介入を批判するのは、「個人は客観的な幸福の基準を理解できる合理的な判断能力をそなえて」いるからではなく、「何が幸福かは、人によって違うから」である。④Bの3度目の発言から、選択肢後半のBの発言についての記述は正しい。Bのこの発言から、問題がある場合には是正が必要だと考えていることを読み取ることが

できる。しかし、Aの5度目の発言から、選択肢前半のAの発言についての記述は誤り。Aは、社会保障制度の撤廃までは主張していない。

第2問 西洋の源流思想

【出題のねらい】

本問は、「平等」をテーマに、古代ギリシア哲学、キリスト教およびイスラーム教に関する基本事項の理解度を確認してもらうことをねらいとした。

【設問別解説】

問1 11 ④

ソクラテス(前470?～前399)は、真の知に至るためには、善や美など人間の魂にとって最も大切なことについては実は何も知らないということを自覚する必要があると説いた。こうした自覚のことを「**無知の知**」と言う。ソクラテスが用いた**問答法**(**魂の助産術**)は、相手に自分が知っていると思い込んでいることを述べさせ、問答を通じてその内容を吟味して自らの無知を自覚するように仕向け、相手が自ら真の知を見いだすのを手助けするという方法である(ソクラテスについては問5の解説も参照)。

①「知者としての自覚をもって善美に関わる真理を教授する」という記述は、問答法の説明として不適当。なお、プラトン(前427～前347)が著した『ソクラテスの弁明』によれば、ソクラテスは、友人の一人からデルフォイのアポロン神殿で「**ソクラテスに勝る知者はいない**」という**神託**(神のお告げ)があったと聞き、その信託の意味を探るために、知者として名高い人々と問答を繰り返した。その際に、ソクラテスは意外なことに気づいたとされる。それは、世間で知者であると言われている人々は、**処世術**(社会生活をおくる上の方策、世渡りの方法)としての知識をもっているだけで、人間にとって本当に大切なはずの魂のことを知らないのに知ったつもりでいる、というものであった。②ソクラテスの問答法は、「**弁論と説得の能力を磨くことを重視し、相手との論争に勝つための技術を教授する**」というものではない。③「ものごとの真偽を決める基準は人によって異なるということを感じさせ、真理の相対性を悟らせる方法」という記述は、問答法の説明として不適当。なお、真理の相対性を主張し(**相対主義**)、議論の相手を説得することを重視したのは、古代ギリシアの**ソフィスト**たちである。

問2 12 ③

デモクリトス(前460?～前370?)は、それ以上分割できない微小物質である**アトム**(**原子**)が**ケノン**(**空虚**)において離合集散することにより万物は生成

消滅するという、原子論的・唯物論的な思想を説いた。

①の「タレス」と④の「ピュタゴラス」が逆になっている。**タレス**(前624?～前546?)は、世界の根源的な原理(**アルケー**)を「**水**」であると考えた自然哲学者である。一方、**ピュタゴラス**(前6世紀頃)は、宇宙の調和と秩序の根源を「**数**」であると考えた自然哲学者である。ピュタゴラスは、輪廻する魂を肉体から解放するために禁欲的な出家教団を創設したことでも知られる。②**ヘラクレイトス**(前540?～?)は、「**万物は流転する**」と述べ、常に変化して止むことのない世界の根源は、永遠に生きる「**火**」であると説いた。なお、世界の成り立ちを「**土・空気・水・火**」という四つの根源的物質で説明したのは**エンペドクレス**(前492?～前433)である。エンペドクレスによれば、すべての事物は、それら四つの根源的物質の結合と分離によって生成・変化・消滅する。

問3 13 ④

プラトンは、民主政治に批判的であり、ソクラテスを刑死に追いやったアテネの民主政治が**衆愚政治**(愚かな民衆による政治)に陥っていると考え、**哲人政治**の理想を説くに至った。プラトンによれば、国家は統治者・防衛者・生産者の三つの階級からなり、知恵の徳を身につけた統治者(＝哲学者)が、防衛者や生産者を指導することにより、国家全体の秩序と調和が保たれて、正義の支配する理想国家が実現するとされる。一方、**アリストテレス**(前384～前322)は、支配者の数が少ない順に、優れた一人が統治する王制、少数の優れた人々が統治する貴族制、多数者が全体の利益の実現を目指す共和制を検討し、これらのうち**共和制**が最も望ましい政治形態であると説いた。

①プラトンの思想とアリストテレスの思想が逆になっている。アリストテレスは、プラトンが個々の事物を超越した普遍的な**イデア**こそが真の実在であると考えたことを批判した。そして彼は、個々の事物に内在する本質である**エイドス**(**形相**)が、素材にあたる**ヒュレー**(**質料**)に形を与えることで事物を現実化させると考えた。②プラトンの思想の説明は適当でない。普遍的な善や真理は存在しないという**相対主義**は、**プロタゴラス**(前493?～前424?)らの**ソフィスト**の思想にみられる特徴であり、普遍的なイデアを説くプラトンの思想とは相容れない。一方、アリストテレスの思想の説明は適当である。アリストテレスは、理性を人間に固有の能力と見なし、理性を十分に発揮して真理を観想する生き方、すなわ

ち観想(テオリア)的生活こそ、人間にとっての最高善であると考えた。③プラトンの思想の説明が適当でない。プラトンは、人間の魂を構成する**理性・気概・欲望**という三つの部分が、それぞれ**知恵・勇氣・節制**という徳を発揮し、理性が気概と欲望を制御して魂全体が調和のとれた状態になるとき、**正義**の徳が実現すると説いた。また、アリストテレスの思想の説明も適当でない。アリストテレスは、人間の魂を理性的な領域と、感情・欲望の領域とに二分し、それに応じて、徳を**知性的徳と倫理的徳(習性的徳)**とに分けた。知性的徳とは、真理を認識する**知恵**や実践的洞察を行う**思慮**のことであり、**節制**は、**勇氣**や**正義**とともに倫理的徳(習性的徳)に含まれる。

問4 14 ②

資料文は、マルクス・アウレリウス著(神谷美恵子訳)『自省録』岩波文庫(1956年刊)から引用した。ローマ皇帝**マルクス・アウレリウス**(121～180)は、キプロスの**ゼノン**(前335?～前263?)を祖とする**ストア派**の思想家でもあり、『自省録』を著したことで知られる(ゼノンについては問5の解説も参照)。資料文は、内なる理性が自然に従っている際には、人間は、様々な出来事に対して、それがどのような出来事であろうとも、状況が許す最善の策を柔軟に取るという形で対処できる、ということを伝えている。資料文によれば、内なる理性が自然に従っている場合の人間には、「いかなる障害物にぶつかろうともこれを自分の素材となしてしまふ」といった力強さがそなわっている。また、そうした人間のあり方を、「持ち込まれたものをたちまち自分のものに同化して焼きつくし、投げ入れられたものによって一層高く躍りあがる」炎のような存在にたとえている。

① 資料文は、理性が自然に従っている際には、「いかなる障害物にぶつかろうともこれを自分の素材となしてしまふ」くらいの柔軟な適応が可能となる、ということを述べている。つまり資料文は、目の前で起きた出来事について、「自らがもつ価値基準をもとにそれぞれの出来事の善し悪しを見分けること」ではなく、むしろすべての出来事は起こるべくして起こるものとして、そのすべてを受容し適応する態度の大切さを伝えている。したがって、「自然を貫く法則に従うのみでは、かえって柔軟性を欠くことになってしまう」という記述や、「自らがもつ価値基準をもとにそれぞれの出来事の善し悪しを見分けることが望ましい」という記述は不適当。③「自然に従っているか否かに関わりなく」という記

述は不適当。資料文は、内なる理性が「自然に従っている」ときには、困難な出来事が起こった場合であっても、柔軟に最善の策を取るよう適応する、としている。④ 資料文は、「内なる理性を普遍的な自然の法則に従わせている」場合には、人間が「柔軟に対処する」ことができる、ということを伝えている。したがって、「柔軟に対処する力を欠くことになる」という記述は不適当。また、資料文が「炎々と燃える火」にたとえているのは、自然に従い、出来事に対して柔軟に対応する内なる理性である。「怒りや愛憎といった情念」を「激しい炎」にたとえた記述も不適当。

問5 15 ②

a には「アタラクシア」が入る。エピクロス(前342?～前271?)の求める快楽とは精神的快楽であり、それは、永続的な心の平安(**アタラクシア**)の境地に達することである。

b には、「隠れて生きよ」が入る。エピクロスは、アタラクシアに達するには、心の平安を乱す政治や権力など世俗的な事柄から遠ざかり(「**隠れて生きよ**」)、必要最小限の欲求を満たしながら徳に従って生きる必要があると説いた。

以上により、②が正しい組合せとなる。

選択肢に登場する語句のうち、**スコレー**は、閑暇(ひま)を意味する。ポリスの市民は奴隷に仕事や雑事を任せることによって、自由な閑暇をもち、そのことが古代ギリシアにおいて哲学や芸術などの文化が開花する基盤となったとされる。**アパテイア**(不動心)は、ストア派が理想とする境地である。ストア派の祖であるゼノンによれば、人間の本性は、**ロゴス(理性)**によって支配されているが、様々な**情念(パトス)**が理性に従うことを妨げている。そこでゼノンは、幸福すなわち最高善を実現するためには、そうした情念に左右されることのないアパテイアの境地を目指す必要があるとした。また、「**安息日を心に留め、これを聖とせよ**」は、**モーセの十戒**に出てくる戒律の一つ。モーセの十戒とは、ユダヤ人を引き連れてエジプトを脱出した**モーセ**(前13世紀?)が、シナイ山の頂で神より授けられたとされる**律法(契約)**のこと。「**汝自身を知れ**」は、古代ギリシアのデルフォイのアポロン神殿の柱に刻まれていた格言。もともとは、神々とは異なり死すべき運命にある人間に対して発せられた、「身のほどを知れ」という戒めの言葉であったとされるが、ソクラテスはそれを「自分の無知を自覚せよ」という意味に解した。

問6 16 ②

ア：正文。「天の父は悪人にも善人にも太陽をのばらせ、正しい者にも正しくない者にも雨をふらせてくださる」というイエス(前4?~30?)の言葉にも現れているように、彼が説いた**神の愛(アガペー)**は、**無差別・無償の愛**として、罪人や社会的に蔑まれている人々にも分け隔てなく注がれるものである。

イ：正文。**パウロ**(?~60?)は、ユダヤ教から回心した後、イエスの教えをユダヤ人以外の**異邦人**に伝道することに力を尽くした人物。パウロによれば、**原罪**を負った人類を救うために、神が神の子イエスを**キリスト(救世主)**としてこの世に送り、いけにえ(十字架上の死)としたことは、神の人間に対する**赦し**の証明であり、これにより人類の**原罪**が贖われた(**贖罪**)のだとされる。

ウ：訳文。古代キリスト教会における最大の**教父**とされる**アウグスティヌス**(354~430)によれば、原罪を負った人間は自ら善をなす自由を欠いており、**恩寵**(神の恵み)によらなければ、善を志すこともできず、救われることもない。したがって、「人間は自らの自由意志によって神への信仰を選び取り、善を志すことができると考えた」という記述は、アウグスティヌスの考えに反する。

以上により、②の組合せが正解となる。

問7 17 ①

イスラーム教では、**アッラー**はあらゆる事物を超越した唯一絶対の神であり、いかなるものによってもそれを表現することはできないとされ、**偶像崇拜が禁止**されている。

②『**クルアーン(コーラン)**』には、結婚や遺産相続、食事などの日常生活上の規範も定められている。**ムスリム**(信徒)は、『クルアーン』および『クルアーン』などをもとに体系化された**シャリーア(イスラーム法)**に従うことが重視される。したがって、「信仰のあり方だけを説き、ムスリム(信徒)の生活上の指針については一切触れていない」という記述は適当でない。③イスラーム教では、**ムハンマド**(570?~632)は、モーセやイエスを選んだのと同じ神によって選ばれた最大の預言者であり、しかも**最後の預言者**であるとみなされている。したがって、「これに続く預言者はムハンマドの子孫からしか出現しない」という記述は適当でない。④イスラーム教では、アッラーは、ユダヤ教やキリスト教の神と同一であるとされる。したがって、「ユダヤ教やキリスト教の神を否定し」という記述は適当でない。なお、**信仰告白**は、ムスリムが果たすべき実践的義務である**五行**の一つであり、「アッラーのほ

かに神はいない、ムハンマドはアッラーの使徒である」と唱えることを言う。

問8 18 ②

スコラ哲学の大成者とされる**トマス・アキナス**(1225?~1274)は、**アリストテレス**の哲学などを摂取しながら、信仰の優位を前提として**理性と信仰の調和**を図ろうとしたことで知られる。彼は、人間の理性に基づく真理の探求は、神が創造した自然の秩序の探求にほかならないとし、人間の理性によって認識される真理は信仰の真理に対立するものではないと説いた。したがって、「人間の理性によって認識される真理は、信仰の真理と対立するもの」とし、「両者が互いに調和することはない」とする②の記述は適当でない。

①トマス・アキナスによれば、人間が至福の状態へと向かうためには、アリストテレスが説く**倫理的徳**では十分でなく、**パウロ**や**アウグスティヌス**の説いた**信仰・希望・愛**という、神から**恩寵**として授けられる神学的徳が必要である。③トマス・アキナスは、神、人間、自然を調和的にみる立場から、**自然法**は神の永遠法を人間が理性によって捉えたものであり、人間社会の根本的な規範であると考えた。④トマス・アキナスは、アリストテレス哲学を摂取しながら、その**配分的正義**の考え方を踏まえ、私有財産制度を認めつつ、同時に、貧者への施しなどを通して社会における富の偏在を是正する必要性を説いた。なお、アリストテレスによれば、正義は、法を守るという広義の正義である**全体的正義**と、人々の間に平等(公平)が実現するという狭義の正義である**部分的正義**に大別される。そして、部分的正義は、名誉や財貨などを各人の功績や働きの違いに応じて配分する**配分的正義**と、裁判や取引などで当事者たちの利害・得失が均等になるように調整する**調整的正義**からなるとした。

問9 19 ①

「万人に等しくそなわる理性の役割を強調するもの」がストア派に該当し、「人間を超えた存在に平等の根拠を求めるもの」が原始キリスト教に該当する。このことは、本文の第3・4段落が「国家や民族などの枠を超えた人間の普遍的なあり方を求めた点で共通している」思想の例として、ストア派と原始キリスト教をあげていることから分かる。また、本文の第4段落は、現代の私たちが人類の平和的共存を目指すうえで、「人間の平等性の探究へと向けられた先人たちの思索は……少なからぬ示唆を与えてくれるに違いない」と述べており、このことから、①の後半部分にある「これらの思想は、人々が

平和的に共存できる道を探るうえで大きな手がかりを与えてくれる」という記述も適当であることが分かる。

②本文の最終段落は、平和的に共存できる道を探るうえで、「平等性の探究へと向けられた先人たちの思索は……少なからぬ示唆を与えてくれるに違いない」と述べているが、それは「理性の働きを乱す他者との関わりをなるべく避け、禁欲を基本とした生活を目指す」ことではない。③本文の第2段落に「ソクラテスの平等主義は、国家や民族などの枠を超えてすべての人間にあってはまる普遍的なあり方を探ろうとするものではなかった」とあることから、「ソクラテスが示した平等主義の論理とパウロが語った信仰上の平等性は、国家や民族の差異を考慮しない点で共通している」という記述は誤り。④本文の第3段落によれば、ストア派は人間の平等性を説き、「ポリス(都市国家)に縛られない世界市民としての生き方」を理想としている。したがって、「アテネの規範とストア派の思想は、ポリスに属さない異質の他者を排除し、人々の積極的な交流に否定的な考え方を示した点で共通している」という記述は適当でない。

第3問 江戸時代の思想

【出題のねらい】

本問は、朱子学における感情の抑制や、これを批判する儒学者の思想、国学者である本居宣長の思想を概観する本文のもとに、江戸時代の様々な思想についての基本的な知識や理解度を問うことをねらいとした。

【設問別解説】

問1 20 ②

ア：室鳩巢(1658～1734)についての記述である。彼は江戸時代中期の朱子学者であり、徳川吉宗の侍講としても活躍した。赤穂浪士の討ち入り事件の際には、厳しい処分を主張した荻生徂徠(1666～1728)とは意見を異にし、浪士の行動を義の観点から擁護して助命を進言した。

イ：熊沢蕃山(1619～91)についての記述である。彼は中江藤樹(1608～48)の門に学んだ陽明学者であり、岡山藩主の池田光政に仕えて治山治水などで優れた業績を残した。

ウ：雨森芳洲(1668～1755)についての記述である。朝鮮との友好外交に尽力した朱子学者であり、外交の精神として「誠信の交わり」を説いた。

エ：林羅山(1583～1657)についての記述である。彼は、徳川家康以降の四代の将軍に仕えて江戸時代の朱子学の礎を築いた人物であり、『春鑑抄』のな

かで、「天は尊く地は卑し、天は高く地は低し、上下差別あるごとく、人にも又君は尊く、臣は卑しきぞ」と述べて、身分の違いを自然の理として正当化した(上下定分の理)。

以上により、正しい組合せは②となる。

問2 21 ①

中江藤樹は、朱子学が外面的形式に囚われていることを批判し、内面的な心情をより重視する独自の思想を形成した。彼の考えでは、道德の普遍的原理は孝である。それは、親子だけでなく、あらゆる人間関係を成り立たせる原理であり、さらには、宇宙万物の生成原理でもある。彼はまた、孝の具体化として愛敬を実践するように説いたが、硬直的に規範に従うのではなく、時・処・位(時と場所と身分)という現実の条件を踏まえて、柔軟に行為することが大切であると説いた。

したがって、①の組合せが正解となる。

問3 22 ④

資料文は尾藤正英責任編集(尾藤正英・前野直彬・中野三敏 現代語訳)『日本の名著 荻生徂徠』中央公論社(1974年刊)からの引用である。荻生徂徠の考えでは、儒学で説かれた道とは、天地自然に最初からそなわっているものでなく、古代の先王(聖人)が社会を安定させるために人為的に制作したものであり(先王の道、安天下の道)、具体的には礼楽刑政(儀礼・音楽・刑罰・政治)の制度のことである。資料文は、この礼楽による民衆教化の特徴について述べたくだりである。資料文のなかほどで、「くりかえして習熟すれば、まだわからなくても、精神と肉体とがもう潜在的に『化』されているので、最後にはわかってしまう」とあるように、礼楽に感化されると、民衆は礼楽に含まれる意義を自らの力で理解できるようになると、荻生徂徠は考えていた。したがって、④が正解である。

①資料文の冒頭では、言葉や刑政による民衆の教化には限界があり、そのために礼楽による教化が導入された、という趣旨のことが述べられている。したがって、「礼楽による教化は、言葉による教化によって補われなければ成功しない」という記述は誤り。②資料文の終わりに、「言葉によってわかるときは、人はその意味がそれだけのことだと思って、それ以上のことは考えない。つまりその害は、人を考えさせないことにある」とある。ここに述べられているのは、言葉による教化の欠点であって、礼楽による教化の欠点ではない。したがって、「礼楽には民衆が自ら思考しなくなるという弊害もある」という記述は誤り。③「礼楽だけで民衆の安泰は十分

にもたらされるので、先王は刑罰の制度を整える必要がなかった」という記述は、言葉や刑政による民衆の教化には限界があり、そのために礼楽による教化が導入されたという資料文の内容に合致していない。

問4 23 ②

『童子問』は伊藤仁斎(1627～1705)の主著であり、彼はこのなかで童子の問いに答えるという形式で自説を論じている。

①は安藤昌益(1703～62)、③は石田梅岩(1685～1744)、④は中江藤樹の著作である。

問5 24 ③

石田梅岩は、儒学、仏教、神道などを独学で学び、正直や儉約などの町人道德を平易な言葉で説いた人物である。その教えを心学(石門心学)と言う。彼は、自らの商人としての体験を踏まえて、士農工商という身分秩序のもとで卑しめられてきた商業を天理にかなった正当な営みとして擁護し、公正な取引によって利益を得ることは正当な報酬であるとした(「商人の買利は士の禄に同じ」)。したがって、③の「商業を私欲に基づく卑しい活動とみなし」という記述や、商人の買利を「生活のために欠かせない必要悪であるとして肯定」としたという記述はいずれも誤りである。

①二宮尊徳(1787～1856)は、農村復興に努めた農政家である。彼は、天道と人道によって成り立つ農業を万業の大本であるとし、節度のある生活設計をたてること(分度)と、余剰を人に譲ったり将来のために蓄えたりすること(推譲)を重要な徳目とした。

②安藤昌益は、八戸で医業を営んでいた人物。彼は、武士や僧侶を「不耕貪食の徒」として批判し、搾取に満ち溢れた法世を離れて、^{だれ}誰もが大地を耕す万人直耕の自然世に復帰すべきであるとした。その思想は封建的な身分制度を根本的に批判するものであるが、江戸時代にはほとんど知られていなかった。④近松門左衛門(1653～1724)は、江戸時代中期の浄瑠璃作家。『曽根崎心中』などの作品で、道德的規範である義理と、自然な情愛である人情との葛藤で苦しむ男女の姿を生き生きと描き出した。

問6 25 ④

国学者の賀茂真淵(1697～1769)は、儒学や仏教の理屈っぽい「からくにぶり」を批判し、『万葉集』に見いだされる天地自然にかなった素朴で力強い精神(高く直き心)を理想とした。

①『古今集』などにみられる女性的な「たをやめぶり」の歌風を高く評価したのは、本居宣長(1730～1801)である。賀茂真淵は、『万葉集』にみられる

男性的でおおらかな「ますらをぶり」の気風を高く評価した。②浮世草子作家である井原西鶴(1642～93)を念頭に置いた記述である。彼は、『日本永代蔵』や『好色一代男』などの作品で、「浮き世」に生きる人びとの享樂的な姿を軽妙な筆致で描いた。

③静寂や枯淡に美や趣きを感じるのは、千利休(1522～91)が大成した茶道などにみられる「わび」の精神である。

問7 26 ②

平田篤胤(1776～1843)は、儒学や仏教の影響を排した復古神道を開いた国学者である。彼は、『靈能眞柱』で靈魂の行方を論じるとともに、天皇を中心とした世界観・宇宙観を提示した。その極端な日本中心主義や排外主義は、幕末の日本思想に大きな影響を及ぼした。

①は国学の祖とされる契沖(1640～1701)、③は契沖から影響を受けて古典研究を発展させた荷田春満(1669～1736)、④は本居宣長についての記述である。本居宣長の言う「もののあはれ」とは、美しさや悲しみといった、物事の本質に触れたときに心に起こる感嘆のことであり、彼はこうした「もののあはれ」を知る人間を理想とした。

問8 27 ⑥

ア：誤文。新井白石(1657～1725)は幕政に参画した朱子学者である。彼は、日本に潜入して捕えられたイタリア人宣教師シドッチと対話し、宗教の面では西洋よりも東洋が優れていると結論したが、地理学や天文学などに関しては学ぶべきところがあるとした。したがって、「西洋から学ぶべきことは一つもないと結論した」という記述は誤りである。

イ：正文。杉田玄白(1733～1817)と前野良沢(1723～1803)は、解剖書『ターヘル＝アナトミア』を『解体新書』と題して翻訳し、西洋医学の導入に努めた。杉田玄白は、その苦勞を『蘭学事始』としてまとめている。

ウ：誤文。これは、三浦梅園(1723～89)についての記述である。彼は、医業を営むかわら読書と思索に専念し、自然世界の法則(条理)を体系的に論ずる「条理の学」を構想した。なお、平賀源内(1728～79)は、本草学や油絵、鉱山開発、エレキテル(摩擦起電機)の自作など、多才ぶりを発揮した蘭学者である。

以上により、正しい組合せは⑥となる。

問9 28 ③

本文の第2段落と第3段落冒頭では、朱子学において感情の乱れを厳格に抑える「居敬」が重視されたということが述べられており、第3段落では、こ

うした厳格主義を批判する儒学者の見解、第4段落では、日本古来の精神を理想としてありのままの感情を理想とした本居宣長の見解が示されている。③はこうした本文の趣旨と合致しており、これが正解である。

①朱子学は確かに性善説に立脚しているが、本文の第2段落と第3段落冒頭で述べられているように、聖人ではない一般の人間の場合には感情の乱れを抑える必要があるとされ、厳しい精神修養が求められた。したがって、「誰もがそのままで聖人である」という記述や、「感情を無条件に肯定」という記述は、誤りである。また、本文第4段落の末尾では、本居宣長が「ありのままの感情を強く肯定」したとあるので、「神代から受け継がれた人為的な規範のみに価値が認められ、これに反する感情は抑制するべきものとされた」という記述も誤りである。

②本文の第3段落では、儒学者の山鹿素行が、『『已むことを得ざる』自然な感情は天の運行と同じく必然的である」と指摘したとある。つまり、彼は自然な感情と外的自然を連続的に理解し、止めようとしても止められない感情を必然的なものと考えていたということである。したがって、「儒学者はみな、人間も自然世界の一部であって、意のままにならない感情もあるということに気づいていなかった」という記述は誤りである。

④本文の第3段落では、儒学者の伊藤仁斎が、「生き生きとした交わりのなかで愛しあう関係こそが孔子の説いた道であると主張」したと述べられている。したがって、「儒学では、諸悪の根源は感情であるため、感情を排除しなければ道徳的な振る舞いは成立しないと考えられていた」という記述や、「儒学者は、他者への愛情や思いやりが真に道徳的なものであり得るということに気づかず、感情に対して否定的な意義しか見いださなかった」という記述は誤りである。

第4問 市民社会の倫理

【出題のねらい】

本問は、市民社会を支える倫理をテーマに、社会契約説、アダム・スミス、フランス啓蒙思想、イギリス功利主義、カントやヘーゲルについて、それぞれの思想の要点を確認してもらうために出題した。

【設問別解説】

問1 29 ①

アダム・スミス(1723~90)は、『諸国民の富』(『国富論』)のなかで、諸個人の利己心に基づく自由な経済活動が、神の「みえざる手」に導かれて、社会全体の利益を増大させることを説いた。また、

『道徳感情論』では、「公平な第三者の共感」を得ようとする人間の道徳感情が、各人の利己的行動を自己規制する役割を果たすことで、社会の調和が保たれると説いた。

以上により、①の組合せが正解となる。

問2 30 ⑦

ア：グロティウス(1583~1645)は、『戦争と平和の法』のなかで、民族や時代を超えて、すべての人々に適用される普遍的な法である**自然法**について言及した。自然法思想は古くからあり、古代ギリシアのストア派では、宇宙を支配するロゴスが自然法と捉えられており、中世のキリスト教神学では、神の存在が自然法を根拠づけるものだと考えられていた。自然法についてのこのような捉え方に対し、グロティウスは、自然法は人間の本性である理性に根ざしたものであると主張した。さらにグロティウスは、国家間の関係においても、自然法が守られるべきであると説き、**近代自然法の父**とも**国際法の父**とも呼ばれる。

イ：フランスの思想家ヴォルテール(1694~1778)は、理性に基づいて迷信や不条理を打破することを訴えた**啓蒙思想**の代表的人物である。彼はイギリスに渡り、イギリスの政治制度を学び、著作『哲学書簡』のなかで、イギリスの議会政治、ロック(1632~1704)やニュートン(1642~1727)の思想などを紹介し、フランスの旧体制(アンシャン・レジーム)の後進性を批判した。また、『寛容論』では、宗教的不寛容を批判し、他者に対する寛容の精神の重要性を説いた。

ウ：ロックは、『統治論』(『市民政府論』)などの著作を通じて、政治は権力者の恣意に左右されるべきではなく、法の支配のもとで行われなければならないと主張した。また、国家権力を立法権と執行権・同盟権に分割し、立法権を有する議会が、執行権・同盟権を有する国王に優位する権力分立の考え方を主張した(ロックについては問5②の解説も参照)。

なお、選択肢中に出てくるスペンサー(1820~1903)は、生物が進化するのと同じように社会も進化するという**社会進化論**を唱えた人物である。彼によれば、社会は**適者生存**のメカニズムと自由競争の原理によって社会的分業が発達し、社会進化が促進されるという。適者生存という言葉は、**ダーウィン**(1809~82)が生物進化論を唱える以前にスペンサーによって用いられた。

したがって、⑦の組合せが正解となる。

問3 31 ①

カント(1724~1804)は、自律的な自由の主体としての人間を**人格**と呼び、人々が互いの人格を尊重し合う共同体を**目的の王国**と呼んで理想とした。また彼は、このような理想的な関係が国家間においても成立すべきだと考え、永久平和の実現のために、国際協力組織を設立し、各国は常備軍を撤廃する必要があると主張した。

②カントは、人間の理性の能力について検討し、人間の理性には、科学的な認識に関わる**理論理性**と、道徳的な意志に関わる**実践理性**があると主張した。そのうえで、理論理性の範囲は、人間が経験できることに限られ、神、靈魂、自由など、人間の経験を越えたものは理論理性では捉えることができず、実践理性の領域に属するとした。したがって、「神や自由、靈魂なども理論理性で捉えることができる」という記述は誤っている。③カントが主張した**道徳法則**は、理性に発する普遍的な実践の法則であり、これにかなった行動が道徳的であるとされる。この法則は、例えば「もし人から好かれたいならば、人に親切にせよ」という条件付きの命令(仮言命法)で表されるものではなく、「人に親切にせよ」という無条件の命令(**定言命法**)で表されると彼は考えた。カントによれば、人間の真の自由は、この道徳法則に自律的に従うところにあるとされる。

④カントは、道徳法則に自律的に従う人間の行為が、道徳的に善である行為であると考えた。そして、人間の行為の善悪は、行為の結果によって判断されるのではなく、行為の**動機**によって、すなわちその行為が**善意志**(道徳法則に自律的に従おうとする意志)に基づくものであったかどうかによって判断されると主張した。

問4 [32] ④

社会契約説を唱えた**ルソー**(1712~78)は、文明化により不平等と悪徳に満ちた社会を改めるためには、**公共の利益を目指す全人民の意志(一般意志)**に基づき、国家が創設され、また運営されるべきであると主張した。

①ルソーは、国家の政治は、全人民の意志である一般意志が直接反映されたものでなければならないとして間接民主制(代表民主制)を退け、**直接民主制**を提唱した。②ルソーが**特殊意志**と呼んだものの説明である。③ルソーが**全体意志**と呼んだものの説明である。ルソーによれば、特殊意志やその総和としての全体意志は、私益を追求する意志である点で、公益を追求する一般意志と区別される。

問5 [33] ③

社会契約説の代表的思想家である**ホッブズ**(1588

~1679)は、国家が成立する前の**自然状態**は、各人が自己保存権(自分で自分の身を守る権利)を自由に行使する結果、「万人の万人に対する闘争」という状態に陥ると考えた。そして彼は、この状態から脱して平和を実現するためには、人々が理性の命令(自然法)に従って主権者を決定する契約を結び、**自己保存権**(自然権)を主権者に^{ゆだね}て、主権者が制定する法に万人が従うこと(法の支配)が必要であると主張した。

①ホッブズは、人民の権利を、自然権、すなわち生来の権利と考えたから、人民の権利を「支配者が人民に恵み与えるもの」とする記述は誤り。②問2のウで出題したロックについての記述である。社会契約説を唱えたことでも知られるロックは、人民から自然権の一部を**信託**された政府が、その信託に違反して人民を脅かすに至った場合、人民は政府を変更する権利(**抵抗権・革命権**)を行使できると説いた。④ホッブズは自然状態を争いの絶えない状態であると考えたから、「自然状態は、本来平和であった」という記述は誤っている。なお、自然状態は本来平和であったが、文明社会の成立により不平等と争いが生じるようになったと考えたのは**ルソー**である。

問6 [34] ②

aには「質的」が入る。功利主義は、人間が感じる快楽を善とし、苦痛を悪とする思想である。その代表的な人物が、**ベンサム**と**ミル**である。両者の思想にはいくつかの違いがある。ベンサムは、快楽(幸福)は数量化できるとして、その量を計算する**快楽計算**を唱え、**量的功利主義**の立場をとった。他方、ミルは、快楽には感覚的快楽と精神的快楽があり、量で計測することのできない精神的快楽をより重視する**質的功利主義**の立場をとった。

bには「他人や社会のために献身」が入る。ミルが功利主義の理想としたのは、「自分がしてほしいことを他人のために行い、自分を愛するように他人を愛しなさい」というイエスの教え(キリスト教の**黄金律**)であった。人間は他人への思いやりの心をもっており、他人や社会のために献身することで精神的な快楽が得られる、とミルは考えたのである。

cには「内的」が入る。功利主義は、利己心をもつ人間の行動を規制するものとしての**制裁**について論じている。ただし、ベンサムは、宗教的制裁・物理的制裁・道徳的制裁・政治的(法律的)制裁という、外から加えられる**外的制裁**(特に政治的制裁)を重視したのに対し、ミルは、人間の良心とい

問 7

35

 ②

①ヘーゲルは、社会における法と個人における道徳が統合されて実現する**人倫**を、家族・市民社会・国家に分けて考察した。そして、自然な愛情で結ばれた**家族**という共同体と、各人が利害を追求する「欲望の体系」である**市民社会**という共同体が統合された**国家**という共同体を**最高の人倫**と位置づけ、国家において市民社会の不平等が克服され、万人の自由が実現すると考えた。したがって、「人倫は、個人にやすらぎをもたらす家族という最高の共同体において完成する」という記述は誤り。②資本主義社会では、「労働の成果である生産物が労働者のものにならず、労働者は生産物から疎外されている」と主張したのは、ヘーゲルではなく**マルクス**(1818～83)である。③ヘーゲルが「**理性的なものは現実的である**」と述べたのは事実だが、「君主制を非合理的なものとして否定し、人民主権に基づく共和制を樹立すべきだと主張した」という記述は誤りである。彼は、ゲルマン民族が作りあげた立憲君主制こそ人間の自由が最高度に実現する最良の政治形態であると主張し、当時の**ドイツ(プロイセン)の絶対主義的な君主制を擁護した**。

問 8 36 ④

① 資料文では、「私に特有な力の……中心点」となるものは、選択肢にある「自然の法則」ではなく、「私の思考と意欲」であると述べられているので誤り。② 資料文では、「私の思考」および「自由に企図された目的概念に従って自由に意欲」しようとする意志が重視されており、さらに、「私の身体」

問 9 37 ②

④本文の最終段落で、ヘーゲルは市民社会が「貧富の格差などの様々な矛盾を生み出すことをすでに見抜いていた」ことが述べられているから、「近代の思想は、現実の社会が直面する様々な矛盾を見抜くことができず」という記述が本文と合致しない。

③本文の第2段落から、少なくとも近代思想の出発点の一つは、人々が中世の「身分制度しんぶんせいどの桎梏しごくと不条理さを意識し」、「理性を有する平等な個人として、身分制度を打破する道を模索し始めた」ことにあると読み取れるから、「西洋の近代思想は、個人主義に立脚する市民社会がもたらした様々な矛盾の解決を目指すところから出発し」という記述は本文と合致しない。また、近代思想がそうした矛盾の解決という「使命を十分に果たしてきた」という記述や、現代の私たちが「近代とはまったく異質の社会的な矛盾に直面して」いるという記述も、本文の最終段落と合致しない。④本文の第2段落では、「宗教改革が育んだ個の自覚にも促されて、人々は身分制度しんぶんせいどの桎梏しごくと不条理さを意識」したと述べられている。したがって、「宗教改革によって妨げられてきた平等な個人という自覚」という記述は本文と合致しない。また、本文の最終段落では、「個人の自由な発

展が同時に万人の自由な発展につながるような社会」の構築が、近代から引き継がれた現代の課題であるという趣旨のことが述べられている。したがっ

て、現代の私たちが「個人より国家を重視する思想を再構築する必要に迫られている」という記述も本文の内容と合致しない。

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	③	3	
	問2	2	①	3	
	問3	3	⑥	3	
	問4	4	②	2	
	問5	5	②	3	
	問6	6	④	3	
	問7	7	①	3	
	問8	8	②	3	
	問9	9	①	3	
	問10	10	①	2	
第1問 自己採点小計				(28)	
第2問	問1	11	①	3	
	問2	12	②	3	
	問3	13	④	3	
	問4	14	②	3	
	問5	15	②	3	
	問6	16	③	2	
第2問 自己採点小計				(17)	
第3問	問1	17	③	3	
	問2	18	③	2	
	問3	19	④	3	
	問4	20	①	3	
	問5	21	①	2	
	問6	22	②	3	
	問7	23	②	3	
第3問 自己採点小計				(19)	
第4問	問1	24	④	2	
	問2	25	③	3	
	問3	26	③	3	
	問4	27	①	2	
	問5	28	②	3	
	問6	29	②	3	
	問7	30	③	3	
第4問 自己採点小計				(19)	

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	31	②	2	
	問2	32	③	3	
	問3	33	①	3	
	問4	34	④	3	
	問5	35	①	3	
	問6	36	②	3	
第5問 自己採点小計				(17)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 戦後の国際社会

【出題のねらい】

本問は、第二次世界大戦後の国際社会について、政治・経済の両面から出題したもので、国際政治の動向や、国際経済の基本理論および現状について、知識の習得度を試すことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 ① ③

アにある「アメリカとソ連の首脳が…冷戦の終結を宣言」したのは、1989年のマルタ会談においてである。地中海のマルタで開催された米ソ首脳会談であることから、このように呼ばれている。マルタの位置は、Bである。イにある「冷戦の象徴であった…壁」は、ベルリンの壁のこと。当時ドイツは、資本主義(西ドイツ)と社会主義(東ドイツ)の二つの国に分断されていたが、ベルリンの壁はベルリン地域を東西ドイツに隔てていたものである。1989年にこの壁は取り壊されたが(ベルリンの壁崩壊)、この出来事は世界の人々に冷戦構造が大きく転換しつつあることを印象づけた。ベルリンの位置はAである。なお、翌年の1990年に東西ドイツは統一された。ウについて、1990年にイラクは、隣国のクウェートに侵攻してその併合を宣言した。これに対して、国連安全保障理事会はイラクに対する制裁容認決議を採択し、1991年にはアメリカ軍を中心とする多国籍軍がイラクに制裁攻撃を加え(湾岸戦争)、クウェートは解放された。クウェートの位置は、Cである。

以上のことから、適当な組合せは③となる。

問2 ② ①

比較生産費説は、リカード(1772～1823)が唱えた経済学説。これは、各国が、比較優位にある製品の生産に特化してこれを輸出し、そうでない製品は輸入でまかなうことで、各国ともに利益が生じるとす

るもので、自由貿易論の理論的支柱となっている。

アから考えよう。P国では機械を1単位生産するのに2人が必要なのだから、「機械の生産を1単位だけ増加させ」るには、衣料品生産から2人を機械生産に移す必要がある。すなわち、移された2人が担っていた分だけ衣料品生産ができなくなるわけである。P国では8人で衣料品1単位を生産するのだから、2人であれば0.25単位の生産に相当する。したがって、ここには「0.25」が当てはまる。

同様にイを考えてみよう。Q国では機械を1単位生産するのに18人が必要なのだから、「機械の生産を1単位だけ増加させ」るには、衣料品生産から18人を機械生産に移す必要がある。すなわち、移された18人が担っていた分だけ衣料品生産ができなくなるわけである。Q国では9人で衣料品1単位を生産するのだから、18人であれば2単位の生産に相当する。したがって、ここには「2」が当てはまる。

以上のことから、正しい組合せは①となる。

なお、いま示したように、機械の生産を1単位だけ増加させるために、その犠牲となる(減らざるを得ない)衣料品生産は、P国では0.25単位で済むのに対し、Q国では2単位にもなる。すなわち、P国のほうが少ない犠牲で済むので、「機械の生産については、P国に比較優位」がある。

問3 3 ②

アは1995年のこと。第二次世界大戦が終了して間もない1947年に締結された GATT は、ウルグアイラウンドの合意に基づいて、常設機関である WTO へと発展的に改組された。

イは1964年のこと。開発途上国の要求を背景に、南北問題の解決に向けた取組みや交渉を行う国連総会の直属機関として設置されたのが、UNCTAD である。

ウは1945年のこと。第二次世界大戦末期の1944年に、大戦終結後の国際経済秩序に関するブレトンウッズ協定が結ばれた。これに基づいて、為替相場安定のための短期資金融資を担う IMF (国際通貨基金) と、戦災復興と経済開発のための長期資金融資を担う IBRD が、1945年に創設された。

以上のことから、これを古い順に並べると、⑥の「ウーイーア」となる。

問4 4 ②

EC (欧州共同体) は、1993年のマーストリヒト条約の発効に伴って EU となった。イギリスとデンマークは1973年に当時の EC に加盟しているので、「EU 発足時からの加盟国」である。そして、EU は

1999年に共通通貨ユーロを導入したが、すべての EU 加盟国がこれを導入しているわけではない。イギリスとデンマークは現在も「ユーロを導入していない国」である。

なお、①にあるベルギーとフランスは表中の A に、③にあるハンガリーとクロアチアは表中の D に、④にあるオーストリアとスロベニアは表中の C に、それぞれ該当する。

問5 5 ②

これは、「トルコ」ではなくエジプトにおける出来事の記述であるから、誤り。2010年末のチュニジアを端緒に、中東から北アフリカにかけてのいくつかの国では、民主化運動が激化して政権が打倒される動きが相次いで生じた(アラブの春)。トルコではこれにかかわる政変は生じていない。

残る選択肢は、いずれも適当である。①イギリスは二大政党制の国であり、第二次世界大戦後は保守党か労働党のいずれかが下院の過半数を制して単独で政権を担ってきた。しかし、2010年の下院総選挙の結果、両党ともに過半数を制することができなかった。そのため、少数党である第三党の自由民主党がキャスティングボートを握り、同党は保守党と連立政権を組んだ。③日本は、2002年のシンガポールを皮切りに EPA を次々と締結するようになり、2011年にはインドとの間でもこれを締結した。④アメリカとロシア(かつてはソ連)の間ではこれまでもいくつかの核軍縮条約が締結されてきた。たとえば1991年には第一次戦略兵器削減条約 (START I) が米ソ間で締結された。しかし、この条約は2009年に失効したため、その後継にあたる条約として、2010年に新 START が米ロ間で調印され、2011年に発効した。

問6 6 ④

まず、日本の貿易相手国は、中国経済の急成長などを背景に、今日では輸出・輸入ともに中国が第一位となっている。したがって、2012年時点で輸出・輸入ともに最も大きい値を示している A が中国であると分かる。

日米間ではこれまでも貿易摩擦が大きな問題となっていた。すなわち、日本からアメリカへの輸出が、アメリカからの輸入を大幅に上回る状況が続いてきたわけである。この構造は、現在でも解消したわけではなく、アメリカに対しては大幅な貿易黒字を計上している。このことを前提に B を考えると、直近の年次において輸出超過の構造が解消しているので、アメリカではないと判断できる。したがって、C がアメリカであり、B は EU であると分か

る。

以上のことから、④が正しい組合せとなる。

問7 **7** ①

「旅行代金」は、旅行にかかるサービスの提供に対する対価(代金)なので、これが**サービス収支**に計上される。

②は貿易収支、③は所得収支(第一次所得収支)、④は経常移転収支(第二次所得収支)に、それぞれ計上される。なお、()内の表記は、2014年1月の取引引分が計上されるものから使われる新統計での名称である。

問8 **8** ②

たとえば、(i) 1ドル=200円から(ii) 1ドル=100円へと**円高**になった例を想定してみよう。1000円の商品を日本が輸出した場合、円高になる前の(i)の為替相場では、「ドルで表示した…価格」は5ドルである。しかし、円高により(ii)の為替相場になると、「ドルで表示した…価格」は10ドルとなる。すなわち「ドルで表示した…価格は上昇する」。

①「円安」は円高の誤り。「日本国内で金利が上昇する」と、海外の投資家は高い金利に魅力を感じて日本への投資を活性化させる。日本へは円で投資をすることになるので、海外の投資家は円を買うことになる。すなわち、外国為替市場での**円の需要が増加**するので、為替相場は**円高**へと振れることになる。③「円高」は円安の誤り。「海外からの輸入が増加する」と、海外に対して外貨で代金を支払わなければならないので、日本の輸入業者は円を売って外貨を買うことになる。すなわち、外国為替市場での**円の供給が増加**するので、為替相場は**円安**へと振れることになる。④「大きく」は小さくの誤り。たとえば、(iii) 1ドル=100円から(iv) 1ドル=200円へと**円安**になった例を想定してみよう。日本のGDPが500兆円だとした場合、円安になる前の(iii)の為替相場では、「ドルで表示した日本のGDPの額」は5兆ドルである。しかし、円安により(iv)の為替相場になると、「ドルで表示した日本のGDPの額」は2.5兆ドルとなる。すなわち、「ドルで表示した…額」は小さくなる。

問9 **9** ①

「抗議運動が生じたことはない」は誤り。経済のグローバル化は一部の先進国や富裕層にのみ有利に働くものとして、**反グローバリズム**と呼ばれる運動が発生している。こうした運動の担い手の中には、たとえばサミット(主要国首脳会議)やIMF総会は、このグローバル化を推進するものとして、こうした国際会議が開催されるにあたって、さまざま

な形での抗議運動を繰り返していることがあり、ニュースなどで注目されることも少なくない。

残る選択肢は、いずれも正しい。②の「**人間の安全保障**」は、近年注目されている概念である。③気候変動枠組み条約に基づく**京都議定書**では、「先進国が開発途上国に対して、温室効果ガス削減に向けた技術や資金を供与」し、その削減分を先進国が自国の削減分に繰り入れることが、**クリーン開発メカニズム**として認められており、実際にもこうした供与の例は少なくない。④**経済社会理事会**は、その活動にあたって、資格をもつ**NGOと協議**する場合がある。

問10 **10** ①

国連の主要六機関の一つである**信託統治理事会**は、信託統治地域の自治の促進を目的として活動してきた。しかし、1994年に最後に残っていた信託統治地域が独立したことに伴い、**現在はその活動を停止**している。

②「総会の議決権」は、国連分担金の金額にかかわらず、**一国に対して一票**が平等に与えられている。③**安全保障理事会**の決議は、理事国15か国のうち**9か国以上の賛成**があれば成立する。すなわち、「すべての理事国が賛成しなければ成立しない」というのは誤り。ただし、侵略行為の認定など実質事項については原則として、五つの常任理事国すべての賛成が必要とされている(**大国一致の原則**)。これはあくまでも「五つの常任理事国」についてであって、非常任理事国も含めた「すべての理事国」の賛成が必要なわけではない。④**国際司法裁判所**は、国家間の紛争のみを扱うのであって、個人の犯罪を裁判することはできない。なお、「人道に対する罪を犯した個人を裁くことができる」国際裁判所には、2003年に開設された**国際刑事裁判所**がある。

第2問 資本主義経済の基本原則

【出題のねらい】

本問は、資本主義の成立から現代に至るまでの歩みをテーマにした本文の下、市場機構や財政・金融政策といった経済の基本原則、そして現代の経済学説についての知識と理解を試すことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 **11** ①

まず、均衡点が E_0 から E_1 へ移ったということとは、図から、**需要曲線が右に移動(シフト)**したということになる。すなわち、価格が同じでも**需要が増加**したということである。この要因として考えられるのは、**消費者の所得上昇**である。所得が上昇すれば

ば、それだけ消費者の購買力が高まるからである。これに対し「消費者の所得低下」は、購買力を低くする要因なのだから、価格が同じなら需要量が減少する、すなわち需要曲線を左に移動させる要因である。

次に、均衡点が E_1 から E_2 へ移ったということは、図から、供給曲線が右に移動したということになる。すなわち、価格が同じで供給が増加したということである。この要因として考えられるのは、技術革新による生産費の低下である。生産費が低下すると、他の条件が変わらなければ利潤が増加するため、新規参入企業が生じるなどして供給量が増加する。これに対し「原材料費の上昇」は、利潤が減少する要因なので、供給量が減少する。すなわち、供給曲線を左に移動させる要因である。

以上のことから、まず「消費者の所得上昇」が生じ、次に「技術革新による生産費の低下」が生じたとする、①が正解となる。

問2 12 ②

少数の企業が市場を支配する寡占市場においては、価格面での競争が回避され、価格が下がりにくくなる価格の下方硬直化という現象がみられる。その一方で、広告、宣伝、品質、アフターサービスといった価格以外の面での企業間競争(非価格競争)が激化することがある。

①「軽工業」と「重化学工業」の関係が逆になっている。独占や寡占は、新規参入が容易な分野よりも、新規参入が困難な分野で成立しやすい。大規模な設備を要する重化学工業の方が新規参入は難しいので、軽工業よりも重化学工業のほうが、独占や寡占は成立しやすい。③日本の独占禁止法が「企業によるカルテルの結成」を禁止しているというのは適当だが、「持株会社の設立」は認めているので、これを「禁止している」とする記述は不適当。④公正取引委員会は、独占禁止法の運用にあたっている、内閣府の外局に位置づけられる行政機関(行政委員会)である。日本国憲法は「行政機関は、終審として裁判を行ふことができない」(第76条2項)と定めているので、行政機関である公正取引委員会が「終審として裁判を行う」ことはできない。

問3 13 ④

「市場の失敗」とは、市場機構がうまく機能せず、効率的な資源配分が実現しないことを意味する。需要が増えれば価格が上昇するというのは、市場メカニズム(市場機構)が機能しているから起こる現象なので、④は市場の失敗の例ではない。

市場の失敗には、具体的には、次のような場合が

ある。ア：対価を支払わずに利用が可能な公共財が十分には供給されない。イ：独占や寡占が成立して価格が下がりにくくなる。ウ：ある経済主体の行動が市場を経ることなく他の経済主体に効果を及ぼす(外部効果)。エ：取引を行う双方に正確な情報が対等に与えられていない(情報の非対称性)。このうち、①はエの、②と③はウの、それぞれ例である。なお、外部効果のうち、他の経済主体に有利な効果を及ぼす場合を外部経済、不利な効果を及ぼす場合を外部不経済というが、②は外部経済、③は外部不経済にあたる。

問4 14 ②

政府の経済活動である財政には、資源配分の調整、所得の再分配、経済の安定化という三つの機能がある。このうち、所得の再分配を具体的に担っているのが、累進課税制度と社会保障制度である。累進課税制度は所得や相続額が大きくなるにつれて税率が高くなる制度であり、所得税や相続税に採用されている。一方、消費税は、高所得者でも低所得者でも一律の税率が適用されており、累進課税制度が採用されている所得税に比べて所得再分配の効果は低い。したがって、これを「効果が高い」としている記述は誤り。

①公共財は、非競合性(複数の人が同時に利用可能)や非排除性(対価を支払わない人の利用を排除することが困難)といった特徴を有する財・サービスをいう。対価が徴収できないことから、利潤追求を目的とする私企業によっては供給されない。そこで、政府が財政を通じて供給することになる。③政府は、経済の安定化のために、裁量的な財政政策によって有効需要を調整する(フィスカルポリシー)。一般に、景気過熱時には公共投資を抑制するとともに増税を行って、有効需要を抑える。④社会保障制度と累進課税制度は、「景気の動向に応じて自動的に景気を調節する役割を果たす」。たとえば景気過熱時には、一般に所得が増えるので、社会保障に関する支出が減少するとともに、累進課税制度によって租税負担が増えるので、有効需要の拡大が抑えられる。こうした機能は、ビルトイン・スタビライザー(自動安定装置)と呼ばれる。

問5 15 ②

Aは誤文。日本銀行は唯一の発券銀行として、法定通貨である銀行券を独占的に発行している。すなわち、市中銀行は銀行券を発行することができない。

Bは正文。日本銀行は、景気の動向に応じて、通貨量の調整を行っている。一般に、景気停滞期に

は、市中銀行から国債などの有価証券を積極的に購入(買いオペレーション)して通貨量を増加させ、景気過熱時には、保有する有価証券を売却(売りオペレーション)して通貨量の抑制を図る。

Cは誤文。「コールレート」の説明が誤っている。コールレートとは、市中銀行間で短期的に資金が貸借される際の金利のことであって、日本銀行が市中銀行に資金を貸し出す際の金利ではない。日本銀行が市中銀行に資金を貸し出す際の金利は、**基準割引率及び基準貸付利率**といい、かつては**公定歩合**と呼ばれていた。なお、日本銀行の金融政策では、かつては**公定歩合操作**が重要な役割を果たしていたが、現在ではコールレートのうちの**無担保コール翌日物金利**が、日本銀行の誘導目標としている政策金利になっている。

問6 **16** ③

フリードマン(1912~2006)は、財政による政府の積極的な市場への介入はかえって市場本来の機能を失わせ、**スタグフレーション**(景気停滞とインフレーションの同時進行)の発生をもたらしたり、非効率な政府部門を肥大化させたと批判した。そして、「**小さな政府**」を提唱し、一定のルールに基づいた通貨供給に政府の経済的役割を限定すべきであると主張した。こうした考え方を**マネタリズム**といい、1980年代以降に先進各国で大きな影響力をもつようになった。

①ケインズ(1883~1946)は、景気停滞期には、政府が完全雇用を実現するために積極的な**公共投資**を行って有効需要を喚起すべきだと説いた経済学者。

②シュンペーター(1883~1950)は、資本主義の発展が、さまざまな分野で既存のあり方を打ち砕いて新たな創造を行う**イノベーション(技術革新)**によってもたらされることを説いた経済学者。④エンゲルス(1820~95)は、マルクス(1818~83)とともに、資本主義を批判し**社会主義**を提唱した人物。

第3問 日本の平和主義

【出題のねらい】

本問は、日本の平和主義をテーマとして、日本国憲法の平和主義、自衛隊と日米安保条約、戦後日本の外交や領土問題などについて、基本的な知識を試すことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 **17** ③

2013年12月に、外交・安全保障の司令塔として、国家安全保障に関する諸課題について審議し、政治の強力なリーダーシップを発揮できる環境を整える

ことを目的として、**国家安全保障会議**が設置された。

①「約10パーセント」は誤り。1976年に、三木内閣の閣議決定で「防衛費は国民総生産の百分の一に相当する額を超えない」こと(**GNP 1%枠**)が定められた。1987年度予算で1%をわずかに超えたことからこの枠は放棄されたが、現在でも防衛関係費はGNI(GNP)比1%程度で推移している。②自衛隊法に「内閣総理大臣は、内閣を代表して自衛隊の最高の指揮監督権を有する」(第7条)と規定されているように、最高指揮監督権は「防衛大臣」ではなく**内閣総理大臣**がもつ。④非核三原則の内容にある「使用せず」が誤り。核兵器に関しての国の基本方針とされてきた非核三原則は、「**核兵器をもたず、作らず、もち込ませず**」である。これは、1967年に佐藤首相が表明し、1971年に国会決議がなされたものであるが、憲法や法律に明記されているわけではない。

問2 **18** ③

砂川事件とは、1957年、東京都砂川町(当時)において、駐留アメリカ軍基地を拡張するための測量に反対するデモ隊が境界柵を破壊して基地内に侵入したとして起きた裁判であり、駐留アメリカ軍や日米安全保障条約が憲法に違反するものであるかどうか争われた。地方裁判所は、駐留アメリカ軍は憲法が保持を禁じている「戦力」にあたり**違憲**と判断した。しかし、最高裁判所は、駐留アメリカ軍は憲法にいう「戦力」にはあたらないとし、日米安全保障条約については**統治行為論**(高度に政治的な問題についてはきわめて明白に違憲と認められない限り裁判所の審査の対象とはならないとする考え)に基づいて、**憲法判断を回避**した。

①**大津事件**は、1891年にロシア皇太子(後のニコライ2世)が大津市で襲撃された事件。この事件の裁判は、政府が被告人を死刑に処すように裁判所に圧力をかけ、これに対して大審院長の**児島惟謙**(1837~1908)が政府の干渉を排し**司法権の独立**を守ったとされるエピソードで知られており、これを含めて大津事件ということも多い。②**長沼事件**とは、自衛隊のミサイル基地建設をめぐる生じた裁判で、自衛隊が憲法違反であるかどうか争点の一つとなった。地方裁判所は、自衛隊は「戦力」にあたり**違憲**であると判断したが、高等裁判所は訴えを却下し、**統治行為論**に基づいて**憲法判断を回避**した。なお、最高裁判所は、憲法問題に触れなかった。④**家永事件**は、高校日本史教科書の検定をめぐる争われた裁判。**教科書検定**が憲法の禁止する

検閲にあたるかどうか争点の一つとなったが、最高裁判所は検閲にあたらないと判断した。

問3 19 ④

「両国軍が直接に武力衝突した」事実はないので、誤り。第二次世界大戦の終了後、アメリカとソ連が対立するという、戦後国際政治の基本的な構造が形成された。いわゆる冷戦であるが、これは、軍事力行使する「熱い戦争」ではないものの、緊迫した冷たい対立関係が続いたため、「冷戦」と呼ばれたのである。

残る選択肢は、いずれも正文である。①1972年に米ソ間で、SALT I (第一次戦略兵器制限条約)が結ばれている。1979年にはSALT IIが調印されたが、これは未発効となった。②フランスは、1966年にNATOの軍事機構から脱退した(2009年に全面復帰)。③1950年代後半から、社会主義建設のあり方などをめぐる論争が生じ、これをきっかけにソ連と中国は対立するようになった(中ソ対立)。1969年には国境紛争に関して、両国間での武力衝突も起こった。

問4 20 ①

「イラクへ派遣された」は誤り。テロ対策特別措置法は、2001年にアメリカで発生した「同時多発テロ」を受けて制定されたもので、同法に基づいて、アメリカがアフガニスタンで展開した「対テロ戦争」の後方支援活動として、自衛隊がインド洋に派遣されアメリカ軍艦船などへの給油活動を行った。なお、自衛隊がイラクへ派遣されたことはあるが、これは2003年に起こったイラク戦争の後の復興支援のためであり、根拠となった法律はイラク復興支援特別措置法である。

残る選択肢は、いずれも正文である。②有事法制としての武力攻撃事態対処法、③海賊対処活動、④PKO協力法とその制定の背景、について押さえておこう。

問5 21 ①

A：日本は、齒舞群島、色丹島、国後島、択捉島からなる北方領土は日本固有の領土だとして、ロシアに返還を要求している。1956年に締結された日ソ共同宣言には、国交樹立後に平和条約締結交渉を継続することとともに、両国間で平和条約が締結された後に、齒舞群島と色丹島が日本に引き渡されると記されている。ただし、現在まで両国間での平和条約は締結されていない。

B：竹島は、島根県に属する日本海の島嶼であるが、韓国が島の領有権を主張しており、現在は韓国の実効支配下にある。

C：尖閣諸島は、沖縄県に属する小島群で、周辺に石油や天然ガスといった資源が埋蔵されている可能性が高いところである。日本の実効支配下にあるものの、中国・台湾も領有権を主張しており、近年では大きな外交問題の一つとしてクローズアップされている。

以上のことから、最も適当な組合せは①となる。

問6 22 ②

1960年に改定された現行の日米安全保障条約には、「日本国の施政の下にある領域における、いずれか一方に対する武力攻撃が、自国の平和及び安全を危うくするものであることを認め、自国の憲法上の規定及び手続に従つて共通の危険に対処するように行動する」(第5条)と定めている。すなわち、日米の共同防衛義務は、「日本国の施政下にある領域」に限定されるのであって、「日本国の領域外」(日本国外)でアメリカ軍が攻撃された場合でも日米が共同して防衛行動をとることが義務づけられているというのは誤り。

残る選択肢は、いずれも適当である。①1951年に締結された当初の日米安全保障条約は、アメリカ軍の日本駐留が主な内容であった。③の事実にも留意しておこう。④の日米安保共同宣言は、冷戦終結後の国際情勢の変化を受けて、1996年に発表されたものである。

問7 23 ②

日中平和友好条約が、1978年に結ばれている。これに先立つ1972年の日中共同声明によって両国間の国交は正常化されたが、日中平和友好条約によって、両国間の平和友好関係を強固にし発展させることとした。

①「国際連合が発足した当初からの加盟国」という記述は誤り。国際連合(国連)は、1945年にサンフランシスコ会議で採択された国際連合憲章に基づいて、同年に発足した。敗戦国として占領下にあった日本は、この時点では国連に加盟できなかった。日本が国連に加盟したのは、1956年のことである。これは、同年に日ソ共同宣言(問5の解説も参照)が調印されて、ソ連が日本の国連加盟に拒否権を行使しなくなったことによる。③日本のODAは、「贈与」だけではない。返済義務のある借款も多く含まれている。④「すべての条項を留保なしで批准」が誤り。国際人権規約は、主に社会権について規定しているA規約(経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約)と、主に自由権について規定しているB規約(市民的及び政治的権利に関する国際規約)から構成されており、このほかにB規約の第一選択議

定書と第二選択議定書(死刑廃止条約)がある。日本はA・B両規約を批准しているが、A規約のうち、公務員のストライキ権と公休日の報酬保障の条項については留保している。かつては中等・高等教育の無償化も留保していたが、2012年に留保を撤回した。なお、二つの選択議定書には加わっていない。

第4問 日本の財政と金融

【出題のねらい】

本問は、日本の財政と金融に関して、近年の動向を中心に理解を深めてもらうことをねらいとしている。とくに、時事問題や現状に対する批判に留意しながら出題した。また、図表の問題は、センター試験の傾向に則して、単純な読み取りではなく、基本的知識とグラフの表す動向を結びつけて解答することを求めている。

【設問別解説】

問1 24 ④

会計検査院は「国会に設置された」機関ではないので誤り。会計検査院は、国会や内閣から独立した憲法上の機関である。国の機関や法律で定められた機関の会計を検査し、会計経理が正しく行われるように監督している。検査の結果は、内閣が国会に提出しなければならない。

残りの選択肢は、いずれも正しい。①は憲法第84条、②は第60条、③は第8条と第88条に規定されているので、内容を確認しておこう。

問2 25 ③

直近の予算に占める比率から判断することも可能だが、そのデータを覚えていなくても、歴史的な経緯から判断することもできる。国債依存度は、1980年代に行財政改革やバブル景気によって低下したが、バブル崩壊後の景気低迷の中で再び高まるようになり、近年にはたびたび4割を超えるようになった。この傾向から、Aが国債依存度であると分かる。社会保障関係費は、高齢化の進展によってほぼ一貫して比率が高まっているので、その傾向に当てはまるBが社会保障関係費だと分かる。地方交付税等は、1990年代には社会保障関係費を上回ることもあったが、2003年に始まった「三位一体の改革」(国からの補助金の削減・地方交付税の見直し・国から地方への税源移譲の三つを一体的に進める改革)によって目立った増大が抑えられ、比率は横ばいとなった。そのため、この傾向に当てはまるCが地方交付税等であると分かる。

以上のことから、③の組合せが正解となる。

問3 26 ③

一般に、給与所得者の所得税は、給与からあらかじめ差し引かれ、本人に代わって勤務先の企業が納税していることから、課税の基準になる所得は税務当局がほぼ完全に捕捉している。一方、自営業者などは所得を自分で計算して申告するため、必ずしも実際の所得を税務当局が捕捉できるとは限らず、実際よりも低い所得申告によって納税額は低くなってしまふ。こうしたことから、所得の種類によって不公平が生じているのではないかという指摘がある。

①所得税で採用されている累進課税は、所得が高くなるほど税率が高くなり、所得に占める税負担の割合が高くなる。②「直接税が税収の8割以上」というのは不適當。近年の国税における直接税と間接税の比率(直間比率)は、6対4から5対5程度(すなわち直接税の比率は5～6割)である。④日本に在住する外国人や外国企業も「社会保障などの公共サービス」を一定の条件で受給することができるので、この選択肢は不適當。

問4 27 ①

「預金を受け入れることができる」は誤り。業務分野の自由化は、金融自由化の柱の一つだが、日本では子会社を作って他の分野に参入することが認められているのであって、証券会社自体が銀行のように預金を受け入れるといった銀行業務を直接に行うことはできない。

②金利の自由化は完全に施行され、普通預金や定期預金などの預金金利は金融機関が自由に設定できる。③店舗をもたずインターネットだけで営業するインターネット専門銀行や、スーパーやコンビニなどの流通企業が銀行を作って店舗にATMを置いて営業するなど、多様な形態の銀行が生まれている。④郵便貯金を扱うゆうちょ銀行は、郵政民営化によって生まれた民営の銀行である。

問5 28 ②

企業の内部情報を知る者が、その情報を利用してその企業の株を売買し利益をあげることはインサイダー取引と呼ばれ、違法である。たとえば、ある会社が画期的な新製品を発売すれば、業績がよくなることを期待して株価が上がるが、このような情報が発表される前に内部情報を知る社員が安く株を買い占め、発表されて株価が上がったところで売り抜けて不当な利益をあげるようなことを防止するため、こうした規制がある。

①「財務省」が不適當。金融機関に対する検査・監督は、内閣府の外局である金融庁が行っている。以前は金融も財政も大蔵省が担当していたが、現在は財政は財務省、金融は金融庁に、担当が分離され

た。③マネーロンダリング(資金洗浄)は、口座から口座へ、ときには国境を越えて資金を移動させるなどの手段を使って、資金の出所を不明にして犯罪にかかわる資金を合法的な資金のように見せることをいう。金融機関はこのようなマネーロンダリングを防ぐための対策を講じなければならないし、そのための法制度も存在する。④口座名義を匿名にすることは、上記のマネーロンダリングや脱税などに利用される恐れがあり、日本では口座を開くときには必ず本人確認が求められる。

問6 [29] ②

自己資本比率は、貸付金を含む総資産のうち、リスクのある資産に対する株式などの自己資本の割合のことで、銀行経営の健全性を示す指標である。国際業務を営む銀行に対しては、BISが、自己資本比率を8%以上にしよう求めている。

①最近、話題になった「ビットコイン」のような、インターネット上でだけ流通する仮想通貨は、企業間の国際取引に使われるようなことはほとんどなく、流通量もわずかである。③日本の金融機関も、海外の金融機関のM&A(合併・買収)によって国際化と規模拡大を図るような動きを始めている。たとえば、三菱東京UFJ銀行は、タイのアユタヤ銀行を子会社化することを発表している。④「経済援助に大きな実績をあげている」は不適当。ヘッジファンドは開発金融機関ではなく、少数の特定顧客から集めた資金を、金融派生商品(デリバティブ)などで運用して短期的に大きな利益をあげ、それを顧客に分配することを売り物にした投資会社である。しかし、その投機的な行動が、金融市場を不安定にする要因として批判されることもある。

問7 [30] ③

銀行が新たな預金通貨を作り出すはたらきを、信用創造という。銀行は、受け入れた預金のうち、預金準備率にしたがって預金の一部を日本銀行に預け、残りを貸し出しに回すことができる。この問題の事例では、

$$200\text{万円}-200\text{万円}\times 0.1=180\text{万円}$$

が貸出可能な額である。貸し出された資金は銀行に預金されるから、さらにその預金をもとに、

$$180\text{万円}-180\text{万円}\times 0.1=162\text{万円}$$

が貸出可能となる。これが繰り返されると、預金残高の合計は、

本源的預金÷預金準備率

という式で求められる。ここから本源的預金を引けば、増加分の信用創造額が計算できるから、この問題では

$$200\text{万円}\div 0.1-200\text{万円}=1800\text{万円}$$

が正解である。

第5問 日本の地方自治

【出題のねらい】

本問は、地方自治制度や地方自治の現状にかかわる諸問題について、基本的な知識が習得できているかどうかを試すことがねらいである。

【設問別解説】

問1 [31] ②

「道州制が導入された」は誤り。道州制は、全国を10程度の道や州に分けて国の権限を広く移譲し、地方のニーズにあった効率的な行政運営を目指そうとするものである。その導入の是非が一部で議論されているものの、まだ導入されていない。

残る選択肢は、いずれも適当である。①「平成の大合併」は、1990年代末から始まった市町村合併を推進する政策とそれに基づく市町村合併のこと。財政上の優遇措置が講じられたこともあり、市町村の数は、1999年3月の3232から大きく減少し、2014年1月には1719になった。③構造改革特別区域法に基づき、政府から構造改革特区の認定を受けると、その地域に限定して全国一律の規制が緩和される。この制度を利用して地域の特徴を活かした独自の取り組みを実施している地方自治体も少なくない。たとえば、岩手県一関市には、都市農村交流を図るために酒類製造の規制を緩和した「どぶろく特区」がある。④行政の活動が適正に行われているかどうかを市民の代理人として監視・調査し、是正勧告などを行う機関を行政監察官(オンブズマン)という。国の制度としては導入されていないが、独自にこれを設置している地方自治体がある。

問2 [32] ③

国と地方の関係を上下・主従の関係から対等・協力の関係に改めるためとして、地方分権一括法が1999年に制定された。同法により、事務処理に関する国の関与に不服がある場合、地方自治体は、総務省に創設された国地方係争処理委員会に審査を申し立てることが可能になった。

①「住民の投票によって選ばれた」は不適当。大日本帝国憲法の下では、府県知事は、住民の選挙で選ばれるのではなく、天皇によって任命されていた。②地方自治体が実施する事務には、法定受託事務もあるので、「自治事務のみ」という記述は不適当。かつて存在した機関委任事務(国や他の地方自治体から都道府県知事や市町村長などに委任される事務)は、団体自治を阻害するものであったため、

地方分権一括法により廃止された。そして同法により、地方自治体の事務は、地方自治体が法令の範囲内で自主的に責任をもって処理すべき**自治事務**と、本来は国が実施すべきであるが適正な処理を確保するため法律に基づいて地方自治体に処理が委ねられる**法定受託事務**に再編された。④住民自治の説明が不適当。日本国憲法のいう「**地方自治の本旨**」(第92条)には、団体自治と住民自治の二つの原理が含まれるとされる。そのうち、「地方自治体が国から相対的に独立して政治を行う」という原理は**団体自治**である。**住民自治**は、地方自治体の政治が地域住民の意思に基づいて行われる原理をいう。

問3 33 ①

Aは正しい。**地方交付税交付金**は、地方自治体間の**財政力格差の是正**を目的として、国税のうち所得税・法人税・酒税などの一定割合が、**使途を限定しない**一般財源として地方自治体に交付される。

Bは誤り。都道府県は、国の関与なしに地方債を発行できるわけではなく、発行には**国との事前協議**を経る必要がある。

Cは誤り。**国庫支出金**は、**使途を限定した**特定財源として国から地方自治体に交付されるものである。「地方自治体間の財政格差の是正」を目的として交付されるのは、国庫支出金ではなく**地方交付税交付金**である(Aの解説も参照)。

問4 34 ②

地方自治体は、固定資産税や住民税など地方税法に定めのある**地方税**のほか、地方税法に税目(個別の税金の種目)としての定めのない**法定外税**も、総務大臣の同意を条件に、条例で創設することができる。

①「民主主義の学校」の意味づけについての記述が不適当。たしかに、イギリスの政治学者**ブライス**(1838～1922)は、「**地方自治は、民主主義の源泉であるばかりでなく、民主主義の最良の学校である**」と述べたが、これは、地方自治は住民が地域のあり方に参画することを通じて民主主義を運営していく方法や能力を身につける重要な場である、という考えを示したものであり、「中央政府の意向を学ぶことの重要性を指摘」したのではない。②「ともに満30歳以上」が不適当。被選挙権(立候補する権利)が与えられる年齢は、公職選挙法により、都道府県知事は**満30歳**以上とされているが、議会議員や市町村長は**満25歳**以上である。なお、選挙権(投票する権利)はいずれについても**満20歳**以上に与えられる。③外国人には選挙権が認められていない。最高裁判所は1995年に、法律で定住外国人に地方選挙権を与

えることを憲法が禁じているとはいえないとして、地方選挙権を与えるかどうかは国会の判断に委ねられているとした。だが現在まで、そのために必要な公職選挙法の改正は行われていない(2014年6月現在)。

問5 35 ①

住民投票条例に基づく住民投票は、憲法上の地方特別法の住民投票や、地方自治法上の直接請求に伴う住民投票とは異なり、地方自治体が独自に制定する条例に基づくもので、投票結果に**法的拘束力**はない。

②住民投票条例に基づく住民投票には、公職選挙法が適用されないため、投票資格者は条例で**独自に設定**することができる。そのため、20歳未満の者や外国人などに投票資格を与えることも可能であり、実際にそうした例もある。③**沖縄県**で、在日米軍基地の整理縮小をめぐる住民投票が1996年に実施されている。これが都道府県レベルではこれまでのところ唯一の住民投票である。④いま解説した、沖縄県における在日米軍基地の整理縮小のほかにも、在日米軍再編に伴う空母艦載機移転受入れの是非(山口県岩国市)など、国の政策にかかわる問題が住民投票の対象となった例がある。

問6 36 ②

地方自治法には、条例の制定請求について、「住民投票」を実施する規定はない。有権者の50分の1以上の署名をもって**首長**に条例の制定が請求されると、首長は**議会に付議**し、その結果を公表しなければならない。すなわち、首長の付議を受けた**議会で条例案が可決**されると条例が成立する。

残る選択肢は、いずれも適当である。①地方自治体の**議会**は、首長に対する**不信任決議権**を有する。地方自治体の議会が首長に対する不信任を決議した場合、首長は議会を**解散**することができる。③地方自治体の首長は、条例の制定・改廃または予算の議決について異議がある場合、**拒否権**を行使して**再議**に付すことができる。ただしその場合も、議会が出席議員の**3分の2以上の多数で再可決**すれば議案は成立する。④住民は、有権者の原則として3分の1以上の署名(有権者数が40万人を超える地方自治体では必要署名数が緩和される)をもって、**首長**に副知事や副市長・村長、教育委員など**主要公務員の解職**を請求することができる。この請求が行われた場合、首長が**議会に付議**し、議員の3分の2以上が出席し、その4分の3以上の多数による同意があれば職を失う。

倫理，政治・経済

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	①	⑥	3	
	問2	②	③	3	
	問3	③	③	2	
	問4	④	②	3	
	問5	⑤	④	3	
第1問 自己採点小計				(14)	
第2問	問1	⑥	⑤	3	
	問2	⑦	①	3	
	問3	⑧	④	2	
	問4	⑨	③	3	
	問5	⑩	②	2	
	問6	⑪	②	3	
	問7	⑫	③	2	
第2問 自己採点小計				(18)	
第3問	問1	⑬	④	2	
	問2	⑭	⑦	2	
	問3	⑮	①	3	
	問4	⑯	②	2	
	問5	⑰	①	3	
	問6	⑱	④	3	
	問7	⑲	②	3	
第3問 自己採点小計				(18)	
第4問	問1	⑳	①	2	
	問2	㉑	②	3	
	問3	㉒	①	2	
	問4	㉓	③	2	
	問5	㉔	④	3	
	問6	㉕	②	2	
第4問 自己採点小計				(14)	

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	㉖	③	3	
	問2	㉗	③	3	
	問3	㉘	④	2	
	問4	㉙	①	3	
	問5	㉚	①	3	
	問6	㉛	②	2	
	問7	㉜	②	2	
第5問 自己採点小計				(18)	
第6問	問1	㉝	④	3	
	問2	㉞	③	2	
	問3	㉟	③	3	
	問4	㊱	①	2	
	問5	㊲	②	2	
	問6	㊳	②	3	
	問7	㊴	③	3	
第6問 自己採点小計				(18)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 福祉社会の現状と課題

【出題のねらい】

本問は、福祉社会をテーマとする会話文に沿って、青年の心理的特徴、近代の人間観に対する批判、センの思想、人間の欲求に関する基本事項を取り上げ、それぞれの理解度を確認してもらうことをねらいとした。また、資料文の趣旨読取問題を出题して、思考力や読解力を試すことも意図した。

【設問別解説】

問1 ① ⑥

アーC：ドイツの心理学者レヴィン(1890～1947)は、青年を、子どもから大人への過渡的な存在であるマージナル・マン(境界人・周辺人)と位置づけ、心理的に不安定な存在であると指摘した。したがって、Cにあてはまる具体例はAである。

イーB：アメリカの心理学者ホリングワース(1886～1939)は、青年期を、親から精神的に独立する時期であることから、**心理的離乳期**と呼んだ。乳児の成長に伴って、母乳の摂取から母乳以外の食物に切り替えていく本来の離乳期は、乳児期におとず

れる。したがって、Bにあてはまる具体例はイである。

ウーA：アメリカの心理学者ホール(1844～1924)は、青年期を、本能と感情が高まる「疾風怒濤(シュトゥルム・ウント・ドラंक)」の時代として特徴づけた。彼によれば、この時期は、自信と自己嫌悪、無気力と興奮、喜びと苦痛、利己心と利他心、社交性と孤独、感受性と無関心、保守性と急進性、感覚と知性などが交互に現れ、あるいは対立する時期であるとされる。したがって、Aにあてはまる具体例はウである。

以上より、正しい組合せは⑥となる。

問2 2 ②

a：フロイト(1856～1939)は、神経症の治療や夢の研究などを通じて、無意識についての体系的な理論を作り上げた。フロイトによれば、人間の心は、エス(イド)、自我(エゴ)、超自我(スーパー・エゴ)から成っている。エスとは無意識の領域にあって、快楽原則に従って非道徳な行動を起こす性質をもつ。超自我は、両親の教育などによって心のなかに形成される道徳意識(良心)であり、エスの非道徳的エネルギーを抑える。自我は、エスと超自我の緊張と葛藤のなかで、社会に適応するための調節の働きをする。

b：フーコー(1926～84)は、近代以降、人間の理性を尺度とした文明社会は、病気や狂気、犯罪といった反理性的なものを日常生活から排除し、理性をもった主体的な存在としての人間という観念を作り出してきたと批判した。そして、このような理性的主体という人間観は普遍的なものではなく、西洋近代社会の「発明」にすぎないと主張した。

問3 3 ②

資料文は、シンガー著(山内友三郎・塚崎智 監訳)『実践の倫理[新版]』昭和堂(1999年)から引用した。資料文では、「幸福のために幸福を目指す人たちは幸福を感じられないことが多いが、他の人たちはまったく別の目標を追い求めながら幸福を感じる」という「快楽主義の逆説」を取り上げ、そのことは「日常見聞することに一致」と述べられている。また、その場合の幸福の役割は、「我々が達成したことに対する内的な報奨である」とも述べられている。このような資料文の主張に合致するのは③だけであるから、これが正解となる。

①資料文の主張は、自分自身の幸福とはまったく別の目標を追い求めることで幸福が得られるという考え方に立っている。したがって、「各人が自分自身の幸福の実現を目指して努力することによってし

か、……幸福を手に入れることはできない」という記述は誤り。②資料文では、快楽主義の逆説は、「論理的な逆説ではなく」、また「経験的な確証はない」と述べられている。したがって、「論理的な逆説であるだけでなく、日常の経験にも反する」という記述が誤り。④資料文では、「人類は目的追求的な行為によって生きのび」てきたと述べられているが、その場合の目的とは、幸福とは「まったく別の目標」のことである。したがって、「多くの人々が自分自身の幸福という目標に向かって前進し……人類は生きのびてきた」という記述は誤り。

問4 4 ②

経済学者セン(1933～)は、各人に対し、自ら価値があるとする生き方を選択する自由である潜在能力(ケイパビリティ)＝生き方の幅を等しく保障することが重要であると主張し、よき生(福祉)は、所得や富の量ではなく、ケイパビリティがどれだけ存在するかによって評価されるべきであると説いた。

①アメリカの哲学者ロールズ(1921～2002)の思想内容についての説明である。③イギリスの功利主義者ベンサム(1748～1832)の思想内容についての説明である。④中国の道家の祖である老子(生没年不詳)が説いた無為自然や小国寡民を想定した記述である。

問5 5 ④

「意識的に自己の精神的安定を図ろうとする防衛機制」という記述が誤り。防衛機制は、無意識に自己の精神的安定を図ろうとする心のメカニズムである。防衛機制には、抑圧、合理化、同一視、投射、反動形成、逃避、退行、昇華など様々なものがある。なお、欲求不満への対応としては、防衛機制の他に、(1)欲求不満の原因を合理的に解決しようとする合理的解決、(2)衝動的な行動に走って不満を発散させようとする攻撃・近道反応、(3)欲求を環境に合わせて充足することができず、環境への適応に失敗する失敗反応などがある。

①生理的欲求(一次的欲求)と社会的欲求(二次的欲求)の区別についての記述として正しい。②欲求不満(フラストレーション)のうち、トレードオフ(あちら立てればこちらが立たず)の関係にある様々な欲求の選択に悩むことを葛藤(コンフリクト)と言う。③アメリカの心理学者マズロー(1908～70)は、人間の欲求は、生理的な欠乏を満たそうとする欲求から、創造・価値・自由を目指す成長欲求までの上下の階層をなしており、下位の欲求が充足されると上位の欲求に移っていく(生理的欲求⇒安全の欲求⇒所属と愛情の欲求⇒自尊の欲求⇒自己実現の欲

求)とする欲求階層説を唱えた。

第2問 江戸時代の思想

【出題のねらい】

本問は、朱子学における感情の抑制や、これを批判する儒学者の思想、国学者である本居宣長の思想を概観する本文のもとに、江戸時代の様々な思想などについての基本的な知識や理解度を問うことをねらいとした。

【設問別解説】

問1 ⑥ ㉑

ア：室鳩巢(1658～1734)についての記述である。彼は江戸時代中期の朱子学者であり、徳川吉宗の侍講としても活躍した。赤穂浪士の討ち入り事件の際には、厳しい処分を主張した荻生徂徠(1666～1728)とは意見を異にし、浪士の行動を義の観点から擁護して助命を進言した。

イ：熊沢蕃山(1619～91)についての記述である。彼は中江藤樹(1608～48)の門に学んだ陽明学者であり、岡山藩主の池田光政に仕えて治山治水などで優れた業績を残した。

ウ：雨森芳洲(1668～1755)についての記述である。朝鮮との友好外交に尽力した朱子学者であり、外交の精神として「誠信の交わり」を説いた。

エ：林羅山(1583～1657)についての記述である。彼は、徳川家康以降の四代の将軍に仕えて江戸時代の朱子学の礎を築いた人物であり、『春鑑抄』のなかで、「天は尊く地は卑し、天は高く地は低し、上下差別あるごとく、人にも又君は尊く、臣は卑しきぞ」と述べて、身分の違いを自然の理として正当化した(上下定分の理)。

以上により、正しい組合せは㉑となる。

問2 ⑦ ㉒

中江藤樹は、朱子学が外面的形式に囚^{とら}われていることを批判し、内面的な心情をより重視する独自の思想を形成した。彼の考えでは、道德の普遍的原理は孝である。それは、親子だけでなく、あらゆる人間関係を成り立たせる原理であり、さらには、宇宙万物の生成原理でもある。彼はまた、孝の具体化として愛敬を実践するように説いたが、硬直的に規範に従うのではなく、時・処・位(時と場所と身分)という現実の条件を踏まえて、柔軟に行為することが大切であると説いた。

したがって、㉒の組合せが正解となる。

問3 ⑧ ㉓

資料文は尾藤正英責任編集(尾藤正英・前野直彬・中野三敏 現代語訳)『日本の名著 荻生徂徠』

中央公論社(1974年刊)からの引用である。荻生徂徠の考えでは、儒学で説かれた道とは、天地自然に最初からそなわっているものでなく、古代の先王(聖人)が社会を安定させるために人為的に制作したものであり(先王の道、安天下の道)、具体的には礼楽刑政(儀礼・音楽・刑罰・政治)の制度のことである。資料文は、この礼楽による民衆教化の特徴について述べたくだりである。資料文のなかほどで、「くりかえして習熟すれば、まだわからなくても、精神と肉体とがもう潜在的に『化』されているので、最後にはわかってしまう」とあるように、礼楽に感化されると、民衆は礼楽に含まれる意義を自らの力で理解できるようになると、荻生徂徠は考えていた。したがって、㉓が正解である。

㉑資料文の冒頭では、言葉や刑政による民衆の教化には限界があり、そのために礼楽による教化が導入された、という趣旨のことが述べられている。したがって、「礼楽による教化は、言葉による教化によって補われなければ成功しない」という記述は誤り。㉒資料文の終わりに、「言葉によってわかるときは、人はその意味がそれだけのことだと思って、それ以上のことは考えない。つまりその害は、人を考えさせないことにある」とある。ここに述べられているのは、言葉による教化の欠点であって、礼楽による教化の欠点ではない。したがって、「礼楽には民衆が自ら思考しなくなるという弊害もある」という記述は誤り。㉓「礼楽だけで民衆の安泰は十分にもたらされるので、先王は刑罰の制度を整える必要がなかった」という記述は、言葉や刑政による民衆の教化には限界があり、そのために礼楽による教化が導入されたという資料文の内容に合致していない。

問4 ⑨ ㉔

孔子(前552?～前479?)は、道德を修めた君子が為政者となり、自らの徳によって民衆を感化することで天下に秩序と調和がもたらされるとする徳治主義の立場をとり、刑罰や法律などによって人々の行動を律することで社会の秩序を維持しようとする政治を批判した。後者のような政治を理想としたことで知られるのは、法治主義を説いた韓非子(?～前233)である。

㉑「宇宙の根本原理としての理を窮め、それによって自らの言動を律」すること、すなわち居敬窮理を説いたのは、孔子ではなく朱子(1130～1200)である。㉒老子(生没年不詳)についての記述。彼によれば、万物を生み出す根源としての道は人知を超えており、名づけようとしても名づけられないもので

あるとされる。そのため道は「無」とも呼ばれる。

④孟子(前372?～前289?)についての記述。彼は、人間には生来、四端の心(惻隱の心・羞惡の心・辭讓の心・是非の心)が備わっており、それらを養い育てていくことで、それぞれに対応して仁・義・礼・智の四徳を実現できると説いた。そして、この四徳が心身に充実してくると、人生のどんな局面に至っても動じることのない浩然の気が現れるとし、これを備えた人を大丈夫と呼んで理想とした。

問5 10 ②

平田篤胤(1776～1843)は、儒学や仏教の影響を排した復古神道を開いた国学者である。彼は、『靈能真柱』で靈魂の行方を論じるとともに、天皇を中心とした世界観・宇宙観を提示した。その極端な日本中心主義や排外主義は、幕末の日本思想に大きな影響を及ぼした。

①は国学の祖とされる契沖(1640～1701)、③は契沖から影響を受けて古典研究を発展させた荷田春満(1669～1736)、④は本居宣長についての記述である。本居宣長の言う「もののあはれ」とは、美しさや悲しみといった、物事の本質に触れたときに心に起こる感嘆のことであり、彼はこうした「もののあはれ」を知る人間を理想とした。

問6 11 ②

aには「相依相関の関係」が入る。ブッダ(前463?～前383?)は、あらゆるものは相依相関の関係にあって、それ自体で存在するものは何もないという真理(縁起の法)を認識することによって、煩惱の炎が消え去った境地である涅槃(ニルヴァーナ)に至ることができるとした。なお、仏教では世界の創造者としての神は想定されていないから、「神が創造した理法」は正解とならない。

bには「空」が入る。大乘仏教の思想家である竜樹(ナーガールジュナ、150?～250?)は、ブッダが説いた縁起の考えを深化させ、空の思想を説いたことで知られる。空とは、すべての事物にはそれ固有の本性はないということ(無自性)を意味する。なお、「唯識」は、大乘仏教の思想家である世親(ヴァスバンドゥ、320?～400?)を想定したもの。彼によれば、あらゆる事物は実在せず、人間の心の働きの所産にすぎない。これを唯識の思想という。

したがって、②の組合せが正解。

問7 12 ②

本文の第2段落と第3段落冒頭では、朱子学において感情の乱れを厳格に抑える「居敬」が重視されたということが述べられており、第3段落では、こうした厳格主義を批判する儒学者の見解、第4段落

では、日本古来の精神を理想としてありのままの感情を理想とした本居宣長の見解が示されている。③はこうした本文の趣旨と合致しており、これが正解である。

①朱子学は確かに性善説に立脚しているが、本文の第2段落と第3段落冒頭で述べられているように、聖人ではない一般の人間の場合には感情の乱れを抑える必要があるとされ、厳しい精神修養が求められた。したがって、「誰もがそのままで聖人である」という記述や、「感情を無条件に肯定」という記述は、誤りである。また、本文第4段落の末尾では、本居宣長が「ありのままの感情を強く肯定」としたとあるので、「神代から受け継がれた人為的な規範のみに価値が認められ、これに反する感情は抑制するべきものとされた」という記述も誤りである。

②本文の第3段落では、儒学者の山鹿素行が、『己むことを得ざる』自然な感情は天の運行と同じく必然的である」と指摘したとある。つまり、彼は自然な感情と外的自然を連続的に理解し、止めようとしても止められない感情を必然的なものと考えていたということである。したがって、「儒学者はみな、人間も自然界の一部であって、意のままにならない感情もあるということに気づいていなかった」という記述は誤りである。④本文の第3段落では、儒学者の伊藤仁斎が、「生き生きとした交わりのなかで愛しあう関係こそが孔子の説いた道であると主張」と述べられている。したがって、「儒学では、諸悪の根源は感情であるため、感情を排除しなければ道徳的な振る舞いは成立しないと考えられていた」という記述や、「儒学者は、他者への愛情や思いやりが真に道徳的なものであり得るということに気づかず、感情に対して否定的な意義しか見いださなかった」という記述は誤りである。

第3問 市民社会の倫理

【出題のねらい】

本問は、市民社会を支える倫理をテーマに、フランス啓蒙思想、イギリス功利主義、カントなどについて、それぞれの思想の要点を確認してもらうために出題した。

【設問別解説】

問1 13 ④

ソクラテス(前470?～前399)は、真の知に至るためには、善や美など人間の魂にとって最も大切なことについては実は何も知らないということを実感する必要があると説いた。こうした自覚のことを「無知の知」という。ソクラテスが用いた問答法(魂の

助産術)は、相手に自分が知っていると思い込んでいることを述べさせ、問答を通じてその内容を吟味して自らの無知を自覚するように仕向け、相手が自ら真の知を見いだすのを手助けするという方法である。

①「知者としての自覚をもって善美に関わる真理を教授する」という記述は、問答法の説明として不適当。なお、プラトン(前427～前347)が著した『ソクラテスの弁明』によれば、ソクラテスは、友人の一人からデルフォイのアポロン神殿で「ソクラテスに勝る知者はいない」という神託(神のお告げ)があったと聞き、その信託の意味を探るために、知者として名高い人々と問答を繰り返した。そうした中で、世間で知者であると言われている人々は、処世術(社会生活をおくる上の方策、世渡りの方法)としての知識をもっているだけで、人間にとって本当に大切なはずの魂のことを知らないのに知ったつもりでいる、ということにソクラテスは気づいたとされる。②ソクラテスの問答法は、「弁論と説得の能力を磨くことを重視し、相手との論争に勝つための技術を教授する」というものではない。③「ものごとの真偽を決める基準は人によって異なるということを気づかせ、真理の相対性を悟らせる方法」という記述は、問答法の説明として不適当。なお、真理の相対性を主張し(相対主義)、議論の相手を説得することを重視したのは、古代ギリシアのソフィストたちである。

問2 14 ⑦

ア：グロティウス(1583～1645)は、『戦争と平和の法』のなかで、民族や時代を超えて、すべての人々に適用される普遍的な法である自然法について言及した。自然法思想は古くからあり、古代ギリシアのストア派では、宇宙を支配するロゴスが自然法と捉えられており、中世のキリスト教神学では、神の存在が自然法を根拠づけるものだと考えられていた。自然法についてのこのような捉え方に対し、グロティウスは、自然法は人間の本性である理性に根ざしたものであると主張した。さらにグロティウスは、国家間の関係においても、自然法が守られるべきであると説き、近代自然法の父とも国際法の父とも呼ばれる。

イ：フランスの思想家ヴォルテール(1694～1778)は、理性に基づいて迷信や不条理を打破することを訴えた啓蒙思想の代表的人物である。彼はイギリスに渡り、イギリスの政治制度を学び、著作『哲学書簡』のなかで、イギリスの議会政治、ロック(1632～1704)やニュートン(1642～1727)の思想などを紹

介し、フランスの旧体制(アンシャン・レジーム)の後進性を批判した。また、『寛容論』では、宗教的不寛容を批判し、他者に対する寛容の精神の重要性を説いた。

ウ：ロックは、『統治論』(『市民政府論』)などの著作を通じて、政治は権力者の恣意に左右されるべきではなく、法の支配のもとで行われなければならないと主張した。また、国家権力を立法権と執行権・同盟権に分割し、立法権を有する議会が、執行権・同盟権を有する国王に優位する権力分立の考え方を主張した。

なお、選択肢中に出てくるスペンサー(1820～1903)は、生物が進化するのと同じように社会も進化するという社会進化論を唱えた人物である。彼によれば、適者生存のメカニズムと自由競争の原理によって社会的分業が発達し、社会の進化が促進されるという。適者生存という言葉は、ダーウィン(1809～82)が生物進化論を唱える以前にスペンサーによって用いられた。

したがって、⑦の組合せが正解となる。

問3 15 ①

カント(1724～1804)は、自律的な自由の主体としての人間を人格と呼び、人々が互いの人格を尊重し合う共同体を目的の王国と呼んで理想とした。また彼は、このような理想的な関係が国家間においても成立すべきだと考え、永久平和の実現のために、国際協力組織を設立し、各国は常備軍を撤廃する必要があると主張した。

②カントは、人間の理性の能力について検討し、人間の理性には、科学的な認識に関わる理論理性と、道徳的な意志に関わる実践理性とがあると主張した。そのうえで、理論理性の範囲は、人間が経験できることに限られ、神、霊魂、自由など、人間の経験を超えたものは理論理性では捉えることができず、実践理性の領域に属するとした。したがって、「神や自由、霊魂なども理論理性で捉えることができる」という記述は誤っている。③カントが主張した道徳法則は、理性に発する普遍的な実践の法則であり、これにかなった行動が道徳的であるとされる。この法則は、例えば「もし人から好かれたいならば、人に親切にせよ」という条件付きの命令(仮言命法)で表されるものではなく、「人に親切にせよ」という無条件の命令(定言命法)で表されると彼は考えた。カントによれば、人間の真の自由は、この道徳法則に自律的に従うところにあるとされる。

④カントは、道徳法則に自律的に従う人間の行為が、道徳的に善である行為であると考えた。そし

て、人間の行為の善悪は、行為の結果によって判断されるのではなく、行為の**動機**によって、すなわちその行為が**善意志**(道徳法則に自律的に従おうとする意志)に基づくものであったかどうかによって判断されると主張した。

問4 16 ②

aには「質的」が入る。功利主義は、人間が感じる快樂を善とし、苦痛を悪とする思想である。その代表的な人物が、**ベンサム**と**ミル**(1806～73)である。両者の思想にはいくつかの違いがある。ベンサムは、快樂(幸福)は数量化できるとして、その量を計算する**快樂計算**を唱え、**量的功利主義**の立場をとった。他方、ミルは、快樂には感覚的快樂と精神的快樂があり、量で計測することのできない精神的快樂をより重視する**質的功利主義**の立場をとった。

bには「他人や社会のために献身」が入る。ミルが功利主義の理想としたのは、「自分がしてほしいことを他人のために行い、自分を愛するように他人を愛しなさい」というイエスの教え(キリスト教の**黄金律**)であった。人間は他人への思いやりの心をもっており、他人や社会のために献身することで精神的な快樂が得られる、とミルは考えたのである。

cには「内的」が入る。功利主義は、利己心をもつ人間の行動を規制するものとしての**制裁**について論じている。ただし、ベンサムは、宗教的制裁・物理的制裁・道徳的制裁・政治的(法律的)制裁という、外から加えられる**外的制裁**(特に政治的制裁)を重視したのに対し、ミルは、人間の良心という**内的制裁**を重視した。

問5 17 ①

イスラーム教では、**アッラー**はあらゆる事物を超越した唯一絶対の神であり、いかなるものによってもそれを表現することはできないとされ、**偶像崇拜**が禁止されている。

②『**クルアーン**(**コーラン**)』には、結婚や遺産相続、食事などの日常生活上の規範も定められている。**ムスリム**(信徒)は、『クルアーン』および『クルアーン』などをもとに体系化された**シャリーア**(**イスラーム法**)に従うことが重視される。したがって、「信仰のあり方だけを説き、ムスリム(信徒)の生活上の指針については一切触れていない」という記述は適当でない。③イスラーム教では、**ムハンマド**(570?～632)は、モーセやイエスを選んだのと同じ神によって選ばれた最大の預言者であり、しかも**最後の預言者**であるとみなされている。したがって、「これに続く預言者はムハンマドの子孫からし

か出現しない」という記述は適当でない。④イスラーム教では、**アッラー**は、ユダヤ教やキリスト教の神と同一であるとされる。したがって、「ユダヤ教やキリスト教の神を否定し」という記述は適当でない。なお、**信仰告白**は、ムスリムが果たすべき実践的義務である**五行**の一つであり、「アッラーのほかに神はいない、ムハンマドはアッラーの使徒である」と唱えることを言う。

問6 18 ④

資料文には、「自由に企図された目的概念に従って自由に意欲」しようとする意志が、「私の身体」と「私を囲む世界」を「動かし形成すべきもの」と述べられていることから、この選択肢が正しいと言える。なお、資料文は、フィヒテ著(宮崎洋三訳)『人間の使命』岩波文庫(1950年刊)から引用した。

①資料文では、「私に特有な力の……中心点」となるものは、選択肢にある「自然の法則」ではなく、「私の思考と意欲」であると述べられているので誤り。②資料文では、「私の思考」および「自由に企図された目的概念に従って自由に意欲」しようとする意志が重視されており、さらに、「私の身体」は、「私に特有な力の…中心点…ではないことは明らかである」とも述べられている。したがって、「身体の働きが自分の特有な力をより強固にする」という記述は誤り。③資料文では、「意志」が「私の身体」や「私を囲む世界」を「動かし形成すべきもの」と述べられている。しかし、この「意志」は、「自由に企図された目的概念に従って自由に意欲」しようとする意志である、とも述べられている。したがって、「自由に企図された目的概念に囚われたものであってはならない」という記述は誤り。

問7 19 ②

本文の第2段落・第3段落では、近代ヨーロッパの人々が、「理性を有する平等な個人として、身分制度を打破する道を模索し始め」たことや、「国家とは、人々が自らの権利と自由のために、自発的かつ合理的な契約によって設立するものであると主張した社会契約説」が唱えられたことが述べられている。また、本文の最終段落で、「市民社会を『欲望の体系』と呼んだヘーゲル」は「各人が自己の利益を自由に追求する社会が、貧富の格差などの様々な矛盾を生み出すことをすでに見抜いて」いたが、そうした矛盾の解決は「現代を生きる私たちの手に委ねられている」とも述べられている。これら本文の趣旨に合致する記述は②だけである。

①本文の最終段落で、ヘーゲルは市民社会が「貧

富の格差などの様々な矛盾を生み出すことをすでに見抜いていた」ことが述べられているから、「近代の思想は、現実の社会が直面する様々な矛盾を見抜くことができず」という記述が本文と合致しない。

③本文の第2段落から、少なくとも近代思想の出発点の一つは、人々が中世の「身分制度の桎梏と不条理さを意識し」、「理性を有する平等な個人として、身分制度を打破する道を模索し始めた」ことにあると読み取れるから、「西洋の近代思想は、個人主義に立脚する市民社会がもたらした様々な矛盾の解決を目指すところから出発し」という記述は本文と合致しない。また、近代思想がそうした矛盾の解決という「使命を十分に果たしてきた」という記述や、現代の私たちが「近代とはまったく異質の社会的な矛盾に直面して」いるという記述も、本文の最終段落と合致しない。

④本文の第2段落では、「宗教改革が育んだ個の自覚にも促されて、人々は身分制度の桎梏と不条理さを意識」したと述べられている。したがって、「宗教改革によって妨げられてきた平等な個人という自覚」という記述は本文と合致しない。また、本文の最終段落では、「個人の自由な発展が同時に万人の自由な発展につながるような社会」の構築が、近代から引き継がれた現代の課題であるという趣旨のことが述べられている。したがって、現代の私たちが「個人より国家を重視する思想を再構築する必要に迫られている」という記述も本文の内容と合致しない。

第4問 国際社会の動向

【出題のねらい】

本問は、第二次世界大戦後の国際社会について、政治・経済の両面から出題したもので、国際政治の動向や、国際経済の動向などについて、知識の習得度を試すことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 20 ①

国連の主要六機関の一つである信託統治理事会は、信託統治地域の自治の促進を目的として活動してきた。しかし、1994年に最後に残っていた信託統治地域が独立したことに伴い、現在はその活動を停止している。

②「総会の議決権」は、国連分担金の金額にかかわらず、一国に対して一票が平等に与えられている。③安全保障理事会の決議は、理事国15か国のうち9か国以上の賛成があれば成立する。すなわち、「すべての理事国が賛成しなければ成立しない」というのは誤り。ただし、侵略行為の認定など実質事

項については原則として、五つの常任理事国すべての賛成が必要とされている(大国一致の原則)。これはあくまでも「五つの常任理事国」についてであって、非常任理事国も含めた「すべての理事国」の賛成が必要なわけではない。④国際司法裁判所は、国家間の紛争のみを扱うのであって、個人の犯罪を裁判することはできない。なお、「人道に対する罪を犯した個人を裁くことができる」国際裁判所には、2003年に開設された国際刑事裁判所がある。

問2 21 ②

これは、「トルコ」ではなくエジプトにおける出来事の記述であるから、誤り。2010年末のチュニジアを端緒に、中東から北アフリカにかけてのいくつかの国では、民主化運動が激化して政権が打倒される動きが相次いで生じた(アラブの春)。

残る選択肢は、いずれも適当である。①イギリスは二大政党制の国であり、第二次世界大戦後は保守党か労働党のいずれかが下院の過半数を制して単独で政権を担ってきた。しかし、2010年の下院総選挙の結果、両党ともに過半数を制することができなかった。そのため、保守党は第三党の自由民主党と連立政権を組んだ。③日本は、2002年のシンガポールを皮切りに EPA を次々と締結するようになり、2011年にはインドとの間でもこれを締結した。④アメリカとロシア(かつてはソ連)の間ではこれまでもいくつかの核軍縮条約が締結されてきた。たとえば1991年には第一次戦略兵器削減条約(START I)が米ソ間で締結された。しかし、この条約は2009年に失効したため、その後継にあたる条約として、2010年に新 START が米ロ間で調印され、2011年に発効した。

問3 22 ①

まず、均衡点が E_0 から E_1 へ移ったということは、図から、需要曲線が右に移動(シフト)したということになる。すなわち、価格が同じでも需要が増加したということである。この要因として考えられるのは、消費者の所得上昇である。所得が上昇すれば、それだけ消費者の購買力が高まるからである。これに対し「消費者の所得低下」は、購買力を低くする要因なのだから、価格が同じなら需要量が減少する、すなわち需要曲線を左に移動させる要因である。

次に、均衡点が E_1 から E_2 へ移ったということとは、図から、供給曲線が右に移動したということになる。すなわち、価格が同じで供給が増加したということである。この要因として考えられるのは、技術革新による生産費の低下である。生産費が低下す

ると、他の条件が変わらなければ利潤が増加するため、新規参入企業が生じるなどして供給量が増加する。これに対し「原材料費の上昇」は、利潤が減少する要因なので、供給量が減少する。すなわち、供給曲線を左に移動させる要因である。

以上のことから、まず「消費者の所得上昇」が生じ、次に「技術革新による生産費の低下」が生じたとする、①が正解となる。

問4 [23] ③

フリードマン(1912~2006)は、財政による政府の積極的な市場への介入はかえって市場本来の機能を失わせ、スタグフレーション(景気停滞とインフレーションの同時進行)の発生をもたらしたり、非効率な政府部門を肥大化させたと批判した。そして、「小さな政府」を提唱し、一定のルールに基づいた通貨供給に政府の経済的役割を限定すべきであると主張した。こうした考え方をマネタリズムといい、1980年代以降に先進各国で大きな影響力をもつようになった。

①ケインズ(1883~1946)は、景気停滞期には、政府が完全雇用を実現するために積極的な公共投資を行って有効需要を喚起すべきだと説いた経済学者。

②シュンペーター(1883~1950)は、資本主義の発展が、さまざまな分野で既存のあり方を打ち砕いて新たな創造を行うイノベーション(技術革新)によってもたらされることを説いた経済学者。④エンゲルス(1820~95)は、マルクス(1818~83)とともに、資本主義を批判し社会主義を提唱した人物。

問5 [24] ④

まず、日本の貿易相手国は、中国経済の急成長などを背景に、今日では輸出・輸入ともに中国が第一位となっている。したがって、2012年時点で輸出・輸入ともに最も大きい値を示しているAが中国であると分かる。

日米間ではこれまでも貿易摩擦が大きな問題となっていた。すなわち、日本からアメリカへの輸出が、アメリカからの輸入を大幅に上回る状況が続いてきたわけである。この構造は、現在でも解消したわけではなく、アメリカに対しては大幅な貿易黒字を計上している。このことを前提にBを考えると、直近の年次において輸出超過の構造が解消しているので、アメリカではないと判断できる。したがって、Cがアメリカであり、BはEUであると分かる。

以上のことから、④が正しい組合せとなる。

問6 [25] ②

「道州制が導入された」は誤り。道州制は、全国

を10程度の道や州に分けて国の権限を広く移譲し、地方のニーズに即した効率的な行政運営を目指そうとするものである。その導入の是非が一部で議論されているものの、まだ導入されていない。

残る選択肢は、いずれも適当である。①「平成の大合併」は、1990年代末から始まった市町村合併を推進する政策とそれに基づく市町村合併のこと。財政上の優遇措置が講じられたこともあり、市町村の数は、1999年3月の3232から大きく減少し、2014年1月には1719になった。③構造改革特別区域法に基づき、政府から構造改革特区の認定を受けると、その地域に限定して全国一律の規制が緩和される。この制度を利用して地域の特徴を活かした独自の取り組みを実施している地方自治体も少なくない。たとえば、岩手県一関市には、都市農村交流を図るために酒類製造の規制を緩和した「どぶろく特区」がある。④行政の活動が適正に行われているかどうかを市民の代理人として監視・調査し、是正勧告などを行う機関を行政監察官(オンブズマン)という。国の制度としては導入されていないが、独自にこれを設置している地方自治体がある。

第5問 日本の平和主義

【出題のねらい】

本問は、日本の平和主義をテーマとして、日本国憲法の平和主義、自衛隊と日米安保条約、戦後日本の外交や領土問題などについて、基本的な知識を試すことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 [26] ③

2013年12月に、外交・安全保障の司令塔として、国家安全保障に関する諸課題について審議し、政治の強力なリーダーシップを発揮できる環境を整えることを目的として、国家安全保障会議が設置された。

①「約10パーセント」は誤り。1976年に、三木内閣の閣議決定で「防衛費は国民総生産の百分の一に相当する額を超えない」こと(GNP1%枠)が定められた。1987年度予算で1%をわずかに超えたことからこの枠は放棄されたが、現在でも防衛関係費はGNI(GNP)比1%程度で推移している。②自衛隊法に「内閣総理大臣は、内閣を代表して自衛隊の最高の指揮監督権を有する」(第7条)と規定されているように、最高指揮監督権は「防衛大臣」ではなく内閣総理大臣がもつ。④非核三原則の内容にある「使用せず」が誤り。核兵器に関しての国の基本方針とされてきた非核三原則は、「核兵器をもたず、作ら

ず、もち込ませず」である。これは、1967年に佐藤首相が表明し、1971年に国会決議がなされたものであるが、憲法や法律に明記されているわけではない。

問2 [27] ③

砂川事件とは、1957年、東京都砂川町(当時)において、駐留アメリカ軍基地を拡張するための測量に反対するデモ隊が境界柵を破壊して基地内に侵入したとして起きた裁判であり、駐留アメリカ軍や日米安全保障条約が憲法に違反するものであるかどうか争われた。地方裁判所は、駐留アメリカ軍は憲法が保持を禁じている「戦力」にあたり違憲と判断した。しかし、最高裁判所は、駐留アメリカ軍は憲法という「戦力」にはあたらないとし、日米安全保障条約については統治行為論(高度に政治的な問題についてはきわめて明白に違憲と認められない限り裁判所の審査の対象とはならないとする考え)に基づいて、憲法判断を回避した。

①大津事件は、1891年にロシア皇太子(後のニコライ2世)が大津市で襲撃された事件。この事件の裁判は、政府が被告人を死刑に処すように裁判所に圧力をかけ、これに対して大審院長の児島惟謙(1837～1908)が政府の干渉を排し司法権の独立を守ったとされるエピソードで知られており、これを含めて大津事件ということも多い。②長沼事件とは、自衛隊のミサイル基地建設をめぐる生じた裁判で、自衛隊が憲法違反であるかどうか争点の一つとなった。地方裁判所は、自衛隊は「戦力」にあたり違憲であると判断したが、高等裁判所は訴えを却下し、統治行為論に基づいて憲法判断を回避した。なお、最高裁判所は、憲法問題に触れなかった。④家永事件は、高校日本史教科書の検定をめぐって争われた裁判。教科書検定が憲法の禁止する検閲にあたるかどうか争点の一つとなったが、最高裁判所は検閲にあたらないと判断した。

問3 [28] ④

「両国軍が直接に武力衝突した」事実はないので、誤り。第二次世界大戦の終了後、アメリカとソ連が対立するという、戦後国際政治の基本的な構造が形成された。いわゆる冷戦であるが、これは、軍事力行使する「熱い戦争」ではないものの、緊迫した冷たい対立関係が続いたため、「冷戦」と呼ばれたのである。

残る選択肢は、いずれも正文である。①1972年に米ソ間で、SALT I (第一次戦略兵器制限条約)が結ばれている。1979年にはSALT IIが調印されたが、これは未発効となった。②フランスは、1966年に

NATOの軍事機構から脱退した(2009年に全面復帰)。③1950年代後半から、社会主義建設のあり方などをめぐる論争が生じ、これをきっかけにソ連と中国は対立するようになった(中ソ対立)。1969年には国境紛争に関係して、両国間での武力衝突も起こった。

問4 [29] ①

「イラクへ派遣された」は誤り。テロ対策特別措置法は、2001年にアメリカで発生した「同時多発テロ」を受けて制定されたもので、同法に基づいて、アメリカがアフガニスタンで展開した「対テロ戦争」の後方支援活動として、自衛隊がインド洋に派遣されアメリカ軍艦船などへの給油活動を行った。なお、自衛隊がイラクへ派遣されたことはあるが、これは2003年に起こったイラク戦争の後の復興支援のためであり、根拠となった法律はイラク復興支援特別措置法である。

残る選択肢は、いずれも正文である。②有事法制としての武力攻撃事態対処法、③海賊対処活動、④PKO協力法とその制定の背景、について押さえておこう。

問5 [30] ①

A:日本は、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島からなる北方領土は日本固有の領土だとして、ロシアに返還を要求している。1956年に締結された日ソ共同宣言には、国交樹立後に平和条約締結交渉を継続することとともに、両国間で平和条約が締結された後に、歯舞群島と色丹島が日本に引き渡されると記されている。ただし、現在まで両国間での平和条約は締結されていない。

B:竹島は、島根県に属する日本海の島嶼であるが、韓国が島の領有権を主張しており、現在は韓国の実効支配下にある。

C:尖閣諸島は、沖縄県に属する小島群で、周辺に石油や天然ガスといった資源が埋蔵されている可能性が高いところである。日本の実効支配下にあるものの、中国・台湾も領有権を主張しており、近年では大きな外交問題の一つとしてクローズアップされている。

以上のことから、最も適当な組合せは①となる。

問6 [31] ②

1960年に改定された現行の日米安全保障条約には、「日本国の施政の下にある領域における、いずれか一方に対する武力攻撃が、自国の平和及び安全を危うくするものであることを認め、自国の憲法上の規定及び手続に従って共通の危険に対処するように行動する」(第5条)と定めている。すなわち、日

米の共同防衛義務は、「日本の施政下にある領域」に限定されるのであって、「日本の領域外」（日本国外）でアメリカ軍が攻撃された場合でも日米が共同して防衛行動をとることが義務づけられているというのは誤り。

残る選択肢は、いずれも適当である。①1951年に締結された当初の日米安全保障条約は、アメリカ軍の日本駐留が主な内容であった。③の事実にも留意しておこう。④の**日米安保共同宣言**は、冷戦終結後の国際情勢の変化を受けて、1996年に発表されたものである。

問7 32 ②

日中平和友好条約が、1978年に結ばれている。これに先立つ1972年の**日中共同声明**によって両国間の国交は正常化されたが、日中平和友好条約によって、両国間の平和友好関係を強固にし発展させることとした。

①「国際連合が発足した当初からの加盟国」という記述は誤り。国際連合(国連)は、1945年に**サンフランシスコ会議**で採択された国際連合憲章に基づいて、同年に発足した。敗戦国として占領下にあった日本は、この時点では国連に加盟できなかった。日本が国連に加盟したのは、1956年のことである。これは、同年に**日ソ共同宣言**(問5の解説も参照)が調印されて、ソ連が日本の国連加盟に拒否権を行使しなくなったことによる。③日本の**ODA**は、「贈与」だけではない。返済義務のある**借款**も多く含まれている。④「すべての条項を留保なしで批准」が誤り。**国際人権規約**は、主に社会権について規定している**A規約**(経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約)と、主に自由権について規定している**B規約**(市民的及び政治的権利に関する国際規約)から構成されており、このほかにB規約の**第一選択議定書**と第二選択議定書(**死刑廃止条約**)がある。日本はA・B両規約を批准しているが、A規約のうち、**公務員のストライキ権**と**公休日の報酬保障**の条項については留保している。かつては中等・高等教育の無償化も留保していたが、2012年に留保を撤回した。なお、二つの選択議定書には加わっていない。

第6問 日本の財政と金融

【出題のねらい】

本問は、日本の財政と金融に関して、近年の動向を中心に理解を深めてもらうことをねらいとしている。とくに、時事問題や現状に対する批判に留意しながら出題した。また、図表の問題は、センター試験の傾向に則して、単純な読み取りではなく、基本的知識とグ

ラフの表す動向を結びつけて解答することを求めている。

【設問別解説】

問1 33 ④

会計検査院は「国会に設置された」機関ではないので誤り。会計検査院は、国会や内閣から独立した憲法上の機関である。国の機関や法律で定められた機関の会計を検査し、会計経理が正しく行われるように監督している。検査の結果は、内閣が国会に提出しなければならない。

残りの選択肢は、いずれも正しい。①は憲法第84条、②は第60条、③は第8条と第88条に規定されているので、内容を確認しておこう。

問2 34 ③

直近の予算に占める比率から判断することも可能だが、そのデータを覚えていなくても、歴史的な経緯から判断することもできる。**国債依存度**は、1980年代に**行財政改革**やバブル景気によって低下したが、バブル崩壊後の景気低迷の中で再び高まるようになり、近年にはたびたび4割を超えるようになった。この傾向から、**A**が国債依存度であると分かる。社会保障関係費は、高齢化の進展によってほぼ一貫して比率が高まっているので、その傾向に当てはまる**B**が社会保障関係費だと分かる。地方交付税等は、1990年代には社会保障関係費を上回ることもあったが、2003年に始まった「三位一体の改革」(国からの補助金の削減・地方交付税の見直し・国から地方への税源移譲の三つを一体的に進める改革)によって目立った増大が抑えられ、比率は横ばいとなった。そのため、この傾向に当てはまる**C**が地方交付税等であると分かる。

以上のことから、③の組合せが正解となる。

問3 35 ③

一般に、給与所得者の**所得税**は、給与からあらかじめ差し引かれ、本人に代わって勤務先の企業が納税していることから、課税の基準になる所得は税務当局がほぼ完全に捕捉している。一方、自営業者などは所得を自分で計算して申告するため、必ずしも実際の所得を税務当局が捕捉できるとは限らず、実際よりも低い所得申告によって納税額は低くなってしまふ。こうしたことから、所得の種類によって不公平が生じているのではないかという指摘がある。

①所得税で採用されている**累進課税**は、所得が高くなるほど税率が高くなり、所得に占める税負担の割合が高くなる。②「直接税が税収の8割以上」というのは不適當。近年の国税における直接税と間接税の比率(**直間比率**)は、6対4から5対5程度(す

なわち直接税の比率は5～6割)である。④日本に在住する外国人や外国企業も「社会保障などの公共サービス」を一定の条件で受給することができるので、この選択肢は不適当。

問4 [36] ①

「預金を受け入れることができる」は誤り。**業務分野の自由化**は、金融自由化の柱の一つだが、日本では子会社を作って他の分野に参入することが認められているのであって、証券会社自体が銀行のように預金を受け入れるといった銀行業務を直接に行うことはできない。

②**金利の自由化**は完全に施行され、普通預金や定期預金などの預金金利は金融機関が自由に設定できる。③店舗をもたずインターネットだけで営業する**インターネット専業銀行**や、スーパーやコンビニなどの流通企業が銀行を作って店舗にATMを置いて営業するなど、多様な形態の銀行が生まれている。④郵便貯金を扱う**ゆうちょ銀行**は、郵政民営化によって生まれた民営の銀行である。

問5 [37] ②

企業の内部情報を知る者が、その情報を利用してその企業の株を売買し利益をあげることは**インサイダー取引**と呼ばれ、違法である。たとえば、ある会社が画期的な新製品を発売すれば、業績がよくなることを期待して株価が上がるが、このような情報が発表される前に内部情報を知る社員が安く株を買い占め、発表されて株価が上がったところで売り抜けて不当な利益をあげるようなことを防止するため、こうした規制がある。

①「財務省」が不適当。金融機関に対する検査・監督は、内閣府の外局である**金融庁**が行っている。以前は金融も財政も大蔵省が担当していたが、現在は財政は財務省、金融は金融庁に、担当が分離された。③**マネーロンダリング(資金洗浄)**は、口座から口座へ、ときには国境を越えて資金を移動させるなどの手段を使って、資金の出所を不明にして犯罪にかかわる資金を合法的な資金のように見せることをいう。金融機関はこのようなマネーロンダリングを防ぐための対策を講じなければならないし、そのための法制度も存在する。④口座名義を匿名にすることは、上記のマネーロンダリングや脱税などに利用

される恐れがあり、日本では口座を開くときには必ず本人確認が求められる。

問6 [38] ②

自己資本比率は、貸付金を含む総資産のうち、リスクのある資産に対する株式などの自己資本の割合のことで、銀行経営の健全性を示す指標である。国際業務を営む銀行に対しては、**BIS**が、自己資本比率を8%以上にするよう求めている。

①最近、話題になった「ビットコイン」のような、インターネット上だけで流通する仮想通貨は、企業間の国際取引に使われるようなことはほとんどなく、流通量もわずかである。③日本の金融機関も、海外の金融機関の**M&A(合併・買収)**によって国際化と規模拡大を図るような動きを始めている。たとえば、三菱東京UFJ銀行は、タイのアユタヤ銀行を子会社化することを発表している。④「経済援助に大きな実績をあげている」は不適当。**ヘッジファンド**は開発金融機関ではなく、少数の特定顧客から集めた資金を、**金融派生商品(デリバティブ)**などで運用して短期的に大きな利益をあげ、それを顧客に分配することを売り物にした投資会社である。しかし、その投機的な行動が、金融市場を不安定にする要因として批判されることもある。

問7 [39] ③

銀行が新たな預金通貨を作り出すはたらきを、**信用創造**という。銀行は、受け入れた預金のうち、**預金準備率**にしたがって預金の一部を日本銀行に預け、残りを貸し出しに回すことができる。この問題の事例では、

$$200\text{万円} - 200\text{万円} \times 0.1 = 180\text{万円}$$

が貸出可能な額である。貸し出された資金は銀行に預金されるから、さらにその預金をもとに、

$$180\text{万円} - 180\text{万円} \times 0.1 = 162\text{万円}$$

が貸出可能となる。これが繰り返されると、預金残高の合計は、

本源的預金÷預金準備率

という式で求められる。ここから本源的預金を引けば、増加分の信用創造額が計算できるから、この問題では

$$200\text{万円} \div 0.1 - 200\text{万円} = 1800\text{万円}$$

が正解である。

る。

③ 「役人にふさわしい天性を持ちながらも医者の道を選んできた」は、「役人にふさわしい天性を持ちながらも」が本文の記述と異なる。王養蒙は「医者にふさわしい天性」を持っていたのである。

④ 「自分の天性を役人としては活かせなかったものの素晴らしい医者になった」は、筆者は王養蒙が天性に見合わない役人にならず、天性に合った医者となったことを称賛しているのだから、誤りである。

⑤ 「医者として成功を収めていながら役人の仕事に手を出して失敗してしまった」は、「役人の仕事に手を出して失敗してしまった」が本文に言及がない内容であり、誤りである。

② 「役人の道を選ばず医者を選んだ王養蒙は自分の天性をわきまえた人物であると高く評価している」は、本文に述べられている筆者の主張と一致している。

したがって、読み方、解釈、筆者の主張の説明のいずれにも誤りや矛盾のない②が正解である。

は「不_レ屑_レ為_レ吏」から返読しているので動詞「怪_レむ」だと判断できる。また「怪」に返読する一・二点の範囲および、前置詞の働きをする「乎」に注目すれば、「善_レ医者之不_レ屑_レ為_レ吏」が動詞「怪_レむ」の対象であるところから。

「乎」に導かれる「善_レ医者之不_レ屑_レ為_レ吏」の内容から確認していこう。「善_レ医者」の解釈はいずれの選択肢も「医_レ之心」を持つ者で共通しているのので、「医術に長けている者」という意味で「善_レ医者」と読むことが分かる。「不_レ屑_レ為_レ吏」は、本文一行目の「美_レ其_レ不_レ屑_レ為_レ吏」を参照すればよい。「不_レ屑_レ」が解釈しづらいが、読み仮名を手がかりに「潔しとせず」と置き換えられれば、「――を良しとしない」・「――したくはない」という意味だと理解できるだろう。

次に、傍線部に疑問・反語を表す副詞「何」と助詞「也哉」が用いられているので、疑問形か反語形かを判断しなければならないが、そもそも王養蒙に対する李君一の評価「美_レ其_レ不_レ屑_レ為_レ吏」（役人になりたがらなかったことを褒め讃えている）に対して、筆者は「無_レ足_レ怪_レ者」と述べ（設問解説）問2を参照、以下で「とりたてて不思議なことはい」理由を述べてきたわけである。傍線部はその結論部分であるから「又何_レ怪_レ――也哉」（やはり――を不思議に思うことはないのだ）と反語で読まなければ意味が通じない。

したがって、全体では「又た何ぞ医を善くする者の吏と為るを屑しとせざるを怪しまんや」と読み、「医術に巧みな『医之心』を持つ者が、役人になりたがらないのは、なんら不思議なことではない」という解釈になる。これに該当するのは④しかない。よって④が正解である。

問7 書き下し文と趣旨説明の問題

傍線部の読み方Ⅱ書き下し文と、筆者の主張の説明問題であるので、基本句形・重要語に着目して、まず傍線部の書き下し文を考える。

「然則」は、通常は「しからばすなはち」と読み、前文を条件として受

け「そうであるなら」という意味を持つ。そこで、傍線部の直前を確認する。筆者は天性にかなった職業を選ぶことが大切だと説き、しかし現実にはそうでない場合があると述べている。王養蒙は天性に見合った医者という職業を選んだのだから、「然則」を逆接に解して「然れども則ち」と読んでいる④・⑤は誤りである。

次に「――乎哉」という形に注目する。つまり、疑問・反語を表す助詞が用いられているので、次の三つの意味を考えなければならない。

- ・――なのか「疑問形」↓句末「連体形+か・終止形+や」
- ・――であろうか「反語形」↓句末「未然形+んや」
- ・（なんと）――であることよ「詠嘆形」↓句末「連体形+かな」

選択肢を確認すると、①が疑問形、③・⑤が反語形、②・④が詠嘆形で読んでいる。さて、本文は王養蒙が役人になりたがらず、医者という道を選んだことを称賛する文章であり（本文解説）を参照、筆者は、「医者的心を持つ者が役人になりたがらないのは、なんら不思議なことではない」（設問解説）問6を参照と述べている。したがって、「養蒙賢」（王養蒙は賢者である）に対して疑念を抱いている疑問形①、否定している反語形③・⑤は誤りと判断でき、詠嘆形②・④に絞られる。

以上から、全体では「然らば則ち養蒙は賢なるかな」と読み、「そうであるなら、なんと養蒙は賢者であることよ」という意味になる。よって、②の読み方と解釈が正しい。④はすでに確認したように、「然_レ則_レ」の読みと解釈が誤りである。

最後に、各選択肢に述べられている筆者の主張が、本文の記述と一致するかどうかを確認しておこう。

①「自分の優れた能力を役人としての仕事には決して活かそうとしなかった王養蒙の生き方に疑問を抱いている」は、確かに王養蒙は役人になることを良しとしなかったのだが、筆者は王養蒙が自分の天性に見合わない役人にならなかったことを称賛しているのであり、「養蒙は賢者であらうか」という内容も筆者の考えと逆方向になってしまうので、誤りであ

死んでしまふ」と訳せる。つまり、生き物を殺さないという「騶虞」の嗜好を「虎豹鷹鷂」に持たせたら、食事ができずにそのまま餓死してしまふであろうし、生き物を殺す「虎豹鷹鷂」の嗜好を「騶虞」に持たせたら、その仁愛の心ゆえに死んでしまふであろう、という内容だと理解できよう。この内容に合致する選択肢は③「虎豹鷹鷂」に生き物を殺させず、『騶虞』に生き物を殺させたならば、どちらも生きていけないということしかない。②「両」を「虎豹鷹鷂」と「騶虞」と解釈していない①・④、「易」之を「天性に基づく両者の」嗜好を入れ替えれば」と解釈していない⑤・⑥は、いずれも誤りである。したがって正解は③である。

問4 書き下し文の問題

まず傍線部の句形に注目する。「何独——哉」は、通常は「何ぞ独り——のみならんや」と反語で読み、「どうして——だけであろうか（いや——だけではない）」と訳す累加形である（②）基本句形を参照）。よって、「何をか」と読んでいる①・④、反語の句末「未然形＋んや」と結んでいない⑤を除外できる。次に、何に対して「——だけではない」と言っているのかを確認する。傍線部の直前では「物理、然也」と述べられているので、これを踏まえると、傍線部は「（物の道理として当然であり、）人だけ当然でないわけではないのだ」という内容だと推測できよう。③「人のみに疑はれんや」という受身の読みは、「人だけから疑われているのではない」という意味となり、文脈が成立しない。④「人のみに疑ひあらんや」と読めば、「人の場合だけに（は違うのではないかと）疑念を抱いたりすることはない」という意味となり、文脈にも合致する。したがって正解は④である。

なお、「独」は限定を表す副詞で、通常は限定する内容に「のみ」を送って読む。傍線部の「独」は、「疑」の対象である「人」を限定しているもので、ここでは名詞「人」に「のみ」を送って読んでいる。通常の累加形の読みとは異なっていることにも注意したい。

問5 空欄補充の問題

空欄ⅠとⅡ、空欄ⅢとⅣを含む文は、それぞれ対句になっていることに注目する。

「Ⅰ之道」と「Ⅱ之道」は、「Ⅰ之道」を含む文の直前の文に「故吏与、医為二道」とあるので、一方に「吏」、一方に「医」が入ると判断できる。それぞれ空欄の直前に注目すると、「Ⅰ之道」は、「活人以為功者」（人を活かすことを手柄とするもの）の道であり、「Ⅱ之道」は、「利己而無恤乎人者」（自分の利益を求めて人を憐れまないもの）の道だと述べられている。人の命を救う立場の「医」がⅠに入るのは明白なので、もう一方のⅡに「吏」を入れている①・③に絞られる。

ⅠとⅡの直後の文章を確認すれば、Ⅲの直前の「吏之心」は「忍以刻」（むごくて無慈悲である）（設問解説 問1を参照）、Ⅳの直前の「医之心」は「慈、以恕」（慈愛に満ちて人に思いやりがある）だと分かる。さて、その「吏之心」を持ちながらⅢとなった場合は「業必喪」、「医之心」を持ちながらⅣとなった場合は「身必窮」と述べられている。「業」は「職業」「業務」、「心」は「心身」等の熟語が想起できれば、むごくて無慈悲な「吏之心」を持ちながら、人の命を救う「医」になると、「（医者としての）職業はきつと損なわれてしまうだろう」とし、人を思いやる「医之心」を持ちながら、人々に無慈悲な態度で接しなければならぬ「吏」になると、「身はきつと行き詰まってしまっだろう」という内容であると理解できよう。したがってⅢには「医」、Ⅳには「吏」が入る。正解は④である。

問6 解釈の問題

解釈の問題であるが、傍線部の送り仮名が省略されているので、まず、基本句形・重要語に着目し、傍線部の構造を正しく把握して書き下し文にしてみる。

「又」は接続語、「何——也哉」は疑問・反語を表す副詞と助詞、「怪」

○ 何^{なん} — 也哉^や どうして — しようか、いや — しない「反語形」
○ 未^{いま} — 「(まだ) — しない」「再読文字」
○ 乎^ず — 哉^{かな} (なんと) — であることよ「詠嘆形」

※ (セ) は活用語の未然形、(シ) は活用語の連用形、(ス) は活用語の終止形、(スル) は活用語の連体形、(スレ) は活用語の已然形、(ナル) は形容詞・形容動詞の連体形を、それぞれ表す。

【設問解説】

問1 語の意味の問題

(1) 「厭」は、動詞としては「あきたるる」・「いやになる」・「したがう」・「おさえる」など多様な意味を持つが、③「執着する」、④「反省する」、⑤「幻滅する」という意味はない。したがって「あきたるる」の方向の①「満足する」、「したがう」の方向の②「服従する」に絞られる。傍線部の直前の内容を確認すると、「虎豹鷹鷂、日殺^{シテヲ}物以養^{テヒ}其軀^ニ、至^{ルマデ}死^ニ」(虎や豹、鷹やハヤブサは、毎日動物を殺して自分の身体を養い、死ぬまで)と述べられている。②「服従する」では、「虎豹鷹鷂」が何に服従するのか、対象を確定できない。①「満足する」と解すると、「死ぬまで満足せずに殺し続ける」と意味が成り立ち、決して生き物を傷つけない「騶虞」との対比から考えてもふさわしい。したがって正解は①である。

(2) 「忍」は、「残酷である」・「がまん強い」などの意味を持つ(①重要語を参照)。それぞれ「残忍」・「忍耐」などの熟語を想起してみるとよい。この意味に合致するのは、「残酷である」の方向の③「むごい」しかない。また、傍線部を含む「忍^{テナリ}以^{ニシテ}刻^{ナリ}」は、前文「慈^{ニシテ}以^テ恕^{ナリ}」(慈愛に満ちて人に思いやりがある)と対になっている。「慈」・「恕」がともに「仁」の性質を表していることに注目できれば、「忍」は「刻」とともに「不仁」の性質であり、「刻」の注の「無慈悲である」からも「忍」の意味を類推できよう。したがって正解は③である。

問2 返り点と書き下し文の問題

傍線部は白文であり、返り点の付け方と書き下し文が問われているので、基本句形・重要語などに着目するとともに、文脈から傍線部の意味を推測することも大切である。

まず「予独謂」は、いずれの選択肢も共通して「予独り謂へらく——と」と読んでおり、「私だけは——と思う」の意味である(①重要語を参照)。そこで、動詞「謂^{ヘラク}」の目的語「此無足怪者」について検討する。傍線部は、王養蒙に対する李君一の評価について筆者が言及しているのであるから、指示語の「此」は直前の李君一の発言「初^{ハツ}序^{シヨ}王養蒙之為^ノ醫^ヲ、且美^{ツム}其不^ノ屑^ヲ、為^レ吏^ト」を指すと判断でき、「此れ」と主部として読むのが適切である。したがって、①「此の足る無きは」、②「此の怪しむ者に足る無かれ」と「此」を後の語句にかけて読んだのでは、いずれも意味が通じない。また「足^{タル}」には、動詞として「充足する」・「満足する」という意味もあるが、③「足る無くして怪しき者なり」、④「足るを怪しむ者無かれ」では、「足」の意味が成立しない。よって、この「足^{タル}」は、動詞「怪^{シム}」から返読して「十分に——できる」・「——に値する」という意味を表す用法であると判断する(①重要語を参照)。「無^シ足^ル怪^{シム}者」と読むと、「不思議に思うに値するものはない」と直訳でき、李君一が王養蒙を褒めているが、筆者はそのことを「別段不思議には思わない」という内容となり、文脈とも合致する。よって正解は⑤である。

問3 内容説明の問題

傍線部を直訳すると「これを入れ替えれば両方とも死んでしまうのは」となるので、まず指示語「之」の指示内容を考えなければならない。傍線部までの内容を整理しておくと、「虎豹鷹鷂」は生き物を殺すことで自らの生を保つ一方、「騶虞」は生きている草や虫すら踏みつけたりせず、その嗜好の相違は天性に基づく、と述べられている。したがって、それに続く傍線部は「この(天性に基づく両者の)嗜好を入れ替えれば、両方とも

や。然りと雖も、今の医の道を以て吏と為る者は未だ見ざるに、吏の道を以て医と為るは則ち有り。然らば則ち養蒙は賢なるかな。

【全文解釈】

李君一は、(王養蒙の詩文集に寄せた序文の)初めに王養蒙が医者となったことを述べ、さらに(王養蒙が)役人になりたがらなかったことを褒め讃えている。私だけは、このことはとりたてて不思議なことはないと思っている。虎や豹、鷹やハヤブサは、毎日動物を殺して自分の身体を養い、死ぬまで満足することはない。騶虞は生きている草を見ても折ったりはしないし、生きている虫を見ても踏みつけたりはしない。虎や豹、鷹やハヤブサと騶虞の嗜好が同じでないのは、天性に基づくのである。この嗜好を入れ替えれば、両方とも死んでしまうのは、物の道理として当然のことである。人の場合だけに(は違うのではないかと)疑念を抱いたりすることなどなからう(Ⅱ人の場合も同様に、嗜好を入れ替えれば駄目になってしまうことがあるのだ)。つまり(人にとって)役人と医者とはそれぞれ二つの(異なった)道である。人を活かすことを手柄とするのは、医者之道である。その心は慈愛に満ちて人に思いやりがある。そして仁ある人が医者之道を好む。(一方、自分の利益を求めて人を憐れまないのは、役人之道である。その心はむごく無慈悲である。そして仁のない人が役人之道を好む。だから役人の心を持ちながら医者になった場合には、(医者としての)職業はきつと損なわれてしまうだろう。(一方、)医者の心を持ちながら役人になった場合には、身はきつと行き詰まってしまうだろう。医術に巧みな者(Ⅱ医者の心を持つ者)が役人になりたがらないのは、なんら不思議なことではない。とはいえ、現在、医者やり方で役人を務めている者は目にしないが、役人やり方で医術を行っている者はいる。そうであるなら、なんと(天性に見合った職業を選んだ)王養蒙は賢者であることよ。

【重要語・基本句形】

(1) 重要語

- 且 かつ その上に・さらに
- 予 われ 私(一人称)
- 謂 おもへら と思う
- 足 た 十分に——できる・——に値する
- 以 (シテ)ち ——してそれで……
- 易 か かわる・交替する
- 則 (スレバ)すなは すれば、……／——なので、……(仮定条件・確定条件を受ける)

- 理 り 物事のすじみち・道理
- 然 しか そうである
- 故 ゆゑ だから・つまり
- AとBと AとBと
- 忍 に 残酷である／がまん強い
- 以 もつて ——を(目的)／——で・を使って(手段・方法)／——なので・が原因で(理由・原因)／——として(資格)

- 又 また その上／いったい
- 善 よ 巧みにする・熟練している
- 雖 いひ たとえ——であっても(譲歩の仮定条件)／——ではあるが(譲歩の確定条件)
- 然 (スル)ハ (する場合)は、……
- 則 しか そうであるなら

- (2) 基本句形 何独 なんひとり 哉 や どうして——だけであろうか、いや——だけではない【累加形】

第4回 漢文

【出典】

劉基『誠意伯劉文成公文集』全二十卷。劉基（一三一—一三七五）は元末明初の人。元末に科擧に合格し一度は元の地方官を務めたが、その後、朱元璋（後の明の初代皇帝の洪武帝）の招聘に応じて、明の創業に偉大な功績を残した。天文や兵法にも明るく、また文章家としても著名である。『誠意伯劉文成公文集』は劉基の詩文集。本文は、巻七「跋」（詩文集に寄せた後書き）に収められた「題医者王養蒙詩卷後」（医者王養蒙の詩巻の後に題す）から採った。

【本文解説】

元代は、「二官、二吏、三僧、四道、五医……」（職業を尊貴な順に並べた言葉で、宋代の書物『心史』などに見える）と言われるように、官吏（「役人」）の地位は非常に高かった。本文は、このような社会状況にもかかわらず、役人になることを良しとせず、自分の天性に見合った医者という職業を選んだ王養蒙について述べた文章である。筆者の劉基は、王養蒙の詩文集とそれに寄せられた李君一の序文を読んでこの文章を記し、跋文（詩文集の後書き）として王養蒙に贈った。文中では、天職として医者を選んだ王養蒙を称賛しつつ、「吏（「役人」）と「医（「医者」）」という職業について、元末の役人の腐敗を目の当たりにした筆者独自の見解が示されている。

「虎豹鷹鷂」が自分を養うために動物を殺すのも、「騶虞」が生きている虫や草でさえ踏みつけたりしないのも、それぞれ天性による行いである。もし、これを入れ替えて「虎豹鷹鷂」に生き物を殺さなければ、食べるものがなく餓死してしまうだろうし、「騶虞」に生き物を殺さなければ、その仁愛の心ゆえに死んでしまうだろう。これは人の場合にも例外ではない。人においては、「役人」と「医者」とはそれぞれ異なった天性に基づく職業なのである。人の命を救う職業である「医者」には、慈愛に満ちた思いやりのある心が必要である。一方、「役人」は人を憐れむ心を持たず、人に対して

むごく無慈悲な態度で接しなければならない。もしこれを入れ替えて、むごく無慈悲な「役人の心」を持ちながら「医者」になれば、助けを必要とする患者が金儲けの対象になってしまうし、慈愛に満ちた「医者の心」を持ちながら「役人」になれば、その人は民に厳しく接しなければならないゆえに心を病んでしまうだろう。だからこそ、それぞれ天性に見合った職業を選ぶということが大切なのである。万一、天性と異なる道を選んだとしたとしても、「医者の心」を持つ「役人」であれば、人々に害を与えるということはないが、「役人の心」を持つ「医者」であれば、人々に与える害は甚大である。ところが、今の世は「医者の心」を持つ「役人」は目にしないが、「役人の心」を持つ「医者」は確実に存在する。だとすれば、慈しみの心を持ちながら「医者」という自分の天性に見合った道を選択できた王養蒙はまさしく賢者である、と筆者は称賛するのである。

王養蒙を称賛しつつ、死ぬまで生き物を殺し続ける「虎豹鷹鷂」を「役人」に喩え、「騶虞」のような心を持つ仁者が「役人」になりたがらないのは当然だとする主張には、当時の社会に対する筆者の批判が込められているのであろう。

【書き下し文】

李君一初めに王養蒙の医と為るを序べ、且つ其の吏と為るを屑しとせざるを美む。予独り謂へらく此れ怪しむに足る者無しと。虎豹鷹鷂、日物を殺して以て其の軀を養ひ、死に至るまで厭かず。騶虞生草を視て折らず、生虫を見て踐まず。其の嗜好同じからざるは、天性に出づ。之を易ふれば則ち両ながら死するは、物の理として然り。何ぞ独り人のみに疑ひあらんや。故に吏と医とは二道たり。人を活かして以て功と為す者は、医の道なり。其の心は慈にして以て恕なり。而して仁者之を好む。己を利して人を恤む無き者は、吏の道なり。其の心は忍にして以て刻なり。而して不仁者之を好む。故に吏の心を以て医と為る者は、業必ず喪はる。医の心をもって吏と為る者は、身必ず窮す。又た何ぞ医を善くする者の吏と為るを屑しとせざるを怪しまん

いるとは言えず、そこが不適切である。

②は、「大将の不実な姿が、『琵琶を押しやりて添ひ臥し給ふに、世に解けがたき御けしき』というように、女君の視点から描かれる」とあるが、引用箇所の「世に解けがたき御けしき（Ⅱどうにもうち解けがたいご様子）」とは、女君が大将にうち解けようとはしない態度のことで、「大将の不実な姿」を「女君の視点から」描いたものではない。したがって、そのように描かれることで、「大将が女君に対して『罪深くあさましくも思しなしたるかな』と恨み言を言いつつ誠意を示そうとしても、それが女君の心に届くはずがないことが強調されている」についても、不適切である。

③が正解である。④で見たように、女君は、大将がそばに座った時、琵琶を弾くのをやめて中に入ろうとした。そのことについて、大将が「なか尽きせず許しなき御けしきならん」と嘆くのであるから、その女君のふるまいは「かたくなな態度」であると言えよう。「大将が『ちぎり慰め』ることで、女君の心が『さのみも心強からぬ』ようであったり、大将に会えなくなると思つて『いと嘆かしげなる』ようであったりと、さまざまに揺れ動く」というのも、本文の内容に即している。

④は、「大将の冷酷な人柄」について述べているが、大将が冷酷であるかどうかは、物語を読む者の解釈にもよるので、選択肢の正誤を判断する基準にはしがたい。また、「自分のせいで『ながめ居給へる』『いといったう悩み瘦せ給へる』女君」は間違いではないが、「表面上は『常よりもまばり給ひて』と優しげな態度を装っている」という部分は不適切である。大将が女君をいつもよりも見つめているのは、「額髪のうちかかりたるが清げなる」と、女君の美しさによるものであり、「優しげな態度を装つ」たものとは言えないからである。また、女君に対し、「なつかしきところだに添ひたらましかば」と思つのは、女君が自分にかたくなな態度を取っていることを残念に思っているためであり、大将が女君を「容赦なく突き放している」とは考えにくく、その点も不適切である。

⑤は、本文に、女君の様子について「いみじく心置き給ひし名残なく

（Ⅱたいそう心の隔てを置きなさつていた名残もなく）、つまり妹への心のわだかまりが解消されたと書かれているので、「わだかまりがまだ解消されずにいる」というのが誤りである。ただし、「妹の細やかな心遣いが、『ありつる御返り』をすぐさま送ってきたり、手紙に『白き唐の色紙』といった美しい紙を使つたりする行為に表されている」については間違いとは言えないし、「その手紙を『見給ひてうち泣き給ふ』女君の様子」も本文に描かれている。

るように、大將は、女君の妹への思慕を女君に対しては否定していたのだから、その愛情を女君に悟られるわけにはいかず、「紛らはし給ふ（『ごまかしなさる』）」が、「けしきも変はりやすらん」と「そぞろはしき心地」になる。「そぞろはし」は「心が浮き立つ・不安で落ち着かない」という意味の形容詞だが、ここでは「不安で落ち着かない」の意でとるとよい。「けしき」は「様子・態度・顔色・機嫌・意向・きざし」などの意味の名詞、「や」はここでは疑問の係助詞、「らん」は現在推量の助動詞である。大將は、女君の妹への愛情を「ごまかすもの」、「今「けしき」が変わっているだろうか」と不安に思い、傍線部にあるように手紙を押しやり、そのまま横になったのである。その内容から考えると、「けしき」は、手紙を見た大將の「顔色」の意がふさわしい。大將は、妹への愛情を「ごまかすもの」、女君の目から見れば自分の「顔色」は今変わってしまったているだろうか、と、不安な気持ちになり、手紙を押しやって遠ざけ、顔色を見られまいとして、そのまま横になってしまったのである。その内容を踏まえているのは①で、これが正解である。

②は、「女君の妹からのものだ」とわかったため、思わず手に取った」が誤りである。大將は、姉妹の父からの手紙かと言って手に取ったのである、女君の妹のものだとわかったから手に取ったわけではない。「誰からの手紙かわからないふりをしようと思った」も、本文の内容からは読み取れず、適切とは言えない。

③は、「その筆跡の見事さに思わず感嘆の声をあげてしまった」が誤りである。大將が感嘆の声を實際にあげたとは本文には書かれていない。また、大將の心が動いたのは、「筆跡」が「見事」だからではなく、それが恋慕う女性の文字だからである。「何事においても妹に引け目を感じている女君を悲しませないために」についても、本文の最初には、女君が自分を「数ならぬ身」と思っていると書かれているので、そのような女君に対して大將が配慮する気持ちを持っていないとは言えないが、前述のような傍線部に至る事情を考えると、その配慮によって大將が手紙を押しやっ

たとは考えられず、適切とは言えない。

④は、「女君の妹の手紙を見ながら、あらためて妹への恋心がわきおこった」は正しいが、「妹は関白の妻となっており、自分に対する気持ちも、今はもう変わってしまったているのだろうか」が間違っている。「けしきも変はりやすらん」の「けしき」は大將の顔色のことで、妹の気持ちのことではない。

⑤は、「たった今女君をいとおしく感じたばかりなのに、女君の妹の手紙を目にしたとたん、すぐさま自分の気持ちが妹の方へ向いてしまった」という部分は間違っていないが、大將が手紙を押しやったのは、自分の顔色が変わっているかもしれないと、女君の目を気にして不安に感じたからであって、「我ながら情けなく、女君に顔向けできない」と反省するものではないので、不適切である。

問6 文章の表現と内容に関する説明

センター試験の古文では、ここ数年、問6では「表現と内容」に関する説明問題が出題されてきたが、14年の本試験では「表現」が問われず、「内容」だけの説明問題になっていた。しかし、14年の追試験では、「表現と内容」の説明が出題されており、今後も本試験で出題される可能性はあるので、このような設問にも慣れておく必要がある。全体を見通さなければならぬ難しい設問なので、選択肢の一つ一つを慎重に吟味していこう。

①は、「女君の自らを卑下する性格」について述べている。すでに述べてきたように、確かに女君は、妹に比べ、「数ならぬ身」であるとして自らを卑下し、「恨みつづ」過ごしている。さらに、「とかく慰め聞こえ給ふ」「御側に居給へれば」という表現は、大將が「女君に積極的な好意を示そうとする」言動であると考えられる。しかし、「琵琶も弾きさしてゐざり入り給へる」というのは、訪問してきた大將を避けようとする女君のよそよそしさを示すもので、「かえって自らを貶めるありさま」を描いて

る場合もあるので注意しよう。「あだなり」は「浮気だ・はかない・いいかげんだ」などの意、「つらき」は「つらい・心苦しい・薄情だ」などの意の形容詞「つらし」の連体形で、「心の隔て」に続くので「薄情だ」の意がふさわしい。逐語訳すると、「口に出して言ううと浮ついてはかない。今考えてくれ。薄情な心の隔てがあるかと」となる。この和歌は、大將が、自分と皇女との結婚話について嘆く女君を慰めようとして詠むのであるから、「つらき心の隔て」とは、大將自身の女君に対する心の隔てのことである。大將は、自分が言葉に出してあれこれ言っていると、その言葉は浮ついたはかないものになってしまうから、あなたを隔てる心が私にあるのかどうかを、あなた自身を考えてほしい、そして、そんなものはないのだとわかってほしいと、倒置法を用いつつ強く訴え、女君の心を慰めようとしているのである。

Cは、「絶えぬべき／ちぎりにかへて／惜しからぬ／命を今日に／限らましかば」と句に分けられ、句切れはない。「ちぎり」は名詞で、「約束・宿縁・夫婦仲・男女の愛情」などの意味があるが、ここは女君が、自分たちのことについて、夫の大將と歌を詠み交わしている場面なので、「夫婦仲」の意味である。初句の「ぬ」は、完了（強意）の助動詞「ぬ」の終止形、第三句の「ぬ」は打消の助動詞「ず」の連体形、「ましか」は反実仮想の助動詞「まし」の未然形である。歌は、「終わってしまったに違いない夫婦仲にかえて、惜しくはない命を今日に限ってしまったら」と逐語訳される。「命を今日に限る」というのは、「命を今日までとする」ということで、今日死ぬということの意味している。Bの大將の歌の前の部分に「及びなきことに定まり給ひなば、見る目も難くこそぞと思し続けて、いと嘆かしげなる」とあるように、女君は、大將が皇女と結婚してしまえば、自分は正妻としての地位を追われ、大將はもう自分のところによって来なくなるだろうと考えて嘆いており、その嘆きは、大將から詠みかけられたBの歌でも慰められなかったのである。「絶えぬべきちぎり」というのは、大將と皇女との結婚によって終わるに違いない自分たちの夫婦仲を指して

おり、女君は、夫婦の仲が終わるはずなら「惜しくはない自分の命」を今日で終わらせることができたなら、と詠んだのである。「ましかば」の後の内容は省略されているが、こうした歌の内容から、「よかったのに」というような内容を補うことができる。

以上の内容を記している④が正解である。Bの、「大將が、私にあなたを隔てようとする薄情な心などないことをわかってほしい、と強く訴えている」、Cの、「女君が、私とあなたとの仲が終わってしまうぐらいなら、私の命が今日絶えてしまえばよかったのに、と詠んでいる」は、それぞれの和歌の内容として適切である。

⑤は、「あなたは隔てなく愛してくれるだろうか」が誤り。Bの和歌の「つらき心の隔て」とは、大將の女君に対する心についての表現であり、女君が大將を「隔てなく愛して」いくことではない。Cは、「もし私が死ねば二人の仲は絶えるだろう」は間違いとは言えないが、女君は、夫婦仲が終わるぐらいなら死を選びたいと詠んでいるのであり、「これからも生きるのだからあなたを愛し続けたい」とは言っていない。

問5 理由の説明問題

傍線部は、「押しやってそのまま横になりなさっていたところ」と訳すが、大將が押しやったのは、Dの歌の2行前で「殿の御返事か」と言っている。取りて引き広げ」た手紙である。各選択肢もその前提で作られている。

そこで、大將がその手紙を押しやった理由を考えていこう。大將が姉妹の父からの返事だと思った手紙は、実際は、女君の妹からのものであった。それを手に取る直前までは、大將は、女君にいとおしさを感じ、他の女性に愛情を分け与えようとは思ってもしなかったのに、恋慕する女性の手紙を思いがけず見て動揺する。手紙には、姉である女君を慕う妹の真情が綴られていた。大將は、その美しい筆跡を見て、「心のうちはせきかね給へ（＝心の中ではせき止められなくていらっしやる）」とあるが、「せきかね」るのは、むしろ、女君の妹への恋情である。しかし、前書きにもあ

和歌は、「もろともに／あり経し宿は／変はらねど／花は見し世の／にほひやはある」と句に分けられ、句切れはない。二つの「し」はいずれも過去の助動詞「き」の連体形で、「ね」は打消の助動詞「ず」の已然形、「やは」はここでは反語の係助詞、「にほひ」は名詞で、ここでは花の美しさを意味している。逐語訳すると、「一緒に過ごした家は変わらないが、花は見た時の美しさはあるか、いや、ない」となる。ここで気をつけなくてはならないのは、女君が、歌とともに「なべてならぬ枝（＝並々でなく美しい枝）」を送ったことである。一見すると、この歌は、花の美しさを否定する内容だが、添えられていた枝の花は見事なものであった。そうすると、和歌中の「花」は、添えられていた本物の花を指すわけではなく、何らかの比喩になっていると考えられる。そして、今も変わっていない、姉妹の「一緒に過ごした家」と対比され、かつてのような美しさはないものとは何かを考えると、それは、前書きにも「疎遠になっていた」と記されている「姉妹の仲」であろう。大将をめぐることが、女君は妹を長い間遠ざけていた。今、女君がそのことを悔やみ、あえて「私たちの仲は昔のようではなくなった」という趣旨の和歌を、美しく咲いた花に添えて送ったということは、そこには「昔のような親しい仲に戻りたい、あなたに会いたい」という女君の思いが込められていると推測されよう。

次にDの和歌を考えると、「誰が誰に対して」送った和歌であるかについて、①②③の選択肢において「妹が女君に」という点は共通しているが、③は「妹が父に成り代わり」となっている。女君が父に手紙を送ったのであれば、妹がその父に代わって返事をする可能性もあるが、Aで検討したように、女君の手紙は妹に宛てたものであるから、その返事も父に代わって書かれたものではない。

和歌は、「花盛り／ともにながめし／古里の／庭をばつゆも／忘れやはする」と句に分けられ、句切れはない。「し」は過去の助動詞「き」の連体形、「やは」はここでは反語の係助詞と考えられ、「花盛りを一緒に眺めた昔の家の庭を、ほんの少しでも忘れたりしようか、いや、忘れたりしな

い」と逐語訳される。女君が花にことよせて、かつてとは変わってしまった姉妹の仲を詠んだのに対し、妹は、かつて女君と過ごした昔の家の庭を忘れないと詠んでいるのだから、そこには、変わらず女君を姉として慕う妹の思いが表れていると言えるだろう。

④は、Aの「昔のように仲のよい姉妹でなくなったことを悲しく思う」と詠みつつ、暗に妹との和解を望む気持ちを伝えている」は誤りとは言えない。前述したように、直接「和解したい」と詠まれていなくても、前後の文脈から、妹との和解を願う気持ちを読み取ることができる。Dの「あなたは忘れないでいてくれたのだなあ」が誤りである。「忘れやはする」は、妹自身が昔のことを忘れていないと詠んでいるのであり、「忘れない」主体は「あなた（＝女君）」ではない。

⑤は、Aの「もはや荒れ果ててしまい」が誤りである。「家は変わらない」と詠んでいるのだから、荒れ果てているわけではない。また、「変わってしまった」のは姉妹の仲のことと考えられるので、「私」と限定してしまうのもおかしい。Dは、「あなたのことを忘れられず」は誤りではないが、「その悲しみを思うと私は露のような涙を流してしまう」とは和歌に詠まれていないので、不適切である。

⑥は、すでに検討したように、「父に対して」「妹が父に成り代わり」という部分が誤りである。また、内容としても、Aの「花が散るように皆が私から離れて行った」、Dの「いつかは家族も再会できるだろう」という部分は和歌に詠まれていない。

次に、BとCの組合せを考えよう。ここは、本文中で「大将」「女君」と詠み手が示されているし、どちらの選択肢も「BとCは大将と女君との贈答歌」となっているので、内容だけを検討すればよい。

Bは、「言に出でて／言へばあだなり／今思へ／つらき心の／隔てありや」と句に分けられ、第二句の「あだなり」が形容動詞「あだなり」の終止形、第三句の「思へ」が四段活用動詞「思ふ」の命令形で、それぞれが句切れになっている。このように、和歌の中に二箇所句切れが存在す

「はづかしさ」も妹の顔を見ればきつと紛れるだろう、と考えているのだから、ここでの「はづかし」は、前記1の「きまりが悪い」だと考えられる。秋の夕暮れに、心細さのあまり妹を恋しく思い出した女君は、つまらないことで妹を遠ざけたことを悔やみ、会ってきまり悪さを解消したいと思っただからこそ、美しい花を添えて妹に和歌を送ったのである。よって、これらの内容を踏まえている③が正解である。

①は、まず「秋の夕暮れの情趣に触発されて、……妹を恋しく思い出し」という部分が適切ではない。女君が妹を思い出したのは、「わが御有様の心細くて、何の草葉も御目のみとどまりてあはれなれば」とあるように、自身の心細さによるものであり、「秋の夕暮れの情趣」が直接のきっかけではない。また、「一度でも会っていたならば互いにわかり合えただろうに」というのも不適切である。この表現は、「過去に一度も会わなかったので互いにわかり合えていない」ということを意味するが、ここで女君が「向かひ聞こえて見奉らばはづかしさも紛れなかし」と思うのは、「妹に会うならばきまり悪さも紛れるだろう」という、これから先のことに向けての考えである。

②は、「自分に対する大将の愛情を信じることができず、不安にかられる今、肉親である妹のことが懐かしく思い出され」という部分は誤りとは言えないが、「自分と妹を引き離す原因を作った大将とどうして結婚してしまったのだろうか」という部分が、ここでの女君の心中と大きく異なっており、不適切である。

④は、前述したように、「くやし」に該当する表現がない。それ以外の部分では、まず、「色あせていく草葉が、自らの妻としての立場の変化と重ね合わされ」が誤り。女君が見ている庭の植え込みが「色あせていく」とは本文のどこからも読みとれず、女君が草葉と自分を重ね合わせるという内容も本文にない。また、女君は、「妹ならこのつらさを察してくれるだろう」「今さら声をかけるのも気がひける」などと思っているということとも、本文からは読み取れない。

⑤は、「皇女に妻の座を追われる自らのほかない立場を痛感しつつ」は正しいし、「妹をうらやましく思い」というのも間違っていないが、「閑白の妻として何の心配もなく暮らしている妹をうらやましく」思っているわけではないし、「隔たりけん」を、「どうして自分は妹とこんなに違う境遇になってしまったのか」としているのも誤りである。

問4 和歌の説明問題

14年の本試験では出題されなかったが、センター試験の古文において、和歌の設問は頻出である。和歌の趣旨や内容、解釈などに加え、修辞法などの表現技法、また、詠み手が問われる場合もある。解答の基本は、

1 句切れの確認をする。

2 文法や単語に留意しつつ逐語訳していく。

3 修辞法（枕詞・序詞・掛詞・縁語）に注意を払う。

といったポイントを押さえていくことであるが、歌全体が比喩になっていたり、歌だけでは十分に言い尽くされていないかつたりして、内容を補って考えなくてはならない場合もあるため、和歌の前後の本文から、誰によってどのような状況下で詠まれたのかを十分に確認することが、必要不可欠である。苦手意識を持つ人も多いだろうが、センター試験の古文では、和歌は避けられないものと心得て、この先しっかりと学習に励んでほしい。今回は、和歌の内容と、誰が誰に対して詠んだものであるかを問うている。選択肢は、①～③がAとDの組合せで、④・⑤がBとCの組合せになっている。

まず、Aについて、「誰が誰に対して」送った和歌であるかを考えると、①～③の選択肢において、「女君が」という点は共通している。送った相手は、①と②が「妹」で、③が「父」となっているが、問3で検討したように、女君は、妹について「くやししく思し出づれば……奉れ給ふ（＝残念に思い出しなされるので……差し上げなされる）」とあるので、和歌を送った相手は妹であるとわかる。

腹立たしい」という意を含まない④は正解として考えにくい。他の選択肢はいずれも「くやし」の意味を反映させているので、女君がどういうことを「くやし」と「思し出づれ（＝思し出しなさる）」のか、その内容を吟味していこう。

傍線部の直前には、「と」という引用の格助詞が二つあるので、その前の部分が、女君が「くやしく」思いついている内容であるとわかる。そして、その「と」が受けているのは、「何とて年ごろあいなきことどもに隔たりけん」という部分と、「向かひ聞こえて見奉らばはづかしさも紛れなんかし」という部分で、この二箇所が女君の心中を表していると考えられる。この二つの部分でポイントとなる語は「何とて」「あいなき」、形容詞「はづかし」が名詞化した「はづかしさ」である。

何とて（副）

1 どうして。なぜ。

あいなし（ク活用形容詞）

1 気にくわない。困ったことだ。

2 つまらない。おもしろ味がない。

3 （連用形で）むやみに。ただもう。

はづかし（シク活用形容詞）

1 きまりが悪い。恥ずかしい。

2 こちらが気後れするほど相手がすぐれている。立派だ。

3 気詰まりだ。気がねする。

このほか、「けん」は過去の原因推量の助動詞、「聞こえ」「奉ら」は謙讓の補助動詞、「なん」は完了（強意）の助動詞「ぬ」の未然形「な」＋推量の助動詞「ん（＝む）」の終止形、「かし」は念押しの終助詞である。多義語である「あいなし」「はづかし」を保留にして、二箇所を直訳し

てみると、「どうして長年『あいなき』あれこれのことで遠ざかったのだろうか」「向かい合い申し上げて拝見するならば『はづかしさ』もきつと紛れるだろうよ」となる。

次に、女君が誰と遠ざかり、誰と向かい合ってその顔を見ることを考えているのかを確認するため、傍線部を含む【第二段落】全体を見ていこう。【第二段落】は、庭の植え込みにいつもより趣深さを感じた女君が、部屋の縁側近くに出て来て琵琶を弾く様子が描かれる。主語は明示されていないが、設問で「女君の心情」と問われているし、前書きからも、「わが御有様の心細く（＝自身のご様子が心細く）」感じられるのは、夫と皇女の結婚話で思い悩む女君であると判断できる。女君は琵琶を弾きながら、「いにしへ、関白殿の北の方と、かやうなる夕べ遊びし折々の、箏の琴恋しう、ただ今の心地して」、つまり、今は関白の妻となっている妹と、かつてはこのような夕暮れに楽器を奏でたことを恋しく思い出し、それがたった今であるかのように思ったのである。その内容に加え、前書きの「妹とも疎遠になっていた」という表現から、女君が遠ざかってしまったのも、向かい合って顔を見ることを考えているのも、その対象は妹であると思われる。

それを踏まえて、保留にしていた「あいなき」「はづかしさ」の意味を考える。女君が妹を遠ざけたのは、これも前書きにあるように、夫である大将の、妹への恋慕が原因であった。それは確かに大きな問題であったが、今新たに、夫と皇女との結婚という、自分ではどうにもならない出来事に直面して、心細い思いをしている女君にとっては、かつてともに仲良く過ごした妹を遠ざけたその理由が「あいなき」ものに感じられたということであり、訳語としては前記2の「つまらない」がふさわしいと考えられる。また、【第一段落】に、「年ごろは数ならぬ身を恨みつ」とあるように、女君は、長い間、自らを「数ならぬ身（＝取るに足りない我が身）」であると感じていた。自分の夫である大将から自分以上に愛されているであろう妹に対する劣等感もあって、妹を遠ざけていたわけだが、そんな

4 形容詞の一部。

(ク活用の場合) 終止形の活用語尾。

↓
(シク活用の場合) 終止形の活用語尾、もしくは終止形以外の活用語尾の一部。

5 強意の副助詞。

↓本文から取り去っても文意は変わらない。「しも」「しぞ」などの形が多い。

a 下ろし給ひて

直下に動詞の「給ひ」があるので、「し」は連用形であると思われる。また、「し」を直上の「下ろ」と分離して「する」という意で訳すことはできないので、サ行変格活用動詞(前記2)ではなく、サ行四段活用動詞「下ろす」の連用形活用語尾(前記3)だと考えられる。

d 分くる心もなかりしに

直上に、ク活用形容詞「なし」の連用形「なかり」があるため、この「し」は、連用形に接続する過去の助動詞「き」の連体形(前記1)であると思われる。直下の「に」は接続助詞だが、接続助詞の「に」は活用語の連体形に接続するので、そのことから、この「し」が過去の助動詞であると証明される。

次に、bの「せ」の識別を考えよう。

「せ」の識別

1 使役・尊敬の助動詞「す」の未然形・連用形。

↓四段・ナ変・ラ変動詞の未然形に接続する。

2 過去の助動詞「き」の未然形。

↓「くせば」の形でのみ用いられる。

3 サ行変格活用動詞「す」の未然形。

↓「する」と訳せる。

4 動詞の活用語尾。

↓前記3と違い「する」という意味でなく、これだけでは一単語とされない。

b 折らせて

直上が、ラ行四段活用動詞「折る」の未然形「折ら」なので、この「せ」は未然形に接続する使役・尊敬の助動詞(前記1)で、直下には連用形接続の接続助詞「て」があるため、連用形である。助動詞「す」が尊敬の意となる場合は、通常は直下に尊敬の補助動詞「給ふ」「おはします」などを伴って二重尊敬の形で用いられるため、尊敬の補助動詞を伴わないこの「せ」は使役であると思われる。

最後に、cの「な」について検討する。

c 定まり給ひなば

「な」は、四段活用動詞「給ふ」の連用形「給ひ」に接続しているので、連用形接続の完了の助動詞「ぬ」の未然形だと考えられる。直下の「ば」は、未然形と已然形に接続する接続助詞であるため、この点からも、「な」が完了の助動詞の未然形であることは間違いない。

選択肢に「断定の助動詞」があるのは、断定の助動詞「なり」の連体形「なる」の後に、助動詞「めり」「なり(伝聞・推定)」「べし」などが接続した際、語尾の「る」が撥音便化して「なん」という形になり、さらにその撥音が表記されず「な」となる場合を想定するものである。しかし、断定の助動詞「なり」は連体形や非活用語に接続するので、今回のように直上に「給ひ」と連用形があることは適合せず、また、直下に「めり」「なり」「べし」という助動詞もないため、「な」が断定の助動詞であるとは考えられない。

以上の検討から、正解は②である。

問3 心情の説明問題

女君の心情を説明させる問いである。まず傍線部に「くやくしく」という心情を表す形容詞があるため、この語の「後悔する・残念だ・しゃくだ・

い。「思ひかしづく」の意味には、②の「心にかけ大切に世話する」、⑤の「大切に育てていけ」が該当する。文脈を考えると、この傍線部を含む「関白殿の北の方を思ひ比べざらん人は、これをこそ限りなく思ひかしづかめ」という部分は、大將が女君を見つめながら、女君について考える心中表現となっており、「これ」は、妻である女君のことを指しているのが、⑤の「大切に育てる」という訳語では文脈に合わない。よって、正解は②であるとわかる。大將は、女君の美しい様子を見つづ、女君の妹と女君を比較しない人ならば、この女君のことをこの上なく妻として大切に世話することだろう、と考えているのである。

(イ) 「なげの言の葉」

「なげ／の／言の葉」と単語に分けられる。「なげ」は形容動詞「なげなり」の語幹、「の」は格助詞、「言の葉」は名詞である。

「なげなり」は、形容詞「無し」の語幹「な」に接尾語「げ」がついてできたもので、今回の「なげの言の葉」や、「なげのあはれ」などのように、語幹の「なげ」に格助詞「の」がついて、「かりそめの・ちよつとした」の意で用いられることが多い。このことから、正解は⑤の「ちよつとした言葉」であるとわかる。

(ウ) 「これより聞こえさせばや」

「これより／聞こえさせ／ばや」と単語に分けられる。「これ」は代名詞、「より」は格助詞、「聞こえさせ」は動詞の未然形、「ばや」は、未然形に接続して「たい」と訳す希望の終助詞である。

これ（代名詞）

- 1 このこと。このもの。この人。
- 2 こゝ。
- 3 今。この時。
- 4 私。
- 5 おまえ。あなた。

聞こえさす（サ行下二段活用動詞）

- 1 申し上げる。（謙譲の本動詞）
- 2 （手紙などを）差し上げる。（謙譲の本動詞）
- 3 申し上げる。おろする。（謙譲の補助動詞）

「これ」は近称の代名詞で、選択肢の①～⑤の意はどれも該当する。「聞こえさせ」は、直前の「より」が助詞なので、前記1か2の謙譲の本動詞としての用法である。この意味になっている選択肢は、①しかない。④の「聞かせ」、⑤の「話し」は、謙譲語の訳になっていないので不適切である。また、②の「伺え」、③の「お会いし」は、謙譲語の訳にはなっていないが、「聞こえさす」が意味する動作ではないので、これも不適切である。したがって、正解は①である。女君からの手紙を受け取った妹が、その返事に書いていた内容であるから、「私からもお手紙を差し上げたい（＝お便りしたい）」ととらえるのが、文脈的にもふさわしい。

問2 文法問題

センター試験の古文の問2では、例年、文法問題が出題されている。語の識別が中心であるが、敬語に関する問いが出題されることもある。今回は「し」「せ」「な」の識別を問うた。

まず、aとdの「し」の識別を考えよう。

「し」の識別

- 1 過去の助動詞「き」の連体形。
↓ 活用語の連用形に接続する。「した」と訳せる。
- 2 サ行変格活用動詞「す」の連用形。
↓ 「する」と訳せる。
- 3 サ行四段活用動詞の連用形活用語尾。
↓ 前記2と違い「する」という意味ではなく、「し」だけでは一単語とならない。

親しみやすいところだけでも加わりなさっていたならば（よかったのに）」と（思つて）ご覧になる。琵琶を押しゃつて添い寝なさるが、どうにもうち解けがたい（女君の）ご様子を、あれこれと恨みなさつて愛を誓い慰めなさると、女君はそうむやみにも強情な態度でないのを、（大將は）しみじみとおしくお思いになる。（大將の様子）このようであるのにつけても、「大將が、自分には」及びもつかない皇女の婿に定まりなさつてしまったならば、（大將と）会うことも難しく（なるだろう）」などと（女君は）思い続けなさつて、たいそう嘆いている様子であるのを、慰めなさつて、大將が、（私の気持ち）口に出して言うと言つてはかない（ものになつてしまふ）。今考えてくれ。私に薄情な心の隔て（＝あなたと距離を置こうとする気持ち）があるかどうかと。

終わつてしまふに違ひない私たちの夫婦仲にかえて、惜しくはない（私の）命を今日までだと限つて（＝今日死んで）しまつたら（よかつたのに）。

と言つて背を向けなさるので、（大將は）「ああ不吉なことよ。ちょっとした言葉も、身に沁みるばかりであるなあ。むやみにいい加減に思い申し上げるわけではないのに、（私のことを）罪深く情けないようにも思い込みなさっているのだなあ」と、恨み申し上げなさる時に、さっきの（女君が妹に送つた手紙の）お返事を、（使いが）持つて参上した。白い唐ふうの色紙で立文である。「殿からのお返事か」と言つて、（大將が）取つて広げなさると、（それは女君の妹からの手紙だったので、大將は）たつた今は（女君以外の）他の女性に愛情を分け与えようとする心もなかったのに、動揺してご覧になると、「私からお便りしたいと思う折も折、（姉上が私と）同じお心でまで（いらつしやつて）」と書いて、

花盛りと一緒に眺めた昔の家の庭を、ほんの少しでも忘れたりするか、いや、忘れたりしない。

こうしている今なども参上したいけれど、何となく取り紛れて」

などと、ゆつたりとお書きになっている様子は、この上なく気品があつてすばらしいので、（大將は）心の中では（思いを）せき止められなくていらつしやるけれど、（その思いを外に出さないように）ごまかしなさるが、（自分の）顔色も変わつていようかと不安で落ち着かない気持ちでして、（手紙を）押しゃつてそのまま横になりなさつていたところ、女君も（手紙を）ご覧になつて泣きななさる様子は、たいそう（妹に）心の隔てを置きなさつていた名残もなく、（その女君の様子を見て、大將は）しみじみとお感じになる。

【設問解説】

問1 短語句の解釈問題

センター試験の古文の問1では、短語句の解釈が三つ出題される形式が定着している。まずは古語の基本の意味や文法をしつかりと押さえ、その上で文脈判断をすることが肝要である。

㊦ 「限りなく思ひかしづかめ」

「限りなく／思ひかしづか／め」と単語に分けられる。「限りなく」は形容詞の連用形、「思ひかしづか」は動詞の未然形、「め」は「推量・意志・仮定・婉曲・適当・勧誘」の意を持つ助動詞「む」の已然形で、傍線部の直前の「こそ」の結びとなっている。

限りなし（ク活用形容詞）

- 1 際限がない。果てしない。
- 2 この上ない。最高だ。
- 3 はなはだしい。

思ひかしづく（力行四段活用動詞）

心にかけて大切に世話する。大事に育てる。

「限りなく」の意味は、選択肢①～③のいずれも違つていとは言えない。

〔第三段落〕

そこに大將が現れて、女君の側に腰を下ろす。琵琶を弾くのをやめて奥へ去ろうとする女君を、大將がひきとめる。大將は心労で痩せてしまった女君を見つめ、妹と比較しない人ならば、女君をこの上なく大切に思うだろうと考える一方、そのかたくなな態度を残念に思うが、それでも自分が変わらないう愛を誓うと、態度を和らげる女君にいとおしさを感じる。女一の宮と大將が結婚してしまえば、大將と会う機会も少なくなるだろうと嘆く女君を慰めるため、大將は誠意を込めた歌を詠むが、女君の返歌は「今日を限りに死んでしまいたい」という不吉なものであり、大將はそんな女君に恨み言を言う。そこに、さきほど女君が妹に送った手紙の返事がきた。大將は、姉妹の父からの手紙かと思つて広げるが、それは妹の姫君からのものであった。大將はたつた今感じていた女君へのいとおしさも吹き飛ばすような思いで手紙を見つめる。そこには、姉に対する妹の思慕が綴られていた。大將は心中の動揺を隠そうとするが、自分の顔色が変わっているかもしれないと不安になり、手紙を押しやり横になる。一方で、その手紙を見て涙ぐむ女君の様子に、姉妹の不仲の雪解けを感じ、しみじみとした気持ちになるのであった。

〔本文以後の展開〕

出産が近づいた女君は、ようやく妹との再会を果たす。女君は自分に何かあつたら生まれた子を育ててほしいと妹に頼み、出産後まもなく命を落とした。大將の悲嘆はこの上なく、自らの女君への仕打ちを後悔するものの、それでもやはり妹の姫君への思慕を断ち切ることはできなかった。女一の宮との縁談は、大將が、女君の喪に服するため結婚をさらに延期しているうちに、立ち消えとなった。

【全文解釈】

女君はたいそう詳しく（大將の結婚について）伝え聞いて、（自分が）世間の物笑いであるようなことを思いふさぎこみなさっているの、（大將が）あれこれ慰め申し上げなさるが、（女君は）長年取るに足りない我が身を恨

みながら過ぐす中でも、挙げ句の果てに、（大將が、自分より）勝っている身分（の皇女）に心惹かれなさることが恨めしくて、少しも安まるお心がない。

しみじみとした秋の夕べの、入り日が陰る御前（の庭先）の植え込みが、いつもよりも趣深く見えるので、（女君は、部屋）縁側近くまでにじり出なさって、自身のご様子が心細くて、どの草葉もとわりわけお目がとどまってしまうと悲しいので、琵琶をかき鳴らしなさると、昔、関白殿の北の方と、このような夕暮れに楽器を奏でて楽しんだ時々の、筆の琴（の音）が恋しく、たつた今のこのような気がして、「どうして長年つまらないあれこれのことで（妹と）遠ざかったのだろうか」と、（また）「向かい合い申し上げて（直接顔を）拝見するならばきまり悪さもきつと紛れるだろうよ」と、（今までのことを）残念に思い出しなさるので、童でかわいらしい子を（庭に）下ろしなさって、並々でなく美しい枝を折らせて、（妹に）差し上げなさる。

（私たちが）一緒に過ぐした家は変わらないが、花はかつて見た時の美しさがあるか、いや、ない（そのように、私たちの仲もかつてとは違ってしまった）。

さらに琵琶をかき鳴らしても思いに沈んで座っていらつしゃると、大將殿がいらつしゃって、（女君の）いつもとは違う（部屋）縁側近くにいるご様子がめずらしくて、おそばに座りなさったので、（女君は）琵琶も弾くのを途中でやめて（奥に）にじり入りなさったのを、（大將は）「ああ情けない。どうして（いつまでも）尽きることなく（私を）許すことのないご様子であるのだろうか」と言つて、引き留めなさって、自身も琵琶を弾きなさって拝見なさると、（女君は）濃い紅の御衣に、龍胆の織物の小桂をお召しになつて、たいそうひどく思い悩んで痩せなさっているが、額髪が（顔に）少しかかっている様子が美しいのを、（大將は）いつもよりもじつと見つめなさって、「関白殿の北の方を（女君と）思い比べないような人は、この人（女君）をこの上なく心にかけて大切に世話するだろう。せめて（女君に）

第3回 古文

【出典】

『夜寝覚物語』 卷三

成立 鎌倉時代かと思われるが、未詳。

ジャンル 擬古物語。

作者 未詳。

内容

主人公の男君（今回の本文では「大将」）は、琴の音色を機縁として、互いに誰ともわからないまま、ある姫君（今回の本文では「関白殿の北の方」）と一夜の契りを交わす。男君は、結婚した後、その姫君が、実は妻である女君の妹だと知る。妹の姫君はその一夜の契りで懐妊し、家族に気づかれないように出産するが、子どもは男君の両親に引き取られる。その後も男君は妹の姫君を忘れられず、やがて二人の仲は周囲の噂となり、それを知った女君は苦悩して、妹を遠ざけるようになる。その後、妹の姫君は、父と兄の勧めで、関白と結婚した。関白は、男君と妻の関係を悟るものの、妻を熱愛し、男君との関係には気づかないふりをする。女君も、妹が関白の妻として落ち着くにつれ、過去のことを思い直し、妹と和解するのであった。やがて、女君と関白がそれぞれ世を去った後、紆余曲折を経て、男君と姫君はようやくともに暮らすようになり、子どもにも恵まれ、物語は幸福な大団円を迎える。

『夜寝覚物語』は、11世紀に成立した作り物語『夜の寝覚』の改作本である。作り物語は改作されることが多く、現存する『住吉物語』『とりかへばや』なども改作本だが、それらの原作本が散逸してしまっているのに対し、『夜寝覚物語』は、原作本が現存し、原作本と改作本とを読み比べることができる稀有な作品となっている。

なお、本文は、笠間書院刊『中世王朝物語全集19 夜寝覚物語』に拠るが、出題にあたり、読解の便宜を図って、一部表記を改めた箇所がある。

【本文解説】

【本文以前の経緯】

大将は、妹の姫君が関白と結婚してしまった後も、姫君を忘れることができないでいた。しかし、関白が姫君を熱愛し、姫君もその愛情に応えるように関白の妻としての落ち着きを見せ、自分から遠ざかっていくように感じられるにつれて、大将は、他の女性を得て心を慰めようとする。朱雀院の女の宮がたいそう気高く優雅だと聞いて手紙を送り、朱雀院からも結婚の許しが出そうであったが、そのことが世間の噂となり、その噂を耳にした女君は思い悩む。相手が皇女という高貴な身分の女性であれば自分には大将を引き止めるすべはない。女君の苦悩は深いが、折しも女君は、この時初めての子どもを懐妊していた。長い間子どもができなかったのに、このような状況下で女君が懐妊したため、大将もさすがに気が引けて女一の宮との結婚を先延ばしにし、女君をあれこれ慰める。

【第一段落】

大将がどんなに言葉を尽くしても、女君の心は慰められない。大将は認めようとしないが、妹との関係は女君にもわかっており、長い間自分は取るに足りない存在だと思ってきたのに、さらにまた、よりにもよって皇女と結婚しようとする大将を恨めしく思う。大将が女君の妹を恋慕していたとしても、妻の妹との結婚が世間に認められるはずもなく、心情的にはどうあれ、大将の正妻は女君である。ところが皇女との正式な結婚となれば、女君は正妻としての地位を確実に追われることになるのである。

【第二段落】

そんな秋の夕暮れ、女君は部屋の端近くで琵琶を弾きながら、妹と過ごした日々を懐かしく思い出す。それ以前に、妹と和解するように兄から促され、姉妹は時折手紙を交わすようになっていた。そうした経緯もあり、女君は、美しい花とともに、再会したいという気持ちを込めた和歌を妹に送った。

参加し、忌明けの宴会を楽しんでいたと思われるので、老人と老婆たちの間に「確執（＝お互いに自分の意見を主張して譲らないことによる不和）」があると判断する明確な根拠はない。

④は、「スイッチバック」という実在しない線路の形態」が不適当。実際に、広辞苑に「スイッチバック」という言葉が掲載されて語義が説明されているわけだから、「スイッチバック」という線路形態は実在するのである。

⑤で問題になっている、94行目の「別の世界に迷い込んだ気がした」という表現は、93行目の「満開の桜のトンネル」を通過する場面の描写である。ここで母が「来年はこの桜、見られないかも知れないねえ」（95行目）と語ったため、祖母は「なにはかなこと言ってるだ」と語って、「娘を現実の世界に連れもどすべく、その細い手を強く引いた」（98行目）のである。つまり、満開の桜の光景は、祖母にとって娘を死の世界に誘惑するような光景のように思えたから、娘を現実世界に連れ戻そうと必死になったわけである。したがって、「桜の咲き乱れた見事な光景が、娘をこの世からあの世へと誘おうとするかのような光景でもあったという印象」を残したという点は正しい。さらに、この94行目前後の話は、89行目に「すべては母の死後、祖母から聞かされた」話だ、と書かれている。つまり【本文解説】のⅢの部分の最後に示したとおり、88行目から100行目までの話は、あくまで祖母から聞いた話なので、「別の世界に迷い込んだ気がした」という表現も語り手の心情ではなく、その時の祖母の心情を表現したものである。したがって右の印象を「祖母に残した」というのも正しい。したがって、これが二つ目の正解になる。

⑥で問題になっている「かろうじて成立していた最後の場面」とは、「この平凡な一家」の「最後の場面」。そして「この平凡な一家」とは、88行目に「実母と父と祖母」と「五歳の姉」と二歳の語り手の五人で成り立つ家族である。したがって、「父と母と祖母と語り手の四人の生活」が不適当である。細かいことだが、小説では、登場人物や場面の説明について

も注意して、ていねいに読み取り、見落としがないように気をつけるようにしよう。

時とおなじ桜につつまれ、おそろくにも変わってはいないのだった」と書かれている。ことと右に見た「幻覚」とを結びつけると「へかつて桜のトンネルの中をゆるやかに走っていた鉄道はなくなってしまったが、当時のスイッチバックの地形を残す場所に当時と同じように桜の花が咲くさま」(a)を見ると、「今でも、スイッチバックをゆっくり走る電車に人々が乗り合わせていて」(b)、「電車がスイッチバックを往復するうちに、人々の人生の時間が過ぎ去っていくような幻覚」(c)が生じるということになる。

したがって、正解は⑤になる。「鉄道が動いていた頃の地形を残すスイッチバックが満開の桜に包まれる光景」がaポイント、「今もなおスイッチバックをゆるやかに走る電車に人々が乗り合わせており」がbポイント、「電車が往復しているうちに各々の人生の時間が過ぎ去っていくような幻覚」がcポイントに対応している。

①は、「鉄道がなくなり線路だけ残った」が不適当。108行目に「昭和三十年代の半ばに鉄道が廃止され、線路も撤去されてしまった」とあるので、線路も残っていない。「スイッチバック」という地名と、当時の地形が残っているだけである。

②は、「人の一生はスイッチバックの電車のように同じ出来事のくりかえし」や「今でも人々が電車に乗り合わせて同じ場所を往復しているだけ」がcポイントに反していて不適当。スイッチバックの電車は人の人生を運んで過ぎ去っていくことを連想させるものであり、「くりかえし」や「往復」だけで、前進しないイメージをもたらすものではない。

③は、a・bポイントから外れている。たしかに「ここはかつて母の死が予言され」たことも「今では墓地に造成されている」ことも事実だが、だからといって「不吉な場所であり、訪れた人々が見えない電車に運ばれて死に向かっていくようなおぞましい(II)ぞっとするような・恐ろしい」幻覚」に結びつくものではない。人生の時間とスイッチバックを行き来する電車とが結びつく幻覚が生じただけで、その幻覚に「不吉」さや「おぞ

まし」さが伴っているわけではない。

④は、電車と花見の「のどかさ」の対応だけに注目していて、人生の時間についてのcポイントを押さえていない点で、不適当。

問6 本文の表現を説明する設問

大学入試センター試験の小説問題の問6では、本文の「表現」についての説明が問われる。各選択肢で、ある程度限定された部分の「表現」が問われることが多いので、それぞれの選択肢と本文の「表現」の特色、さらには内容とをていねいに照合していくことが求められている。

選択肢を順番に検討していこう。

①は、「第一場面での語り手と妻の会話は、常に妻からの語りかけで始まっている」が不適当。35行目の「このままでは数日で死ぬ」ことを、36行目で妻に伝えると、「ええ、そんなあ」と妻が反応している。ここでは明らかに、会話が語り手からの語りかけで始まっている。

②は、たしかに「25行目までに『責任』という言葉が三回出てくる」(18行目に二箇所、20行目に一箇所。また、18行目では「責任」のあり方を「ラグビーボールのようにパスされる」という直喩(II)「たとえば」「ことし」「ようだ」などの表現を用いて、直接に二つの事物を比較してたどるもの)を交えて表現している。ここでは、臨床医である語り手が、病院で「最終責任」を引き受けざるをえないだけでなく、家でも「医師としての責任が、父の死に関してもついて回るさまが印象づけられている」と言える。したがって、これが一つ目の正解。

③の「集落の老婆たちが標準語で語るのに対して、語り手にうらみごとを言う老人は方言で語っている」という点は正しいが、「これは、老人と老婆たちの間に確執が生じていることを暗示している」が不適当。本文では、「語り手にうらみごとを言う老人」を、特に他の老人と区別しているとは思えない。63行目の「集落の老人たち」の一人として父のことを気にかけて、その後も「集落の老人たち」の一人として「祭りのような葬式」に

れて父の死を過去の出来事として振り返っている」(d)。そして、桜やタンポポの見事な花に心奪われる長男を含めて、「うららかな春の一日をのどかに過ごしている」(e)のである。

正解は、aポイントに反することなく、b・eのポイントを押さえた①になる。「老人たちは長らく寝たきりになって逝った父の葬式を手伝い、それを賑やかなものにした」がb・cポイントに、「家族は介護から解放され、墓参りで父の死を過去のこととして振り返り」がdポイントに、「のどかな光景の中で安らぎを味わっている」がeポイントに該当する。

②は、「老人たちは父への供養とばかりに悲しい気持ちを押し隠して明るく振る舞っていた」が不適当。老人たちは「悲しい気持ちを押し隠して」明るく振る舞っていたのではない。「十年以上寝たきりで人前に顔を出さなかった父は半ば以上死んだ存在だったので、まったく涙のない」葬式になっただけである(c)。また、「家族も墓参りの際、父の死を哀悼する悲しい気持ちを押し隠して、つとめて明るく」振る舞っていると判断する根拠も本文にない。たしかに妻は「申し訳ないんだけど」と語っているが、これは「悲しい気持ちを押し隠して」いる心情を意味するものではない。むしろ「哀悼する悲しい気持ち」よりも、介護からの解放感(d)に浸る気持ちの方が圧倒的に強いさまを「申し訳ない」と語っているのである。**【本文解説】**の最後のところでも述べたとおり、くれぐれも「人が亡くなったのだから周囲の人々は悲しいはずだ」といった先入観で読まないこと。

③は、「老人たちは意識のはっきりしていた父が急死したことに狼狽し(「うろたえ」、それを隠すために祭りのような葬式を演出した」が、②と同じく、cポイントに反して不適当。たしかに一泊の温泉旅行に出かけていた老人だけは、父の死のときに集落にいなかったたので、「父が急死したことに狼狽」する気持ちがあったかもしれないが、他の老人たちから見れば「半ば以上死んだ存在」だった父が急死しても「狼狽」することはなかったと思われる。したがって、「それ(「狼狽」)を隠すために祭りの

ような葬式を演出した」わけでもない。祭りのような葬式になったのは、父がすでに「半ば以上死んだ存在」だったからである。

④の前半は、b・cポイントに合致している。しかし後半の「家族は……父の死によって生じた深い心の傷を癒そうとしている」が、②と同じ理由で不適当。「父の死」で家族に「深い心の傷」が生じていたと判断できるような内容は本文に書かれていない。むしろ介護の重圧からの解放感をかみしめている場面である。

⑤は、「老人たちは、……父の死を気にかけることもなく」がaポイントに反していて、不適当。老人たちは、父の死を気になかったわけではない。帰ってきた父を近所の老婆たちが出迎えるのも、老人たちが父に声をかけるのも、死につつある父のことを「気にかけて」いるからであり、また、67行目以下で、父が亡くなった時に一泊の温泉旅行に出かけていた老人は、「旅行に出ても」大丈夫だと思えますよ」と言った語り手に、通夜の席でうらみごとを言っているの、やはり、父の死を気にかけていたと考えられる。

問5 「スイッチバック」に関する「幻覚」を説明する設問

傍線部の「そんな執拗な幻覚」とは、直接的には直前の「みんなが見えない電車に乗り合わせてゆつくりとスイッチバックを往復している」という幻覚が消えないさまを指す。この「幻覚」は、114行目の「これまで生きてきた四十数年の記憶のすべては、あの古風な電車がスイッチバックを往復する間の、ほんのわずかな時間に起こったささいな事件の集積のような気がしてならない」という思いと対応している。つまり「自分の人生の時間が、電車がスイッチバックを往復する時間と対応し、今でも、スイッチバックをゆつくり走る電車に人々が乗り合わせて、そこを往復するうちに人生の時間が過ぎ去っていくような幻覚」が生じることを意味する。さらに、124行目に「あの日の電車の乗客たちはおおむね墓の下に移ってしまったのかも知れないが、ジグザグの地形をそのまま残すスイッチバックは当

義父の介護疲れで消耗しきっていることは明らかだろう。そして、介護していた義父の病状が深刻であることが判明し、一家が義父を介護するまで「十数年介護してきた」群馬の義母（本文7・8行目）の家に運ぶこととなった。ここでの妻は、語り手の処置や判断について「ええ、そんなあ」と驚いたりするものの、特に異を唱えてはいない。そして、義父を群馬の家に運ぶ際も、車で先導していった。そうした妻に対して、56行目以下で、出迎えた老婆たちが「まあ、よく面倒みたねえ」とか、「えらかったねえ」などと「ねぎらいの言葉をかけてくれた」ところで、妻は「一気に張りつめていたものが切れ」て泣き崩れたのである。つまり、〈今まで義父の介護で消耗しきっていたところ〉（a）、〈病状が深刻になった義父を群馬まで車で先導してきた〉（b）、〈そうした緊張が、老婆たちのねぎらい（「いたわり」）の言葉で切れて〉（c）、〈今まで抑えてきた苦しみや辛さがこみあげてきた〉（d）ため「泣き崩れ」たのだと考えられる。

正解は以上のポイントを押さえた④になる。「義父の介護に憔悴（せせ）衰えること」しきっていたがaポイント、「容態が悪化した義父を群馬の家まで先導して来た」がbポイント、「近所の老婆たちにこれまでの労をなぐさめられた」がcポイント、「今までの辛さがこみあげ、人目をばからず泣いている」がdポイントに該当する。

①は、「家族が疲れ果ててもなんとか自分一人で介護し続けて来た義父」という内容が本文にない。まず、8行目に群馬の義母が「これまで十数年介護してきた」と書かれているので妻が「一人で介護し続けて来た」とは言えない。最近に限って考えても、たしかに36行目に「直接の介護者である妻」と書かれているが、7行目に「四月まであずかる予定だったけれど、どうにも家族全員が疲れてきてしまったのだ」とあるので、妻だけでなく家族全員が父の介護で疲れてきていたと考えられる。

②は、「容態が悪化した義父の介護を最期までやりとげたかった」という部分が不適當。本文冒頭で、「私、もう限界みたい」と語った妻は、35～37行目で、語り手から「このままでは数日で死ぬ」ことを伝えられた

際、「ええ、そんなあ」と言いながら、「だからどうしろという回答はなかった」と書かれているので、妻に「義父の介護を最期までやりとげたかった」という強い意志があったとは考えられない。また、「夫の指示に逆らう気力もなく、渋々群馬の家に連れてきた」という心情も、本文に描かれてはいない。

③は、「誰も面倒をみなかった義父」が、7・8行目と矛盾。「十数年」にわたって義母が介護してきたのである。また、「家族にすら感謝されたことがなかった」という内容も本文からは読み取れない（家族から感謝されている具体的描写は本文にないが、だからといって、家族にまったく感謝されたことがない、と断定することもできない）。

④は、「かえって自分の介護の至らなさへの後悔の念がこみあげてきて」が不適當。妻が、「自分の介護の至らなさ」を「後悔」している、と思わせるような表現は、本文中にない。

問4 集落の老人たちと、墓参りの家族の言動について説明する設問

問題となっている「集落の老人たち」の「言動」は、55～76行目に描かれている。まず、55～63行目で、〈帰ってきた父を近所の老婆たちが迎え、家に落ち着いた父に、集落の老人たちが声をかけた〉（a）。その後68行目以下で、〈父が翌日の夜亡くなり、集落の老人たちの指示や手伝いを受けて葬儀も納骨も終わった〉（b）。その際、一連の葬送儀礼について、72行目以下に、〈老人たちにとって「十年以上寝たきりで人前に顔を出さなかった父は半ば以上死んだ存在だったので、まったく涙のない」明るい葬儀と忌明け宴会であった〉（c）と書かれている点を、しっかり押さえるよう。

一方「墓参りに来た家族」については、116～122行目に描かれている。116行目で「私さあ、なんだか申し訳ないんだけど、ほっとしてるのよ」と語る妻、118行目で「おじいさんてほんとに死んだんだなって、最近やっと実感できるようになったよな」と語る次男、いずれもが、〈介護から解放さ

自分の父親に対しては何もしないことを決断した。妻は「このまま起きなかつたらどうなるの」と尋ねるが、臨床医として長らく「責任」を受け止めてきた語り手は、「おれが責任をとるよ」と言った。22行目に「こんな経験は医者になって二十年になろうとしているが初めてだった」とあるが、これは「責任をとる」ことが初めてなのではなくて、「責任をとる」と言いながら「なにもしない」経験が初めてのことだという意味なので気をつけよう。医師でもある語り手が「なにもしない」ことを決めたので、「文句を言う家族はいない」（傍線部直前）。

なお傍線部の直後は、その日の「夕方」になってからのことである。主人公が病院から帰ってきたところで、父の容態が悪いことが発覚するが、朝の出勤前の段階ではまだ、そうした緊急の事態ではなかった点に注意しよう。設問は「このとき」つまり「出勤前」の、それほど父の病状が深刻とは思えない時点での語り手の心情が問われているのである。この設問に限らず、小説の問題では、どの時点の心情や状況が問われているのか、常に注意を払う必要がある。

さて、傍線部と、右に見た状況や心情との対応を考えると、〈自分の処置に異を唱える家族がないこと〉(a)が、傍線部の「楽なようであり」と対応し、その一方で〈他の患者ならいろいろ処置を考えると〉ころだが父に関しては「なにもしない」と決めた(b)ことが「すこぶるうしろめたくもあり」と対応し、そうした〈どこか釈然としない心情〉(c)が「割り切れない気分」に該当するのである。

正解は以上の三点を押さえた③になる。「眠ったまま起きない父をそのままにしておくことについて、責任をとると言い切ったのは事実であり、「その判断を家族が誰も批判しなかった。そうしたことにほっとしつつも」が、aポイントの説明に該当する。「医師として為すべきことをしていないのではないかという引け目も感じ」が、bポイントの説明に該当する。「我ながら釈然としない思い」が、cポイントに該当している。

他の選択肢については以下のとおり。

①は、まず「一刻を争うような重篤の昏睡状態」が不適当。傍線部の段階（＝出勤前の段階）では、父が「これまでに見たことのない、微笑しているような、とても安らかな寝顔」で寝ており、「苦しそうならそれなりの処置を考えるべき」だが、語り手は特に問題がないと判断したのである。少なくとも朝の時点で「一刻を争う」ような状況だという認識は、語り手になかったわけだから、「このとき」の心情の説明として不適当である。既にみたとおり、夕方帰って来たあとで「肺炎」を起こしているらしいとわかり「一刻を争う」状況だという認識が生じたのである。さらに、傍線部の「割り切れない気分」の説明が示されていないのも、不適当。

②も「瀕死の状況にある父」が、①と同じ理由（＝夕方帰ってきてから判明した事態だったということ）で不適当。また、「長い医師生活で初めて自分が責任をとることにした」が不適当。繰り返すが、22行目の「こんな経験」が「初めてだ」と言っているのは、「責任をとる」と言いながら「なにもしない」という経験である。18・19行目に書かれているとおり、「責任をとる」ことは、臨床医の役目として今までも引き受け続けて来たことなのである。

④は、「安眠しているだけの父について騒ぎ立て、自分への不信感をあらわにする妻に辟易した（＝うんざりした）」という内容が本文に書かれていないので不適当。「拍子抜け」という内容も、本文に書かれていない。

⑤は「何の処置もしなければあと数日の命であることが明らか父」が、①や②と同じく、夕方帰ってきてから判明したことであり、「このとき（＝朝の時点）」の状況や心情の説明として不適切である。

問3 傍線部に至るまでの妻の心情を説明する設問

妻が「泣き崩れ」るのには、それなりの理由がある。その理由を含めた心情を、本文冒頭から傍線部までの文脈から考えよう。

まず本文冒頭で、妻は「私、もう限界みたい」と言っている。驚くほどやせた妻について語り手も「たしかに限界だな」と語っているのので、妻が

かな時間に起こったささいな事件の集積のような気」がしてきた。

妻は父が亡くなって「申し訳ないんだけど、ほっとしてるのよ」と語る。中学生の次男も「おじいさんてほんとに死んだんだって、最近やっと実感できるようになったよな」と語り、いずれも父の介護から解放されて、落ち着いた気分を味わっている。高三の長男も、桜やタンポポの彩り豊かな光景に目を奪われている。語り手は、スイッチバックの線路があった場所について、昭和二十八年の春以来、毎年桜の花を咲かせて何も変わっていないという感慨を抱き、今も「みんなが見えない電車に乗り合わせてゆつくりとスイッチバックを往復しているような、そんな執拗な幻覚」が生じると語る。

この場面では、Ⅲの部分で説明された「スイッチバック」を、人生的感慨と結びつけて捉える語り手の心情をしっかりと読み取る必要がある。

以上が、本文の内容だが、小説の読解で気をつけなくてはならないのは、Ⅱの最後の部分でも述べたとおり、**先入観で勝手な読み方をしない**ことである。こうした近親者の死の場面になると、「肉親が亡くなったのだから周囲の人々は悲しいはずだ」といった先入観でとらえがちである。しかし本文では、父の死に際しての悲しみは、51～54行目の浅間山の裾野を通る場面に出てくるだけである。そもそもこの文章は、全体的に〈父の介護で疲弊しきっていた家族が、父の死によって、介護の重圧から解放された気分を味わう〉という内容になっている。既に述べたとおり、葬儀の場面で明るく騒ぐ老人たちに関しても〈本当は悲しいはずなのにそれを隠して明るく振る舞っているんだろう〉などと、**勝手な推測をしないよう、くれぐれも気をつける必要がある**。

【設問解説】

問1 語句の意味を答える設問

例年、大学入試センター試験の小説問題では、三箇所の傍線部の語句について「本文中における意味として最も適当なもの」を選ばせる設問を出題している。「本文中における意味」と指定されているが、本当に本文

の文脈を根拠に解答を選ぶ場合は非常に少ない。過去のセンター試験第2問の問1は、ほとんどの場合、辞書的な意味を問う知識問題になっているので、傍線部前後の文脈だけを頼りに解答を選ぶべきではない。問われている語句の日常的な用法を思い浮かべるなどして、その語句の本来の辞書的な意味に即した解答を選ぶことが大切である。

(ア)の「泥臭い」は、「泥のにおいがする」という原義から、「洗練されていない・野暮である」という意味になる。③が正解。他はいずれも語義から外れている。直後の「臨床医の役目」から④の「地道に働く」や、直前の「最後尾」と結びつけて⑤の「目立たない」にしないよう気をつけよう。

(イ)の「担保」とは、「債務の履行を確保するため債権者に提供されるもの」などと堅苦しく説明されがちだが、わかりやすく言い換えると〈将来の損害に備えて、その損害の補いとなる保証〉という意味になる。①が正解。他はいずれも語義から外れている。「責められたときの」という直前の表現との対応で、②「やりすこす手立て」や③「言い逃れの手段」や⑤「負担を軽くするもの」にしないよう注意しよう。

(ウ)の「ふんぎる」は「踏ん切る」と書き、〈思い切ってする・決断する〉という意味になる。⑤が正解。①の「あきらめる」は逆の意味。②の「和解」や④の「拒絶」という意味は語義から外れる。③で少し迷ったかもしれないが、過去を振り返って「未練を断ち切る」といった限定的な意味だけで用いられる語ではない。

問2 「なにもしない」ことを決断した語り手の心情を説明する設問

まずは場面を押さえよう。朝になっても父親が目覚めない。しかし父は「これまでに見たことのない、微笑しているような、とても安らかな寝顔」で眠っており、苦しんでいるわけではないので、語り手は「このままにしておこうや」と言った。もし病院の患者であれば、万一の事態に備えて、できるかぎりの検査と医療行為を施して延命させようとするところだが、

泣き崩れてしまう。老人たちは、危篤状態だと聞いていたらしく、父の意識があることに少し拍子抜けした様子だった。翌日から伊豆への一泊旅行に出かける老人が「大丈夫」かどうか念を押してきたので、語り手は「大丈夫だと思えますよ」と答えた。しかし、父は翌日の夜亡くなった。その老人からは通夜の席でうらみごとを言われたが、それ以外は医師としての責任を問われることもなく、老人たちの指示で葬儀も納骨も終わった。十年以上寝たきりの父は老人たちにとって「半ば以上死んだ存在だったので、まったく涙のない、祭りのような葬式」になった。最後には「忌明け」の宴会でカラオケまで出て、老人たちは「久しぶりにおもしろかった」と満足げに帰って行った。

なお、特にⅡの場面で、父が亡くなったのにそれを祭りのように楽しむ老人たちを、〈本当は悲しいはずだ〉という先入観で捉えたり、〈不謹慎だ〉と批判的に捉えたりしないこと。先入観を排して本文を読むのが、特にセンタ―試験の小説読解の基本である。ちなみに、特に天寿を全うした老人の場合には、葬式をにぎやかにすることが供養だという考え方もあるので、こうした葬式があながち不謹慎とも言えないのである。

Ⅲ スイッチバックと、幼い頃の話（78行目「五月の連休……」～109行目「……人々にぎわう。」）

父の墓がある場所は、三十年以上も前に、スイッチバックという、急勾配の斜面をジグザグに折り返しながら登っていく線路があった場所で、今でも「スイッチバック」と呼ばれている。そこを軽便鉄道（＝軌道の幅がせまく、小型の機関車および車両を用いる鉄道）がのどかに走っていたのだが、スイッチバックのある場所は急斜面なので、歩くぐらいのスピードしか出なかった。祖母の話によると、語り手は、二歳の時に「結核療養所から仮退院していた実母と父と祖母に連れられ、五歳の姉とともに温泉に行った」ことがある。母は結核が治ったかのように元気だったが、電車で村に帰るとき、ちょうどスイッチバックにさしかかると「ヘッドライトに浮かび上がった満

開の桜のトンネル」に入った。祖母は「満員の乗客の顔が花の薄桃色の反射に染まり、ほんの一時だったが、なんだか別の世界に迷い込んだ気がした」。その時、母は「来年はこの桜、見られないかも知れないねえ」と語り、祖母は「なにばかなこと言ってるだ。二人の小せえ子を残して死ぬわけにゃあいぐめえや」と言い、「現実の世界に連れもどすべく」母の手を強く引いた。

しかし、母は翌年の春、桜が咲く前に亡くなった。母が「予言」したとおりになってしまったのである。母が結核を発病したのは、結核の病歴をもつ父と結婚したあとのことなので、祖母は晩年に至るまで「あの娘は結核になるようなやわな女じゃなかっただ」と暗に父への批判を込めて語り続けた。

スイッチバックでの出来事も、祖母と父母と姉弟の五人の「平凡な一家が」かろうじて成立していた最後の場面」として祖母が好んで語った話ではあるが、そこで父がどんなふうに行っていたのか、祖母が伝えることはなかった。

昭和三十年代に鉄道が廃止され、スイッチバックの線路もなくなってしまうが、その後墓地として造成されてからも、スイッチバックの地名は残り、桜の名所となった。

なお、この場面で注意しなくてはならないのは、88～100行目の話が、あくまで祖母から聞いた話だという点である。たとえば、「別の世界に迷い込んだ気がした」という表現も語り手の心情ではなく、その時の祖母の心情である点に注意しよう（二歳の時の語り手がそうしたことを思ったわけではない）。

Ⅳ 父の墓参（110行目「父の墓参を……」～本文末）

五月の連休の墓参りは、ちょうど桜の季節にあたり、花見の家族が十組近く来ていた。

幼い頃、この桜のトンネルを電車に乗って通った家族五人の中で、生き残っているのは姉と語り手の二人だけになった。その電車に乗り合わせた客の中で今でも生き残っているのは何人いるのかと考えると、これまでの人生の記憶が、「あの古風な電車がスイッチバックを往復する間の、ほんのわず

第2回 現代文

【出典】

南木佳士「スイッチバック」（『熊出没注意 南木佳士自選短篇小説集』幻戯書房二〇一二年所収）の後半部分。途中、一部省略がある。初出は「文学界」一九九六年八月号。そのあと『冬物語』（文藝春秋・一九九七年）に収められた作品である。

南木佳士（なぎ・けいし）は群馬県生まれ。医師で小説家。一九八一年、タイの難民医療日本チーム基地に派遣される。同年「破水」で第五三回文学界新人賞を受賞。一九八八年「ダイヤモンドダスト」で芥川賞を受賞した。著書は他に『エチオピアからの手紙』『落葉小僧』『医学生』『山中静夫氏の尊厳死』『阿弥陀堂だより』『冬物語』『家族』『海へ』『神かくし』『こぶしの上のダルマ』『トラヤ』『草すべり』その他の短篇『先生のおさがお』などがある。

「スイッチバック」は、『熊出没注意 南木佳士自選短篇小説集』の「作品の履歴書としてのあとがき」によれば「この年（一九九六年）の二月に父が死んだあとに書いたものだが、長いこと寝たきりだった彼の存在が、長男である身の両肩に絶えず重くのしかかっていたので、正直、気持ちが楽になり、ぐんと元気になってきたころの作品」である。

【本文解説】

本文は、77行目の空行によって、父が亡くなる前後の状況を描いた前半部分と、それから二ヶ月以上経過して五月に墓参りをした時のことを描いた後半部分に分かれている。解説にあたって、さらに前半をⅠ・Ⅱの二つの部分に、後半をⅢ・Ⅳの二つの部分にそれぞれ分けて、その内容を確認していこう。

Ⅰ 父の容態の悪化（冒頭～54行目「……間だけであった。」）

二月初旬の深夜、寝たきりの父を介護していた妻が、「もう限界みたい」と語る。父の介護で妻は疲弊しきって「背をたたたく」と「背骨がくつきりと

掌に触れる」ほどだった。これまでの十数年、義母が父を介護してきたが、この冬は語り手の一家が父を引き取って介護してみた。しかし語り手は、妻だけでなく「家族全員が疲れてきてしまってもうだめだ」と思い、義母に父を引き取ってもらおうと決意した。

ところが、翌朝、父が「眠ったままで起きない」と妻が言う。様子を見に行くと、父は「これまでに見たことのない、微笑しているような、とても安らかな寝顔」で眠っていたので、「このままにして」おくことにした。妻は問い詰めるように「このまま起きなかつたらどうなるの」と聞いてきたが、語り手は、臨床医としていつも「責任」を引き受ける習慣もあり「おれが責任をとるよ」と語る。自分が勤務している病院で患者が起きなければ、あらゆる検査と医療行為を尽くすわけだが、ここは病院ではなく、相手も自分の父親である。さらに、父は苦しがつているわけでもないのに、医者になってから初めて、何もしないのに「責任をとる」と断言した。すると、家族からは特に文句は出なかった。語り手は、うしろめたさと釈然としない思いのまま病院に出かけた。

夕方家に戻ると、父はまだ眠っていた。朝と異なり、喉に痰のからむ音がしている。肺炎を起こしているらしい。気管切開の手術が妥当で、何もしなければ数日で亡くなってしまう症状だが、語り手は何もしなかった。翌朝、父の呼吸が浅くなってきたので、義母の住む「群馬の家」で死なせることにした。義母に連絡し、妻の車の先導で群馬に向かう。途中、浅間山が車窓から見えた。父は幼い頃から見慣れた浅間山の傍の村に帰ってきたのだ。もう二度と父が浅間山を見ることはないのだと思うと、語り手の目にふいに涙が湧いてきた。

Ⅱ 群馬の家で（55行目「群馬の家の……」～76行目「……帰って行った。」）

群馬の家に着くと、出迎えた近所の老婆たちが、妻に「よく面倒みたねえ」などと声をかけた。今まで介護で苦労してきた妻は緊張の糸が切れて、

いるが、「新たな社会常識の必要性」などまったく論じられていない。

②について。本文では、具体的な事例の紹介とその詳しい分析を含め、生理的感覚と社会的な観念と感性の三つの次元での快不快を論じており、「生理的であれ感性的であれ、快不快いずれの場合をも想定している」と「読み取れる」ので、これが正解。

③について。六つの段落の最後が「～である」になっているのは事実だが、いずれの段落もその前に何らかの疑問が提示されているわけではない。したがって、「それぞれの前に提示された疑問への解釈が明晰に示されている」が間違い。

④について。「個人と集団」とでは快不快の基準が異なることを強調している」が間違い。本文では、生理的感覚と社会的な観念と感性の、三つの次元での快不快の基準は論じているが、「個人と集団」という分け方で、快不快の基準の違いを述べているわけではない。

(ii) 文章の構成に関して説明する問題

【本文解説】ですでに示したように、この文章では第1段落、第3段落で具体的な事例を紹介し、その後に「三つの快感の特性について、掘り下げて検討してみよう」と、問題が提起されている。そして、第4段落、第10段落でそれぞれの事例の分析がされ、第11段落、第12段落で「社会学」という観点で人間関係を見ることの重要性が主張されている。

こうした内容に合致している②が正解。

①について。第11段落、第12段落では、「社会学」とはどのような考え方であるかが、まとめられているので、決して「補足部分」ではない。

③について。まず、内容が密接につながっている第2段落と第3段落を区分するのが不適切である。また、第11段落と第12段落は筆者の主張のまとめとして内容的につながっており、ここで区分するのも不適切である。したがって、このように四つの部分に分けられないので、当然「起承転結という関係」にもならない。

④について。「第1段落、第5段落」というまとめ方が不適切であるし、生理的感覚による観点で分析されているので、「事例とその社会常識的な分析」の部分が本文の内容と合致しない。また、第12段落では、「社会学」という考え方が示されているので「第10段落、第12段落では芸術的な分析がされる」という部分も不適切。

問5 傍線部に関する内容を説明する問題

「社会美学」の内容が直接示されているのは、最終の第12段落である。だが、リード文からもわかるように、「社会美学」という考え方は、本文全体の主題である。したがって、第12段落に注目しつつも、本文全体の内容も踏まえて解答の根拠を求めなければならない。しかも段落冒頭で、「社会美学が人と人の交わりのただなかに体験される感性的快に注目する」とあるので、「感性的快」に関しては、「生理的な快」や「観念的な快」との違いを踏まえて読み取らなければならない。こうした点に注意して、第12段落における「社会美学」の内容を確認していこう。

私たちは、日常生活における人と人との交わりの中で「感性的な快不快」を感じることがある。そうした感性的な体験をもたらす日常の社会的状況は、身体・生命の安否に関わる私的で主観的な「生理感覚」でも、社会通念や道徳のように公的で客観的な「観念」でも捉えることができない。なぜなら、感性的な体験とは、「私的でも公的でもない、すぐれて共的な体験」だからである。感性的な体験とは、日常生活において具体的な何らかの場や状況を共にしている他者と、そこで醸し出された雰囲気と共に味わうことで生じる体験である。その体験を感じるのは個々の「私」ではあるが、その場に居合わせた人々が共に感じると、という点で、決して誰かが私的に所有したり消費したりすることのない体験である。しかも、社会通念や道徳に規定されて生じるものでもないため、公的に管理されることもない。感性的快とは、その場その時に生まれた具体的に限定された人々の交わりにおいて、本能的な感覚でも、理知的な認識でもなく、その心地よさを通じて私たちの感性を生き活きさせるという点で、芸術体験のような味わいをもたらすのである。こうした日常生活での社会的状況に注目するのが「社会美学」である。こうした内容から以下のポイントが得られる。

- a 日常生活における具体的な場での人と人の交わりの中で感性的な快不快を感じることがある

- b 感性的な快不快は、個人の生命の安否に関する生理的感覚でも、社会通念や道徳などの観念でも捉えられない

- c 感性的な快不快をもたらす日常の社会的状況に注目するのが社会美学である

こうした内容に即している②が正解。

①は、「その両者（＝生理感覚と観念）を媒介する個々人の感性」が間違い。感性がその「両者」を媒介するといった内容は本文にまったくない。同様に、「他者の行動や外部環境について快不快という判断をする際の基準のありようを考察する」も本文に根拠がない。

③は、まず「社会通念による判断」が「共有できる認識とはなりえない」が間違い。本文では、「社会通念」は物事を客観的に認識する公的な働きをするものとして示されている。また、「芸術体験」が「人間的な感性に根差して」という部分も、本文に根拠のない内容。

④では、「生理感覚」と「社会通念」との間には、「目的意識の追求」という共通点があることになってしまふ。この両者の共通点とは、本文によれば外的な物事を認識するという点であるので、間違い。

⑤は、「生理感覚」も「社会通念」も「それぞれの存続をひたすら追求する」という自己中心的な醜さがある」が間違い。両者は物事の認識において不可欠なものとされており、本文で「自己中心的な醜さがある」と否定されているわけではない。

問6

- (i) この文章の表現に関して説明する問題

評論文におけるこうした問題では、特に文学的な能力や専門的な知識が求められているわけではない。本文の内容や論旨の展開に合致するかどうかで判断すればよい。順番に選択肢を吟味していこう。

①について。「外来語を多用することで、新たな社会常識の必要性を暗示している」が間違い。本文では、日常の社会的状況の捉え方を述べては

問3 傍線部の内容を説明する問題

傍線部の直前に「観念的な快不快をおぼえるとき、人びとの行動やア・ティファクトは社会一般の通念に沿っているかどうか、道徳に適合しているかどうかは尺度となる」とある。また、第5段落でも「社会通念あるいは道徳観念に照らして」適切かどうかで快あるいは不快をもたらすとあり、さらに「未知の物事を既知の物事に組み入れ」ることも含め、「観念の働きは私たちが制度中心のあるいは客観的に事物を認識するために不可欠」だとある。こうしたことから、

a 他者の行動や外部の環境を、既知の社会通念や道徳を基準に適・不適を判断し認識するのが観念の働き

b その観念の働きに応じて快あるいは不快を感じる
というポイントが得られる。以上のa・bポイントを踏まえた説明になっている④が正解。

①は、「社会的感覚に基づいて外部環境が安全か危険かを判断する」が間違い。「安全か危険かを判断する」のは生理的な感覚の働きである。

②は、外界を「客観的な基準で判断すべきだ」が間違い。たしかに生理的な感覚の働きは「主観的」ではあるが、身体・生命の安否の判断には欠かせないものである。したがって、「他者の行動や人工物」に対して、「主観的な生理感覚」を排除し、「社会一般の通念に即しているかどうか」の基準で判断すべきだといった考えは本文で示されていない。

③は、生理的感覚と観念との共通性を述べたものだが、これは、観念の公的性質を強調している傍線部の表現とズレた説明になっている。また、生理的感覚と観念の両者が「快不快という基準で判断する点で共通している」という部分が、「それを『何であるか』として認識する働き」が両者の「大きな共通点」だとする本文の内容に合致しない。

⑤は、「生命維持に関わる快不快を踏まえつつ」が間違い。これでは生理的な感覚の私的で主観的な特性が観念と結びついていることになり、「観念的な快不快はすぐれて公的なものである」という傍線部と矛盾して

しまう。

問4 傍線部の内容を説明する問題

芸術作品とその体験のあり方については第11段落でのみ述べられているので、この段落の内容を確認していこう。

「芸術作品」とは、「作者による主観的な対象化からも鑑賞者による客観的な対象化からも逃れ」「感性的に味わわれるものの典型（本来的なありようを明確に示すもの）」であり、「感性的快」としての「体験」がもたらされるのである。そして、単に一時的に快をもたらすだけではなく、「物事そのものの味わいや質感を捉え続けようとする感性的活性化させていく」点で、「感性的働きを促す典型的な領域」なのである。こうした内容から以下のポイントが得られる。

a 芸術作品とは本来的に、作者の意図や鑑賞者の理解や認識に規定されるものではない

b 芸術は、感性的な快をもたらす

c 芸術作品の体験は、鑑賞者の感性的活性化を促す
こうした内容に合致している①が正解。

②は、「原型としての芸術体験」ではなく、「現代アート」の限定的な説明になっている。しかも「現代アート」が、「鑑賞者に清々しさや活き活きした雰囲気味わわせる」といったことは、本文で述べられていない。

③は、「鑑賞者が自己固有の感性に従い味わう」が不適切。本文では、感性の固有性については述べられてはいない。また「想像力を自由にはばたかせる」も本文の内容とは関わりがない。

④は、「鑑賞者が作品そのものを対象化し」がaに反していて間違い。本文では対象化するという行為は認識を得ることであり、「感性的な快を味わう」とことは直接結びつかない。

⑤は、「統一された観念的な快が得られる」が間違い。「芸術体験」とは、bポイントにあるように、感性的な快をもたらすものである。

主に第4段落、第6段落でより詳しく述べられており、「感性的」な「快感の特性」に関しては、主に第7段落、第10段落で述べられていることを押さえよう。これにより、この設問は、傍線部の前後のみに関連しているのではなく、かなり広い範囲の内容に関わる設問であり、論旨がどのように展開しているのかを、しっかりと読み取ることが求められていることがわかるだろう。

以上を踏まえ、「生理的、観念的」な「快感の特性」と、「感性的」な「快感の特性」の内容を順次確認していこう。

X 「生理的、観念的」な「快感の特性」

生理的感覚の働きは、「私的な個体をとりまく外部環境」を身体・生命にとって危険なものと安全なものにより分ける、「個体中心にあるいは主観的に事物を認識するために欠かせないもの」である（第4段落）。また観念の働きは、「社会通念あるいは道徳観念に照らして適切」かどうかを判断する「制度中心にあるいは客観的に事物を認識するために不可欠」なものである（第5段落）。このように、生理的な感覚の働きは、私的で主観的であり、観念の働きは公的で客観的だという違いがある。だが、対立するように見える両者には、個々の行動や外的な物事を対象化し、それを「何であるか」として認識するという「大きな共通点がある」のである（第6段落）。こうしたことから、

a 生理的な快や観念的な快は個々の行動や事象を対象化し認識することに関わる

というポイントが得られる。

Y 「感性的」な「快感の特性」

私たちは、「個々の行動や物事を対象化して生理感覚的に確認したり、観念的に解読したりするのではなく、状況や場の全体を感性的に味わう」こともある（第8段落）。そこで捉えられているのは、「人びとの交わりの場が醸し出す雰囲気であり、場そのものもつ手ざわりや表情」であり（第8段落）、そうした場の「雰囲気を一挙に掴むことを通して体験」させ

る（第10段落）のが、感性的の働きなのである。こうしたことから、

b 感性的な快は、ある状況や場の雰囲気全体を一挙に掴み味わうことに関わる

というポイントが得られる。以上の a・b ポイントを踏まえた説明になっている⑥が正解。

①は、「生理的感覚にともなう、道徳や社会通念に関わる観念」が間違っている。だが、「生理的感覚」は身体・生命の安否に関する捉え方であり、それにともなって「道徳や社会通念に関わる観念」があるのではない。また、本文では「生理的感覚」や「道徳や社会通念」とは異なる次元のものとして説明されている「感性的」に「痛切に訴える」ということもない。

②は、「感性的な受け止め方の背後には、生理的感覚と社会的通念や道徳に関わる観念が働いている」が不適切。「感性的な受け止め方」に関わる b ポイントに合致しない。

③は、「感性的な不快」が「社会意識に規制されている」が b ポイントに合致していないし、「人間の生理的感覚に基づく公的で客観的な社会意識」も生理感覚を私的で主観的な働きとしている本文と矛盾する。

④は、「この両者（＝生理的感覚と観念）が共鳴するような事象に感性的快感が得られる」が不適切。b ポイントにあるように感性的な快感は雰囲気を味わうことで生じるのであり、a ポイントにあるように、物事を対象化し認識する「この両者」の働きとは次元を異にしている。

なお、今年度のセンター本試験の第1問の問2では、形式は傍線部の理由説明だが、実際には傍線部以前の内容を踏まえた上で、傍線部以降の論旨の展開を読み取らせるといって、かなり広い範囲の読み取りを要求する問題が出題されている。この設問も、こうした傾向に準じたものであるが、幅広い本文の読み取りを求める設問にも対応できるようにしておこう。

品ほどそうした目的意識を超えた、感性的な快として享受者に芸術体験をもたらし得よう。このように、芸術作品を体験することの本来的なあり方は、その作品の意図や目的が「何であるか」を問題にするのではなく、作品そのものを感性的に味わうことである。そして、そうした体験を通じて、芸術作品のみならず、物事そのものの味わいや質感を捉え続けようとするように感性が活性化されていくのである。(第11段落)

感性的な捉え方は、芸術を体験するといった非日常的な場面だけではなく、日常生活においても働く。日常的な社会状況において、私たちは、個々人の身体・生命の安否といった私的な面でもなく、社会通念や道徳といった公的な面でもなく、その場に一緒にいることで生じる人と人の交わりといった「すぐれて共的な」面で、快や不快を体験するときがある。快や不快を感じるのももちろん個々人の感性である。とはいえ、その快や不快は、その場や状況を共有し、同様に感じている他者と相互に浸透しているかのように思われる雰囲気から生じるものである。その雰囲気とそれを味わう感性は、私的に占有されることもなければ、公的な制度や道徳などで管理されたりすることもない。「席ゆずり」の例で言えば、同じ車両に乗り合わせてある光景を目にしたという、「その場その時に生まれた」限定的な人と人との交わりにおいて、「清々しい」体験として享受されるのである。「社会美学」は、「清々しい」あるいは「活き活きしている」といった体験を、(心地よい)あるいは(美しい)という感性的な快という次元で注目し、日常の社会的状況を捉えようとするのである。(第12段落)

【設問解説】

問1 漢字の書き取り問題

(ア)は、「観葉」。「観葉植物」で(葉の美しい色や形を見て楽しむ植物)という意味になる。①は、(緩やかなことと急なこと)あるいは(ゆつくりすることと急ぐこと)という意味で、「緩急」。②は「観測」で、これが正解。③は、「鑑定」。④は、「看護」。⑤は、(権限によって支配すること)。

また、それが及ぶ範囲のこと」という意味で、「管轄」。

(イ)は、(穀類などを発酵させる)あるいは(ある雰囲気や気分を作り出す)という意味で、「醸」し出す。①は、「常温」。②は、「土壌」。③は、(発酵作用を利用して、酒類・味噌・醤油などを作ること)という意味の「醸造」で、これが正解。④は、「蒸溜(溜)」。⑤は、(汚れを除き、きれいにすること)という意味の「浄化」。

(ウ)は、「彫刻」。①は、「克服」。②は、「酷使」。③は、「告示」。④は、「黒白」。「黒白を明らかにする」で、(物事の善悪や、道理をはっきりさせる)という意味。⑤は、「深刻」で、これが正解。

(エ)は、「陶器」。①は、「酔う」。あるいは、うつとりした気分になること」という意味の「陶酔」で、これが正解。②は、「唐突」。③は、「凍結」。④は、「浸透」。⑤は、(今までのやり方をそのまま受け継ぐこと)という意味で、「踏襲」。

(オ)は、(受け取って自分のものにする)あるいは(味わい楽しむこと)という意味の「享受」。①は、(生きていた年数)あるいは(死んだときの年齢)という意味の「享年」で、これが正解。②は、「教養」。③は、「供給」。④は、「妥協」。⑤は、(宴会などで、その場に楽しみを添えるためにする芸)という意味で、「余興」。

問2 傍線部の理由を説明する問題

まず「掘り下げて検討」するのは、傍線部の直前にある「生理的、観念的、感性的という三つの快感の特性」であることがわかる。そして、第1段落・第2段落では二つの事例に即して、すでに「生理的快」と「観念的快」についてふれられているのに、「感性的」な快についてはまだ述べられていないことに注意しよう。こうしたことから、「三つの快感の特性」が実際には、すでにふれられている「生理的、観念的」な「快感」と、これから述べられる「感性的」な「快感」とに分けて扱われていることが推測できるだろう。次に、「生理的、観念的」な「快感の特性」に関しては、

価値があるか否かで、他者の行動や外部環境をいわば理知的に認識し、快や不快を覚える。かりに、未知の物事に会っても、既知の物事の枠組みの中に位置づけ、社会通念や道徳に合致するか否かで、快や不快を感じる。そうした点において、観念は、事物や状況を客観的で公的に認識する働きを持つものである。

本能的で、主観的・私的に働く生理的感覚と、理知的で、客観的・公的に働く観念は、一見対立するように思える。だが、両者には大きな共通点がある。それは、他者による個々の行動や人工的な外部環境など、日常生活において出会った物事を対象化し、それらが「何であるか」を認識する働きをする、という点である。ある物事を、生理的感覚は安全か危険かという基準で対象化し、観念は社会通念において適切か不適切かという基準で対象化し、それぞれの次元において快あるいは不快を覚えるのである。(以上、第4段落～第6段落)

〔Ⅱの後半 感性の働き〕

ただ、私たちは、身のまわりの物事を「何であるか」という認識の次元でだけ捉えているわけではない。「いかにあるか」、言い換えれば、その場の状況や雰囲気を感じ性的な次元で捉える、ということもしているのである。こうしたことを、第1段落で紹介されている「席ゆずり」の例に即して考えてみよう。

高齢者にとって席を譲られることは、身体が楽になるという生理的感覚の次元での快を得られる。また、同じ電車内に居合わせた乗客たちにとって、高齢者への思いやりという社会通念あるいは道徳が実践されているということに、観念的な次元での快が得られる。それだけではない。自分が楽をしたわけでも、自分が行動し褒められたわけでもないのに、「席ゆずり」がなされた場にいるというだけで、「なんだか「清々しい」気持ちになり」感性的な次元での快を覚える、ということもあるのではないだろうか。しかも、こうした気持ちだが、同じ車両に乗り合わせた他の人々にも感じられていることが、周囲の乗客たちの和やかな表情や雰囲気からも感じられる、ということ

もあるのではないだろうか。

これとは反対に、「席ゆずり」がなされなければどうなるだろうか。その場にいた人々は、自分が辛くなるわけでも、高齢者を無視したがゆえに注意を受けたわけでもないのに、「なんだか「重々しい」気持ちになり」感性的な次元での不快を覚える、ということもあるだろう。そうした気持ちだが、他の乗客の、なんだかむっとしているような表情や冷え冷えした雰囲気として感じられる、ということもあるのではないだろうか。

ここで示されている感性的な快や不快とは、個人の身体・生命に関わる生理的なものでも、社会通念や道徳に関わる観念的なものでもない。「席ゆずり」の例で言えば、誰かが高齢者に席を譲るという直接的な関わり合いだけでなく、その場に偶然居合わせた見知らぬ者同士も含め、ある状況や場にいる人々によって、意識的であれ無意識的であれ、なんらかの相互反応が生じる。そうした状況や場における人々の表情や醸し出されている雰囲気、感性的な快や不快を思わず味わってしまうのである。しかもこの快や不快は理知的な分析や解釈によって生じるものではなく、その場全体の雰囲気を一挙に把握することで体験されるのである。

このように、生理的感覚や観念とは異なる感性的な次元で、快あるいは不快を感じてしまうというのは、第2段落で紹介されている、「バリアフリー空間」の例においても同じことが言えるはずだ。(以上、第7段落～第10段落)

Ⅲ 感性的な捉え方の働き(第11段落・第12段落)

感性的な捉え方は、人々の交わりの場に対してだけではなく、芸術作品に対しても働く。絵画や彫刻などの芸術作品は、それを鑑賞する人の身体・生命の安全を維持するものでもなければ、社会通念や道徳に基づいているかどうかで評価するものでもなく、感性的に捉えられ味わわれるものの典型とみなされている。かりに、ある作品に作者の主観的な意図や目的が込められており、それを鑑賞者が客観的に認識し理解しようとしても、すぐれた芸術作

【解説】

第1問 現代文

【出典】

宮原浩二郎・藤阪新吾『社会美学への招待』（ミネルヴァ書房 二〇一二年）の第11章「社会美学と交わりの豊かさ」の一節。途中、省略がある。

宮原浩二郎（みやはら・こうじろう）は、一九五六年、東京都生まれ。一九七四年東京大学法学部を卒業後、しばらく大蔵省で勤務し、数年後に米国へ留学。一九八六年ウィスコンシン大学大学院社会学研究科博士課程修了。『貴人論』『変身願望』『論力の時代』などの著書がある。

藤阪新吾（ふじさか・しんご）は、一九六八年、兵庫県生まれ。一九九四年金沢美術工芸大学美術工芸学部美術学科卒業。その後、宮原ゼミに参加し二〇〇四年関西学院大学大学院社会学研究科修士課程を修了する。小学校美術教諭を務めながら、現代美術家として関西を中心に活躍しており、度々個展も開いている。

【本文解説】

本文は、感性を通じて、人と人との交わりにおいて生じる心地よさを、「美的」な状態として味わうことで、身のまわりの「社会」を捉えようとした文章である。

十二の形式段落で構成されているが、便宜的に、大きく三つに分けて内容を確認していこう。

I 日常生活において快や不快が生じる事例とその着目点（第1段落～第3段落）

電車内で立っていることが辛くなった高齢者は、席を譲ってもらえたら、体が楽になり生理的な快を感じるだろう。しかし、その反対に誰にも席を譲ってもらえなかったら、辛くて生理的な不快を感じるだろう。こうした場面で、快や不快を感じるのは、本人だけではない。その場に居合わせた他の

乗客は、自分の体が楽になったわけでもなくとも、高齢者を思いやるという「道徳的な振る舞い」を目の当たりにし、観念的な快を感じるだろう。逆に、「席ゆずり」がなければ、高齢者に配慮しない人々に不快感を抱くであろう。（第1段落）

「席ゆずり」という個々の行動の例に加え、生活空間の環境整備について、ショッピングモール内のオープンスペースを例にとろう。足の不自由な人にとって、配慮の行き届いたフラットなバリアフリー空間は、段差や障害物に妨げられることなく移動でき、気軽に身体を休めることができたために、生理的快を得ることができるといえる。こうした空間に居合わせれば、特に身体的な不自由さのない人々もまた、バリアフリーの空間を提供している立場にある人々の道徳的配慮を読み取って観念的な快を覚えるだろう。逆に、日常生活において利用しなければならぬ空間や通路に、物が乱雑に置かれたり、いくつもの段差や凹凸がある場合には、足の不自由な人が動きにくく生理的に不快になるだけではなく、同じ空間に居合わせている人々もまた、手入れの不足や配慮のなさを読み取り、観念的な不快を覚えるはずだ。（第2段落）

こうした事例のように、個々の行動や生活環境といった外界に対して、われわれが快や不快を感じるとき、何をどのように捉えているのだろうか。すでにふれた生理的あるいは観念的な捉え方のみならず、感性的な捉え方も含め、三つの捉え方の特性について、より詳しく検討してみよう。（第3段落）

II 生理的感覚と観念および感性による外界の捉え方（第4段落～第10段落）

「IIの前半 生理的感覚と観念の捉え方」

生理的感覚は、自らの身体・生命維持にとってプラスかマイナスか（＝安全か危険か）を基準に、他者の行動や外部環境をいわば本能的に区分し、快あるいは不快を感じる。その点において、生理的感覚は、事物や状況を主観的で私的に認識する働きを持つものである。

一方、観念は、制度化された社会通念や道徳に照らし適切か否かあるいは

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

© Kawaijuku 2014 Printed in Japan

無断転載複写禁止・譲渡禁止

手引(国地公)